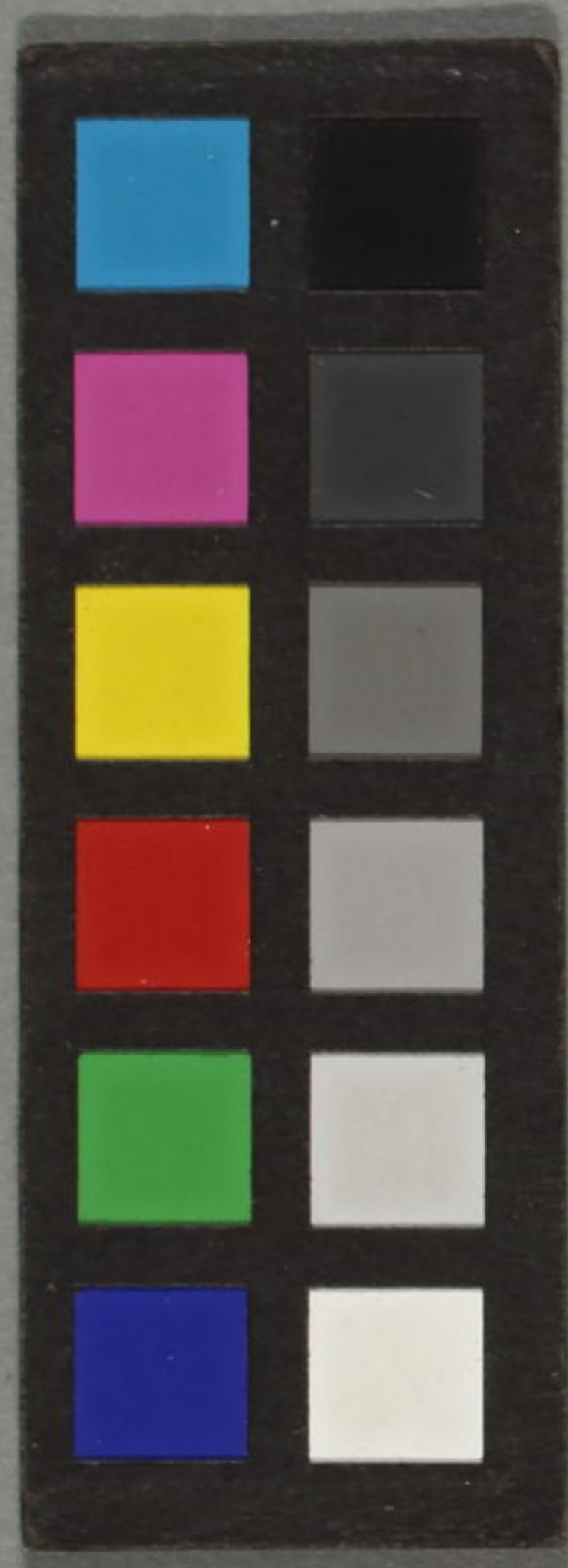
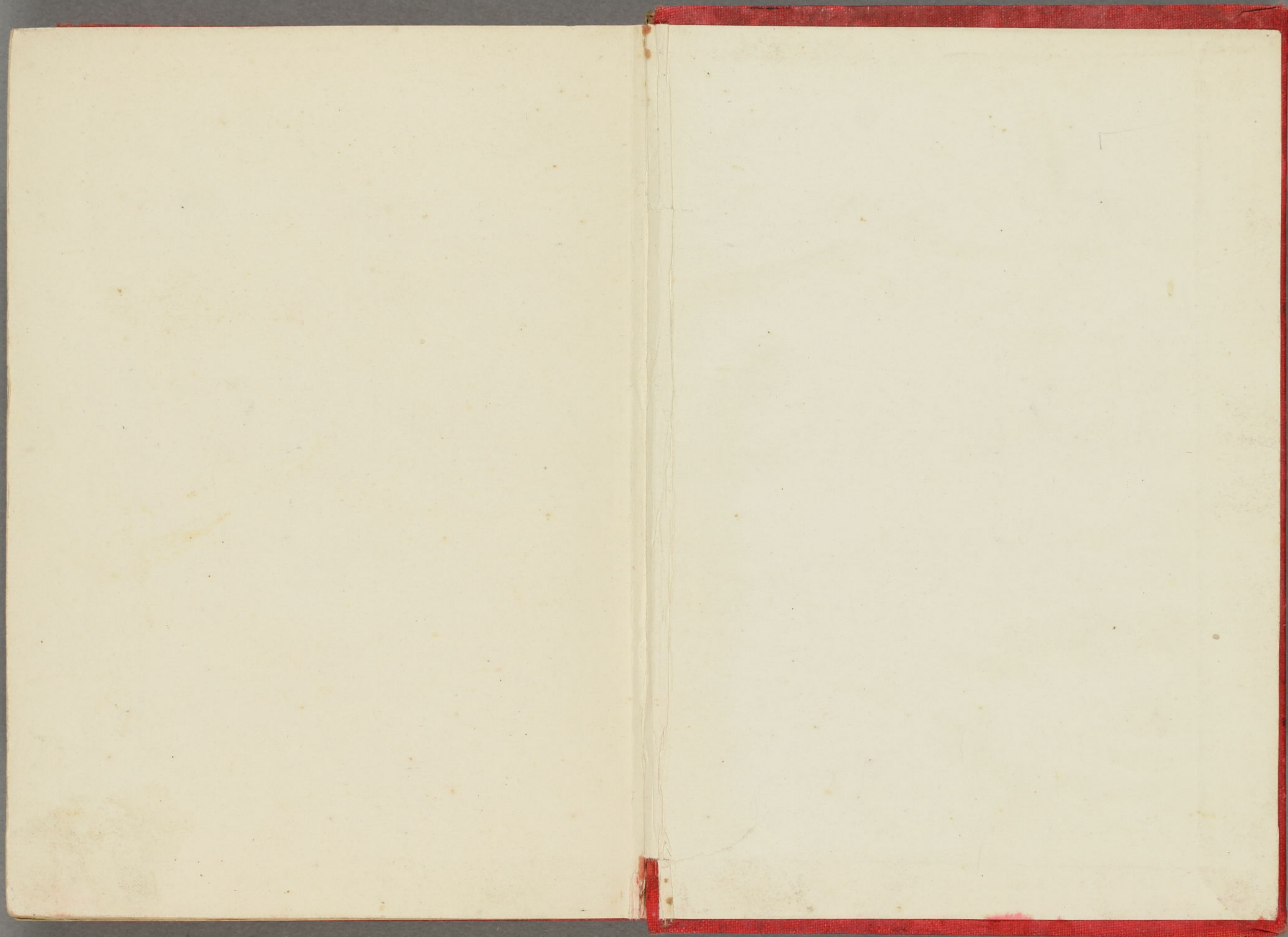


癸卯  
日記



早稲田大学図書館  
文書 27  
A 110





神武天皇紀元二千五百六十三年  
西曆紀元一千九百三年

(癸卯)

明治三十六年  
當用日記

持主

# 明治三十三年七月一日覽

1903	S M T W T F S							明治三十三年	S M T W T F S						
	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
JAN. 一	4	5	6	7	8	9	10	JULY 七	5	6	7	8	9	10	11
FEB. 二	1	2	3	4	5	6	7	AUG. 八	2	3	4	5	6	7	8
MAR. 三	1	2	3	4	5	6	7	SEP. 九	6	7	8	9	10	11	12
APR. 四	5	6	7	8	9	10	11	OCT. 十	4	5	6	7	8	9	10
MAY 五	3	4	5	6	7	8	9	NOV. 十一	1	2	3	4	5	6	7
JUNE 六	7	8	9	10	11	12	13	DEC. 十二	6	7	8	9	10	11	12

## 皇室

百二十一代	今上天皇 御名 睦仁						
孝明天皇第二皇子	故從一位一條思香第三女						
皇太后	皇太子妃 御名 節子						
皇太子	子 御名 嘉仁						
昌子內親王	御生誕 明治十二年己卯八月廿一日						
房子內親王	御生誕 明治二十一年戊子九月三十日						
九子內親王	御生誕 明治二十三年庚寅一月二十八日						
八子內親王	御生誕 明治二十四年辛卯八月七日						
九子內親王	御生誕 明治二十九丙申五月十一日						
裕仁親王	御生誕 明治三十四年辛丑四月二十九日						
雅仁親王	御生誕 明治三十五年壬寅六月二十五日						

皇族

宮川白北	宮見伏	宮松小			宮川栖有			山階宮			
勳一等 御母故大勳位 威仁親王妃	勳一等 妃	大勳位 功三級	勳一等 妃	大勳位 功五級	勳一等 妃	大勳位 功二級	勳一等 妃	大勳位 功四級			
富子	成久王	利子女王	貞愛親王	依仁親王	頼子	彰仁親王	董子	威仁親王			
御生誕	御生誕	御生誕	御生誕	御生誕	御生誕	御生誕	御生誕	御生誕			
文久二年壬戌 閏八月八日	明治二十年丁亥 四月十八日	安政五年戊午 五月二十一日	安政五年戊午 四月二十八日	明治九年丙子 八月二十九日	慶應三年丁卯 九月十九日	嘉永五年壬子 六月十八日	弘化三年丙午 正月十六日	安政二年乙卯 五月十二日	元治元年甲子 二月八日	文久二年壬戌 正月十三日	
宮頂華	宮本梨	宮邇久	宮陽賀	宮院閑	山階宮						
勳二等 妃	勳二等 妃	勳一等 妃	勳二等 妃	勳一等 妃	勳一等 妃	勳一等 妃	大勳位 功四級	勳一等 功五級			
郁子	經子	博恭王	伊都子	守正王	伊子	邦彦王	好子	邦憲王	智恵子	載仁親王	菊麿王
御生誕	御生誕	御生誕	御生誕	御生誕	御生誕	御生誕	御生誕	御生誕	御生誕	御生誕	御生誕
嘉永六年癸丑 八月五日	明治十五年壬午 九月廿三日	明治八年乙亥 十月十六日	明治十五年壬午 二月二日	明治七年甲戌 三月九日	明治十二年己卯 十月十九日	明治六年癸酉 七月二十三日	慶應元年乙丑 十月二十日	慶應三年丁卯 六月初日	明治五年壬申 五月二十五日	慶應元年乙丑 九月二十二日	明治六年癸酉 七月三日



雪中竹

御製  
皇后宮  
東宮御歌  
東宮妃  
御歌

この上にいくへふりそふ雪ならむ  
たかむら高くなりまさりつゝ  
よの程のあらしはたえてくれ竹の  
雪しつかにもあくるそらかな  
ふりつもるまかきの竹のしら雪に  
世のさむけさを思ひこそやれ  
限りなき君かちとせもこもるらむ  
たけの御山にふれるはつゆき

# 明治三十六年日曜大祭祝日表

凡例  
 一、月々の年中行事○花鳥春秋○漁獵案内○節物時令○食品月令○名家の詩歌俳句等を其月々の書始めに分載記入せり日記書入の際須らく之を熟覽ありて其要務を辨じ玉ふべし

祝日大祭日	
● 神武天皇祭	四月三日
● 秋季皇靈祭	九月下旬
● 神嘗節	十月十七日
● 天長節	十一月三日
● 新嘗祭	十一月廿三日

神武天皇即位紀元二千五百六十三年 西紀元一千九百二十三年

祝日大祭日	
● 四方拜	一月一日
● 元始祭	一月三日
● 孝明天皇祭	一月三十日
● 紀元節	二月十一日
● 春季皇靈祭	三月下旬

凡例  
 一、月の大小○彼岸○甲子○庚申○己巳○冬至○大寒○小寒等の時令を附すべきはなれど略暦に類似するを以て都て省く又日記の下段に單に元年二年と記しあるは都て明治現代の重要記事と知るべし

日曜表	
七月	五日 十二日 十九日 廿六日
八月	二日 九日 十六日 廿三日 三十日
九月	六日 十三日 二十日 廿七日
十月	四日 十一日 十八日 廿五日
十一月	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
十二月	六日 十三日 二十日 廿七日

日曜表	
一月	四日 十一日 十八日 廿五日
二月	一日 八日 十五日 廿二日
三月	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
四月	五日 十二日 十九日 廿六日
五月	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日
六月	七日 十四日 廿一日 廿八日

# 天皇御歴代

神	綏	安	懿	孝	孝	孝	孝	孝	開	崇	垂	景	成	仲	應	仁	履	反	允	安	雄
武	靖	寧	德	昭	安	靈	元	化	神	仁	行	務	哀	神	德	仲	正	恭	康	略	武
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
清	顯	仁	武	繼	安	宣	欽	敏	用	崇	推	舒	皇	孝	齊	天	弘	天	天	文	武
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
元	元	聖	孝	淳	稱	光	桓	平	嵯	淳	仁	文	清	陽	光	宇	醜	醜	醜	泉	武
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
明	正	武	謙	仁	德	仁	武	仁	德	仁	德	明	和	明	德	和	成	孝	多	淵	泉
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
元	元	聖	孝	淳	稱	光	桓	平	嵯	淳	仁	文	清	陽	光	宇	醜	醜	醜	泉	武
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
圓	花	一	三	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	德
四	六	六	六	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	八
融	山	條	條	條	條	泉	條	河	河	河	河	河	河	河	河	河	河	河	河	河	德
八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	一
五	五	五	五	五	五	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	一
仲	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	一
八	八	八	八	八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	一
恭	河	條	條	條	條	泉	條	河	河	河	河	河	河	河	河	河	河	河	河	河	一
一	一	一	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一
后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	后	一
一	一	一	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一
成	尾	正	明	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	一
一	一	一	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一
成	尾	正	明	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	一

萬  
 今  
 歲

(愨蕭) 臺露上光榮。鼎寶生雲瑞

寒 暖	天 氣	日	月	己 丑	木 曜
信 發	信 受	<p>四方拜</p> <p>山前飾松竹加賀若如潮來况有新          瑞就旭光東海邦          清宮展芳樹如春          山草結露在          三山松竹          可三在英國多スウ大也子松竹子豊子梅子          是女雪母在大殿</p>			

(年五文天) る生吉秀臣豊

月

三

寒 大 (節の 月中二十同)

月

寒 小 (節月二十曆陰)

年中行事

せられ、皇太神宮以下の諸神、神武以下は  
 諸陵を拜したまふ。○民間にても屠蘇餅  
 を祝ひ、日を定めて宮城に朝賀す。○高  
 官の人々日を定めて宮城に朝賀す。○高  
 元始祭とて、祖宗皇靈を祭らせ玉ひ。○四  
 は政事始あり。内閣に臨御す。○五日は新  
 會にて皇族大臣以下に酒饌を賜ふ。例に  
 七日は御講書始。御學問所にて侍講の進講  
 を聞しめさる。○八日は陸軍始。練兵場  
 觀兵式あり。○歌御會始。定日はなけれ  
 多。孝明天皇の御祭を行はせらる。○消  
 は孝明天皇の御祭を行はせらる。○消  
 故に此日迄を松の内と稱す。○十六日、  
 て男女の雇人一日の暇を得て思ひ。○初  
 日)は未明より龜井戸に詣つ。○小寒の日(三  
 月上旬)即寒の入なり。

新 年 近 藤 芳 樹  
 人皆の迎ふる年を身一つの野かな  
 喜ひ顔に祝ふ今日かな  
 辛酉元旦 頓覺人間氣霧消。湖  
 新逢寶曆辛酉。神皇即位是今朝。山  
 仰想三千年上事。伊丹鬼貫  
 鳥の聲雨あら玉の年立かへる  
 はつ夢のよき歌うらや三ヶ日

花鳥春秋

初日出○湯島天神、神田明神  
 愛宕山、芝浦、州崎、繪の島  
 雪見○待乳山、向島、御茶の水、上野、愛  
 宕山、日枝神社、大森

節物時令

初鷄○初烏○初そら○初日○  
 初年○新年○若水○初手水○吉方参り○蓬  
 萊○門松○松かさり○かざり竹○根松○藪  
 柑子○橙○喰つみ○松の内○福壽草○屠蘇  
 ○雜糞餅○太箸○初曆○御慶○年賀○とし  
 玉○寶船○初夢○初荷○書初○諺初○萬歳  
 ○三ヶ日○若菜○羽子○手鞠○寒の入○寒  
 念佛○寒聲○寒梅○盆梅○春隣○雲○やぶ  
 入○初卯

食品月令

白魚○鯉○鮒○はぜ○大口魚  
 ○鯛○芝ふび○伊勢ふび○烏賊○章魚○牡  
 蠣○蜆○雁○鴨○家鴨○菜○陸芹○若海布  
 ○蜜柑○からすみ○其他總て鳥獸肉は、皆  
 此月の好味なり

(宗太唐) 風春入帶暖。雪冬去辭寒

寒 暖	天 氣	日 三 月 一	辛 卯	土 曜
信 發				元 始 祭
信 受		小 信 禮 者 訂 留 長 樂 人 坊 主 也 也		
		此 山 田 地 名 也 其 名 曰 打 甲		

(年五) ふ行を祭始元て始

(坡野) なか慶御る來て名の親が松長

寒 暖	天 氣	日 二 月 一	庚 寅	金 曜
信 發				一 月
信 受		松 ノ 前 地 名 也 其 名 曰 松 ノ 前		
		今 日 の 朝 拜 者 衆 院 朝 拜 因 微 恙 脚 跡 之 痛 不 能 着 大 禮 服 不 參 長 松 山 下 保 夫 朝 拜 者 余 未 磨 練 三 献 今 日 頭 痛 森		四

(年五) す内參賀朝て始使公の國外諸





(錫禹劉) 低綫綠風當柳楊。濕脂燕雨帶桃櫻

火曜	甲午	一 月 六 日	天氣	寒暖
早起者あり	上朝大儀指し品お荷固りせあり	午後石室より新抄事畢三回拜大儀の息	竹女四より注射解熱吐痰白じおたけ	口白苔の外舌眼赤赤成り老弱病弱
信受	夜に入り雨降る一月	来姓雨	竹女夜自然汗	熱言減却

(年元) む止を眉黠齒涅ノ痢公

一月

八

(來寸) きしくつう月正の雪椿赤

水曜	乙未	一 月 七 日	天氣	寒暖
依	夜に入り雨降る一月	来姓雨	竹女夜自然汗	熱言減却
信受	夜に入り雨降る一月	来姓雨	竹女夜自然汗	熱言減却

(年八廿) ぐ學を式告宣立獨王國鮮朝

一月

九

(諺丁拉) シナトコルツ壁ハノモル在ニ地

寒 暖	天 氣	日 九 月 一	丁 酉	金 曜
信 發	道孫(り)下(り)副(り)を(り)ふ 今夕(り)通(り)大(り)便(り)			
信 受				

月

11

(年六) 寸殂世三ンナレボナ帝廢佛

(孫集徐) 壺丸挿花梅買旋。屋茅標板桃蓮漫

寒 暖	天 氣	日 八 月 一	丙 申	木 曜
信 發				
信 受				

月

10

(年八) む定を齡學の徒生學小

(子孔) ズレ畏ハ者勇ズハ惑ハ者智

寒 暖	天 氣	日 曜	己 亥	一 十 月 一
信 受	信 受	信 受	信 受	信 受
一 月	一 月	一 月	一 月	一 月
一 三	一 三	一 三	一 三	一 三

於一面... 下... 夜...  
 十時... 子... 雨... 雲... 母... 抱... 毛... 行... 子... 去... 院... 寺... 大...  
 車... 九... 舞... 生... 上... 二... 圓... 月... 荷... 物... 二... 箇... 法... 布...  
 午... 女... 堀... 江... 女... 按... 存... 身... 智... 治... 積...  
 大便... 快... 通...  
 竹... 子... 穿... 庭... 草... 做... 淋... 衣... 在... 成... 坊...  
 晚... 方... 一... 回... 少...  
 宿... 廣... 宗... 之... 七... 得... 之... 法... 方... 以... 獲... 智...

(年一卅) る成閣内藤伊 (年二廿) 轉移御城宮

(誰阿) き白もおも鍋手やるこむるぬ水

寒 暖	天 氣	日 曜	戊 戌	一 十 月 一
信 受	信 受	信 受	信 受	信 受
一 月	一 月	一 月	一 月	一 月
一 三	一 三	一 三	一 三	一 三

其... 升... 代... 來... 奉... 以... 飲... 飯... 田... 中... 也...  
 之... 也... 一... 性... 暖... 系... 多... 然... 之... 亦... 乃... 乃...  
 竹... 子... 履... 履... 履... 履... 履... 履... 履... 履... 履...  
 目... 鼻... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上...

(年二卅) ず堯王親内子喜多

月曜 庚子

日二十月一

寒暖 晴 天氣

信 發

竹の子の葉が青々として、昨午は好雨申す甲白  
 宛家市中に和人の皆々元氣あり  
 女は按察事未及午迄存  
 十時梅冬は遠く初極の籠に重  
 正月代夜に花力一  
 梅子午の房は体温三十六に  
 七の七に視力有御正科口  
 右の房は方暖大小花にマヒ  
 歌神の森に少く後和

信 受

(年十三) 御崩后太皇照英

一月

一四

火曜 辛丑

日三十月一

寒暖 晴 天氣

信 發

梅一回流  
 小磯橋本別荘新築梅台  
 金身急降細細紅心  
 食室に急降急降急降  
 竹海山寺の山田寺  
 木修己眼科三村月  
 竹添伊勢守の松山  
 三つて千の松木堂  
 夜みるゆり

信 受

(年元治正) 寸薨初頼源

一月

一五

(蕉芭)でまることぶ轉に見雪ばらゝさい

(鵬方)聞新半話清來客。事舊多思閑去老

寒 暖 廿四	天 氣	日五十月一	癸 卯	木 曜
--------------	--------	-------	--------	--------

寒 暖	天 氣	日四十月一	壬 寅	水 曜
--------	--------	-------	--------	--------

信	發	日 本 決 出 株 三 月 信 令 以 上 所 年 一	信 受	大 八 治 信 半 風 お わ ち か り し る 事
朝 橫 濱 色 ヲ 探 奇 ヲ 真 鴨 三 羽 北 東 西 園 經 画 活	伊 藤 春 前 の 鴨 一 双 の 書 板 を 送 中 の 新 詩 を 對 し 使 也 是 年 中 の 書	唐 宋 元 七 律 の 海 外 打 遊 心	曉 念 故 多 情 移 物 最 車 火 八 已 無 味 の 東 博 多 の 水 交 卸 著 美 白 菜 其 一 也 其 一 は 鶴 子 の 西 陣 著 地 と 鶴 子 の 持 美 大 八 治 の 信 半 風	日本決出株三月信令以 上所年一 大八治信半風 おわちかりしる事

信	發	清 婦 此 夜 天 明 見 上 學 來 大 電 の 老 人	信 受	巨 嶽 似 鏡 甲 自 海 相 並 授 福 老 心 人
之 是 福 之 信 傳 記				

一月 庚子年 午前十時 四十分 午後四時十分 一七

一月 一六

(年元) 服元御皇天上今

(年四十) 置を兵憲に内部軍陸

(王憲周) 風夜昨花殘地滿。雨朝今水新池一

土曜 乙巳 一十月七日 天氣 雨 寒暖 甚

朝日曇り頭針跡痛の木材  
 午前三島子西村来昨、東高、来磯甚寒  
 氣未可驚也云々  
 女按摩来、自午前、イ、子、所、五、時、以、テ、  
 午後、去、時、降、雨、来、時、天、及、夕、止、月、並、降、雨  
 来、今、日、三、旬、保、始、有、雨、東、京、ハ、雪、止、  
 此、三、逆、上、降、下、セ、ン、可、加、具、一、可、加、具

信 發

信 受

貞亮、午、來

一月

一九

(年元應慶) む止を兵の長征府幕

(柳川) きなに月は子ゝまに花は母ゝま

金曜 甲辰 一十月十六日 天氣 寒暖 甚

朝九、八、時、及、車、泊、京  
 彩雲、天、氣、少、雪、已、冷、數、時、凍  
 頭、針、跡、痛、シ、午、後、一、時、車、見、來、又、後  
 右、肩、背、之、痛、如、拳、杵、擣、痛、事  
 午、飯、食、支、即、甘、膏、煎、少、鴨、ヲ、入、レ、テ、食、又、下  
 午、一、時、來、病、梅、子、ヲ、ク、マ、ニ、平、飯、一、回、ヲ、許、  
 豊、子、ハ、平、飯、亦、ハ、梅、本、水、菜、福、胃、可  
 ト、セ、リ、ヤ  
 晩、方、女、按、摩、来、極、大、ハ  
 梅、子、貞、亮、ニ、午、來、子

信 發

信 受

一月

一八

(年二應承) る成道水の川玉

(アービスグエシ) プラアニ人フ行ハ人フ言

寒 暖	天 氣	日 九 十 月 一	丁 未	月 曜
信 發	夕夕雨	今朝ハ氣分不佳道トクク 朝誰屋ハキクノイハ梅子昨ハ殺熱ヲ報 昨日歸京ハ追意ニシテハ 午前土時電報昨日返来ハ 午後梅麻子来ニ在九時此ハ道六田三四 進ニ腰束、梅子ヲ病察 晩發後ヲ廿二 夜ハ時次ニ換テ		
信 受				

(年二十保享) 才殺徠祖生荻

一  
月

三

(蕉芭) 雪の朝今しべるおも人くゆ根箱

寒 暖	天 氣	日 八 十 月 一	丙 午	日 曜
信 發		梅子午後若熱三十七ト云 忽々三十八トハ云々減 按解平来。子供等 運脚出ツ 山前三井、別山此基趾ヨリ觀山五鴨立次海邊散步 富山日雪如玉又其南相根日金峰造ノ峰頂ハ 所来白雪新降 景色 清隼而多火機、地 美、晴々		
信 受				

(年元延萬) 才遣派に國米を節使てめ始府幕

一  
月

110





(壁素) ぬしか動を花のづろよ輪一梅

寒 暖	天 氣	日三十二月一	辛 亥	金 曜
信 受	午後三時、井の邊、治癒、 在、上、山、屋、任、掛、外、 内、山、下、の、徳、寺、 再、山、上、の、酒、合、 香、港、一、年、在、 信 受			

(年二) 寸奏上を還奉籍藩りよ藩四の肥土長薩

一月

二五

(普陳) 清魂夢枕方華露。冷骨詩窓滿色月

寒 暖	天 氣	日二十二月一	庚 戌	木 曜
信 受	山田、梅、 中、夜、 大、 信 受			

(年六十長慶) 寸卒久義津島

一月

二四

(節全吳) 濤松起韻清根耳。露草看榮浮底眼

寒 天 日 土  
暖 氣 一 四 十 二 月 一 壬 子 曜

信	發	一	月
<p>大工天のり諸君を南極高橋を          若村屋貞角を呼びカラス障子八枚          又御さ八枚五十二圓</p>			
信	受		
<p>遠く家校より書状松洋行随行者          山中岩を来り中家新の造匠に          書封封書金三と云ふ          夜下八枚良々自こまハ清海了          帝鑑園後流里松松</p>			

(年八廿) 寸墓下殿王親仁熾川栖有

(更關) 夕歸鶴を中の霞や汐しさ

寒 天 日 日  
暖 氣 一 五 十 二 月 一 癸 丑 曜

信	發	一	月
<p>天神像と掛け美拜</p>			
信	受		
<p>夕夕を身しきると平河の神の          新四の置の海          眼帯一物二物</p>			

(年八廿) 寸布公を例條軍民國 (年元喜延) 寸謫を眞道原菅

(ル-ボ) ンラタ豚口寧ハリヨナナ識無テ富

寒 暖	天 氣	日七十二月一	乙 卯	火 曜
信 受				
信 受				

寅次不快病初婦林以持米 屠う春  
 未收新りかき湯泉和食を以て故富  
 泊任し多し 晩食お飲はさす後持以  
 東坡乃社出湯先は初能あり

一月

二九

(年九廿) す決可を廢全止停行發の例條聞新てに院議衆

(川伊程) 成不事何到一精。透亦石金處發氣陽

寒 暖	天 氣	日六十二月一	甲 寅	月 曜
信 受				
信 受				

雨  
 予前十時一月に山岳、新航ヲ航後二時  
 夜代移り多し修路す  
 常盤橋廿身始り理茶改す  
 日本橋通り下り自島村料理屋へ晩食はも  
 田進雨故に寛治あり

一月

二八

(年九十) く置に幌札を廳道海北

(珪庭王) 奇下天爲要子男。事家公了不兒癡

水曜

丙辰

日八十二月一

天氣

寒暖

一月

雨 雪と不雪

物子不誠出住旅子貞亮之由と来ん

一ノ月二ノ年ノ葛飛と葛根と合と

白川の親王の御傍御書式

中村元権青山ノ葬式ノ御傍

可三命ノ多ス干十二月七日發信お書じす

洋細て迎況中乗へ早送共代ノ法儀等

川村正治宣次来夜と先つおの祈

信發  
午後三時より知書  
乃湯の事と書付

信受

三〇

(年八廿) リあ式葬國御王親仁熾宮川栖有

(山來) 花の梅ずらのも唄小も線味三

木曜

丁巳

日九十二月一

天氣

寒暖

雨

一月

翔へのおの梅樹子馬針おやの夜も  
多身と不雨と地也時村湯原

午後三時一ノ井最終進と納ノ物書

新進入也何んれ上者かかかか結果

徳方と夜と来り右料面會

切進和房温泉入り御傍御書

おやと三年、九月お熱帯五月四月

及不西切、中書ノ山火夜也、鮮也

信發  
あつた事用あり  
三十七日と書

信受

梅子と書付

三一

(年五廿) す布公を令戒像

(名失) 來人逐月明間松。去暑驅風好畔池

寒 暖	天 氣	日 十 三 月 一	戊 午	金 曜
信	受			
信	受			

孝明天皇祭 國標を以て祭祀

一月

三三

(年十三) るは行を祭年式御年十三皇天明孝

(考支) 花の梅てひよかや脈に枝片

寒 暖	天 氣	日 一 十 三 月 一	己 未	土 曜
信	受			
信	受			

ねんて飛雪片に此は江の初雪なり  
 建具の屋敷に南の風が吹くは初雪なり  
 一と云ふはかえりや東の風は四時より吹く  
 晩方高橋程地へ果ては夜おき入る夜は身解  
 養者有るはあまのこのおやちや夜は身解  
 世に三日の月影をよみてはるまじき

一月

三三

(年八廿) す着に品字章鴻李使和媾國清

(吉保) るしは下汁雪の篠や原石

日 曜	庚 申	二 月 一 日	寒 暖	天 氣
信 受				
信 受				

昨日の雪未消。建具の屋敷のラスト四枚  
ヨリ南東ハ枚全リ成工  
午の刻ニ時一井ハ雪ハ不在也  
葉ノ敷ハ消テ。帰途四日士見  
未田、草草可吐才公時八十二高  
事教ス長政モ帰也  
阿留かや見舞と来ル

二月

三五

(年八廿) るらせ任に臣大理辨權全和媾國清奧陸藤伊

立 春 二 月 (節月正曆陰)  
雨 月 二 (節月中月正同)  
水

二月

年中行事

十一日の紀元節は、神武天皇御即位記念の佳辰なり、陰曆にては正月朔日なりしを陽曆によりて此日に改めらる。此月初の午の日を初午とて、諸所の稻荷の神を祭る、今年には十一日なれば二十三日の午なり。○一日は河内の枚岡神社、日向の鶴戸神社祭、並に官幣大社なり。○二十四日は四條畷神社祭なり。○立春(此月上旬)より初めて春となる、梅花漸く東風に綻ふべし。

春立ける日 源 俊 頼  
春のくるあしたの原を見渡せば 霞もけふそ立初めにける  
梅花絶句 梅 凝 上人  
星月晶々夜氣澄。暗香微撲佛龕燈。  
一株擎雪紗窓外。瘦影疑他斷臂僧。  
さりながら梅にはしまる月夜哉 野 水  
律 師 李 由  
下萌の氣色をけすや春の雪 小 春  
女出て鶴立つあとの若菜かな

花鳥春秋

梅 〇龜井戸臥龍梅、小村井江東梅、木下川梅園、向島百花園、淺草公園、上野公園、靖國神社、芝公園、關香園、蒲田梅園、小向井村、吉野村、杉田

節物時令

節分 〇立春 〇初春 〇梅 〇白梅 〇紅梅 〇探梅 〇看梅 〇春の雪 〇淡雪 〇雪解 〇殘雪 〇春風 〇東風 〇餘寒 〇初午 〇紙鳶 〇初霞 〇月梅 〇椿 〇鶯 〇初音 〇白魚 〇海苔 〇紀元節 〇下萌 〇初雷 〇青麥 〇早わらび 〇菫花 〇つば菫 〇根芹

疎影橫斜水清淺。暗香浮動月黃昏

うくひすの初音は親の意見より 眞 顔  
きけは身にしむ春の朝起 行 重

雪ぼとけさとの花の春なりと きて本來空に赴く

食品月令 鱒 〇ほしかれひ 〇いか 〇春菊 〇土筆 〇路のとう 〇鶯菜 〇其他多く一月に同し

三四

・(蕉芭) なか路山る出の日とつのに香か梅

二月

月曜 辛酉 二月二日 天氣 寒暖

晴  
 梅賦林来風のり相梅の木三七日日銀  
 造り命  
 山下源太来れ七日香港麦恥の定り  
 上杉伯来初中保精るる書本長陽行の概  
 大八此田高會ヨリ米田町七百廿五ノ傳  
 器ヲ買収契約セリ先村王新松第一申  
 晚天和書院集法辨論の進落有下書  
 大八借樂園に於て山下  
 一書を伝す  
 信發 快飲せり  
 信受

(年七廿) く開に里巴を議會生衛國列

三六

(諺ヤピラア) シ難リタ醫良ハ人ノ病無

二月

火曜 壬戌 二月三日 天氣 寒暖

信發  
 多生平泉涉者  
 信受  
 昨夜雷雨降り、野陣雲成り、江戸  
 大大雪あり、園林一白く、形貌を識又す  
 電報塔為非常に破壊す  
 おゆよと云ふ  
 大八昔昔為南宮に有る松林の根也  
 仙の法要来るといふ  
 御の雪より、石の底を穿て、  
 晩方山中を結ら、不束。大八山中を物  
 出する  
 信受

(年四) く設を線信電に底海の間本日那支

三七



(玩素) る替又のび遊や空じるぬ水

水曜	癸亥	二月四日	天氣	寒暖
信 發				
天八赤松軒一の電流ヲ百三十箇馬烟氣 致し業田商會金名ノ後ナ 所初セリ 大八赤松軒一の電流ヲ百三十箇馬烟氣 致し業田商會金名ノ後ナ 天八赤松軒一の電流ヲ百三十箇馬烟氣 致し業田商會金名ノ後ナ 天八赤松軒一の電流ヲ百三十箇馬烟氣 致し業田商會金名ノ後ナ				
信 受				

(年六十祿元) ふ賜を死に等雄良石大

二月

三八

(臺曉) 月の春し如の煙りよき暗

木曜	甲子	二月五日	天氣	寒暖
信 發				
天八赤松軒一の電流ヲ百三十箇馬烟氣 致し業田商會金名ノ後ナ 所初セリ 大八赤松軒一の電流ヲ百三十箇馬烟氣 致し業田商會金名ノ後ナ 天八赤松軒一の電流ヲ百三十箇馬烟氣 致し業田商會金名ノ後ナ 天八赤松軒一の電流ヲ百三十箇馬烟氣 致し業田商會金名ノ後ナ				
信 受				

(年八廿) す沈撃を遠威。遠來艦敵隊艇雷水我

二月

三九

(草丈) なかりせ田るげ逃のうせどと事が我

土曜 丙寅 二 月 七 日 天氣 寒 暖

信	發
泊	航
三	六
三	三
日	本
三	月
十	日
廿	八
日	本
廿	三
日	本
廿	一
日	本
廿	一
日	本
廿	一
日	本
廿	一
日	本
廿	一
日	本
廿	一

二 月

四 一

(年元暦元) ふ戦に谷一と氏平經義源

(批柳) 毛燎如易之墜覆。天升如難之立成

金曜 乙丑 二 月 六 日 天氣 寒 暖

信	發
大	八
八	日
廿	三
日	本
廿	一
日	本
廿	一
日	本
廿	一
日	本
廿	一
日	本
廿	一
日	本
廿	一
日	本
廿	一
日	本
廿	一

六平經平 大夜東

二 月

四 〇

(年一十) む定を章緘の囊封書國

(之退韓) 隨于毀思于成行。嬉于荒勤于精業

寒 暖	天 氣	日 曜	丁 卯	二 月	八 月	二 日
信 發	可言下り我ホ親之托テ悔休事ハ一讀 心皆聚 川村平年水集を彩ヒ陰神ニ洗ハ好男 梅本ハ公法業を志シ今始メ修メ 山子山中リ均表。日本後身ヲ似子池教ハ 午後孝子和書ハ所切違ヒハハ流海ハ 大八杯事ヲ天國ノ事ニテ多ク支那 上層ヲモテ多ク公法業ヲ志シ書ヲ来 大城下山子孝子志ヲ志シ書ヲ来 馬在後流ハ右眼 珠多ク来リ					信 受

二月

四二

(年三十) ろらせ布公を法成構所判裁

(輪一) 枝ぬら知の驚だま輪一梅

寒 暖	天 氣	日 曜	戊 辰	二 月	九 月	二 日
信 發	梅本集 午後筆ハ秋裁来 諸物見付法 也。辨知也					信 受

二月

四三

(年八廿) す死戰に衛海威將少寺大

(帝宗立) 傷如亦民愛。子如當人視

(居柳) なか燕ぬら知幅横の中の世

二月 四五

寒 暖	天 氣	日 一 十 月 二	庚 午	水 曜
信 受	信 受	紀 元 節		
竹女子刺葉子校第 舞月鏡末新會子及利子等 大磯山包巻舞子柏葉 慶前獨雨雪也又雨雪也 午後四時半芝園に入遊右 夜月雨あつた 面白し先且畏信ハカキ達 梅子咲く牛舎に未 荒れ草の起る				
竹女山下宿舎 内宿也				

(年二廿) ろらせ布發を法憲國帝本日大

三月 四四

寒 暖	天 氣	日 十 月 二	己 巳	火 曜
信 受	信 受	紀 元 節		
二男謙二大丸 お流二児名格 第一酒行 正月三日 正月三日				
五男九名揚本 正月三日				

(年八廿) 寸領占を州海寧軍清征我

(草丈) 松馴磯すらさにほしうや苔海青

二月

四六

寒 暖	天 氣	日 二 十 月 二	壬 申	金 曜
信 發	信 受	旭麻理繁物置 十時出門 三葉館より山崎 三村君平阿唐 定取 五午國近又六朱利 一本十年八 日十午老疎 一申 早路利言 甲申三夜利 二百四十九口 九十 物別 集理 必中 但富 此 多 文 也 大地男 考 也 功 本 断 甚 考 手 賢 大 課 尾 買 亦 中 華 信 亦 部 例 會 中 商 務 等 必 也 費 山 岸 迄 迄 結 投 其 秘 公 的 物 置 電 洗 漿 組 公 事 何 々 夜 達 三 時 久 天 々 何 々 昨 天 北 方 風 雪 等 降 来 夜 降 也		
信 發	信 受	青河 古 長 来 口 下 梅 山 〇 仕 務 外 下 一 京		

(年三卅)く開に京東を會親懇大人清日 (年八廿)る納を書降の督提丁

(準周) 青丹寄石介。貴富看雲浮

二月

四七

寒 暖	天 氣	日 三 十 月 二	壬 申	金 曜
信 發	信 受	石 子 新 雪 降 じ 春 物 智 行 〇 〇 〇 白 地 〇 〇 〇 〇 〇 上 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 三 村 君 平 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 晩 夕 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 生 湯 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇		

(年八廿) 寸殺自昌汝丁

(更蘭) けらば朝きなとこふ思や香が海

二月

四八

寒 暖	天 氣	日 曜	甲 戌	日 曜	癸 酉	土 曜
信 發		日 二 月 十 四		信 受		晴
女孫果をけりし 此大磯の神あり 望見行らむ政事 中御上移公の年 望見行らむ政事 望見行らむ政事		今の大磯をえんと 此世の法午後 此岩井道系を 此大磯の神あり 此大磯の神あり		此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり		此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり

(年二十) るら贈を位二正に禮有森

(簡黎) 香我爲花閑。靜人如竹幽

二月

四九

寒 暖	天 氣	日 曜	甲 戌	日 曜	癸 酉	土 曜
信 發		日 二 月 十 五		信 受		晴
此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり		今の大磯をえんと 此世の法午後 此岩井道系を 此大磯の神あり 此大磯の神あり		此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり		此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり 此大磯の神あり

(年十) く舉を兵に摩薩盛隆郷西

(子老) シナ車バレフ敷ヲ車クトゴトコ

火曜 丙子 二月十七日 天気 寒暖

信 發

女梅子来

信 受

山下人炭路 柳

二月

五一

(年一卅) ず薨王親晃宮階山 (年八廿) ず領占を衛海威隊艦我

(然惟) なかさ寒の野須那だまいも萌下

月曜 乙亥 二月十六日 天気 寒暖

信 發

女梅子来

信 受

車去多吉 / 履解

二月

五〇

(年元久建) 三十七年 ず寂行西僧

(屏石戴) 僧似達心吾 水如淡味世

二月

五二

水曜	丁丑	二月十八日	天氣	寒暖
<p>初日先生臨海水邊</p> <p>午後三十分表大磯新市場山路後          一畑新市場伊藤侯本行クモ          小松新仁親王厚睦苑赴らる          品川へ飛雪未至入り止む色紙一本          不磯と雪飛初</p>				
信發		信受		
<p>小松宮村方自西リ          マリ渡辺の御座也</p>		<p>小松宮村方御座也</p>		

(年八廿) ふ賜を語勅に隊艦合聯に並軍二第

(臺曉) 哉紋衣ふらはて扇雪の春

二月

五三

木曜	戊寅	二月十九日	天氣	寒暖
<p>今朝寒烈</p> <p>今朝今夕来レハ電</p> <p>目録御座大豆也やし仕の中道花を乗          命り忠利の古産地也</p> <p>若井快哉七呼ハ新製湯河原行ク          廿初他ニ料理也電先見也命</p> <p>長崎東リ之振リ方遊遊後          香久の場林以相入り考          長崎九時也</p>				
信發		信受		
<p>若井快哉御座也</p>		<p>若井快哉御座也</p>		

(年四廿) 才薨美實條三爵公



(方義高) 命我伐色美。神我害慮思

二月

五四

寒 暖	天 氣	日 十 二 月 二	己 卯	金 曜
信 發				
		<p>午後發河内村寄書之列り吊禮之行也          林村橋所前松平子直と坊六の御之平          坊六の羅漢殿事此坊に入り松平の福老と          成烟居七少爺者植立成松十時頃迄          細尾之亡友松平源兵衛娘十</p>		
信 受				

(年十) 才發出を京東軍討征南西

(水言) りなめとばの物才一草壽福

二月

五五

寒 暖	天 氣	日 一 十 二 月 二	庚 辰	土 曜
信 發				
		<p>卯時女中歸 筆出白の湯も大と池へ          山田松村中事          午時一月の電報の女中が着来上り          午時運動常理の理髪日か松平休む          申し二月の電          梅林寺の燈籠十二年より新交舞の初          山本松平又密村七貫の均毛</p>		
信 受				

(年一卅) 才贈追を位一正に慶清氣和

(名失) 人何彼蠶捫中坐。至傑豪無真訝却

二月

五六

寒 暖	天 氣	日 曜
		辛巳
二月二十二日		
信 發	<p>朝氣地上生剣。梅子午昏東          大八丈春の習教          心平東窓の井の春園危          午は是れ城の陰大八丈の春木春道          春道の井の春園危          晩乃芝和屋入地 初夜晩食現          〇福之友三人 松花東          初夜中と記す</p>	
信 受		

(年九廿) るさは遺差に式位即帝露將大縣山

(圃立) 袖小染の香しれふが誰や梅紅

二月

五七

寒 暖	天 氣	日 曜
		壬午
二月二十三日		
信 發	<p>信也後計四千交今年中と我家の美          午後俄と烈風と成り          午前一井の電話と以る屋午後の多          午後一銀行の多し西園と無形と自居          昨午之日と以る少く由る所の金          七期並段總局午共四八品物也          春の村金の入る頭と好減り況不在          内金一井とあると並に況減り          晩来漸收り時非常と況減り</p>	
信 受		

(年三喜延) 才堯真道原菅

# 湯河原行表到城

(正清藤加) シベル知ト敵ヲト慾ト酒ト色

寒 暖	天 氣	日五十二月二	甲 申	水 曜
信 發	大船出立 四時去今大城の信梅亭 大船出立 天神像を拜し出家 午飯の新鮮物 御行李一皮提籠ニツ 紅徳曹の葉子持弟 けし 海軍、指と板志			
信 受	防大城			

二月

五九

(年八廿) ろらせ布發を則規集召兵民國

(齋誠楊) 狂後醉容能地天。樂中閑足自書琴

寒 暖	天 氣	日四十二月二	癸 未	火 曜
信 發	地蔵菩薩運部 可三市ハカキ来 一月十日			
信 受	可三市ハカキ来 一月十日			

二月

五八

(年三元延) 御崩皇天酬醒後

寒 暖	天 氣	日七十二月二		丙 戌	金 曜
信 發	初 風	午 前	午 前	午 前	午 前
信 受		午 前	午 前	午 前	午 前

二  
月

六  
十

寒 暖	天 氣	日六十二月二		乙 酉	木 曜
信 發	梅 雪	午 前	午 前	午 前	午 前
信 受		午 前	午 前	午 前	午 前

二  
月

六  
十

寒 暖	天 氣	日八十二月二	丁 亥	土 曜
信 發	岩倉母堂死去今日葬 修轉安之消息 夕陽不佳 家の事			
信 受				

二月

六二

啓(陰曆二月節) 三 月 春(同二月節) 分

年中行事

三日女兒ある家々に雛棚を飾る○中旬より彼岸に入り○その中日即春分の日、宮中にては春季皇靈祭を行はせらる○民間にては佛事を營み○六阿彌陀詣などする者多し、秋分も同じ○彼岸櫻開き初む○此月官幣大社の祭には、大和の春日十三日、攝津の廣田十六日、豊前の宇佐十八日なり○十五日は向島梅若寺法會なり○汐干狩は彼岸の頃より陰曆三月三日を最良とす

浦霞 藤原光俊

さほ姫の床のうら風吹きぬらし

霞の袖にかゝる白浪

四時雜詠之一 堤 它

桃弄稚嬌梅老葩。鶯初出谷燕尋窠。

村刹六區縈繞路。蹢躅翁媪拜彌陀。

元 志 山

春雨にたゞき出したり土筆

白魚の餌になるものよ水の泡

服部嵐雪

歸る雁關とび越る勢なり

三月

六三

花鳥春秋

彼岸櫻○上野、日暮里、其他處々にあり。

汐干狩○芝浦、州崎、品川沖、大森、羽田

摘草○向島、飛鳥山、道灌山、淺草田甫、其他

節物時令 春雨○春水○寒春○遅日○陽炎○遊絲○春の海○汐干○春宵○春鐘○春山○朧月○春月○朧夜○柳○猫の戀○長閑○水ぬるむ○山笑ふ○霞○佐保姫○若草○摘草○彼岸○春季祭○春の草○初櫻○雉子○雛祭○雲雀○燕○歸雁○若鮎○春陰○花臺○梅若忌○春の野

食品月令

若鮎○さば○鱒○飯だこ○かれひ○かながしら○ます○こち○鱒○鯉○鮎○鮓○蛤○あさり○榮螺○赤貝○雉○山鳥○小鳥○三葉芹○花袖○生椎茸○鹿角菜

# 大磯向河原

(陵子武) 離別足生人。雨風多開花

三月

寒 暖	晴 天氣	日 三 月 二	己 丑	月 曜
信 發	<p>後流後主福送奉                  地方運舞時自土未給對的且送奉                  借一也竹向道振以</p>			
信 受	<p>後流後主福送奉                  地方運舞時自土未給對的且送奉                  借一也竹向道振以</p>			

六五

(年一卅)す内參てめ始後の新維喜慶川德 (年四)む定を服禮の官武

(翁樂) 法一第ヲ養ナ心レ是ハ靜寧

三月

寒 暖	雨 天氣	日 三 月 一	戊 子	日 曜
信 發	<p>後流後主福送奉                  地方運舞時自土未給對的且送奉                  借一也竹向道振以</p>			
信 受	<p>後流後主福送奉                  地方運舞時自土未給對的且送奉                  借一也竹向道振以</p>			

六四

(年九廿)ぐ舉を式黨結黨歩進 (年八廿)す領占を山平太軍我

(巖星) 船畫罷人春盡繫。柳閑無下堤圍三

寒 暖	天 氣	日	四	月	三	辛 卯	水 曜
信	發	三月三日 信發 信受 三月三日 信發 信受					
信	受						

Handwritten notes in the table cells:

- 三月三日
- 信發
- 信受
- 三月三日
- 信發
- 信受

(年八廿) 寸領占を莊牛軍一第清征

三月

六七

(坡野) 盆草煙の雜やぶ遊て來が誰

寒 暖	天 氣	日	三	月	三	庚 寅	火 曜
信	發	三月三日 信發 信受 三月三日 信發 信受					
信	受						

Handwritten notes in the table cells:

- 三月三日
- 信發
- 信受
- 三月三日
- 信發
- 信受

(年二卅) 寸布公を法權作者 (年元延萬) 寸刺を彌直井伊士浪戸水

三月

六六

(村燕) 散りたのりたのすもれ日海の春

寒 暖	天 氣	日 六 月 三	癸 巳	金 曜
信 發	此の七日を以て五日交下と云ふ言針 二七日を以て差ありし五日と云ふ言針 木林			
信 受	河原湯之湯 鶏肉のりし湯 在物中の腹中 虚珠の氣候 是大便秘下 天神お留守の志と運道と云ふ言針			

三月

六九

(年八廿) 寸領占を口營軍清征

(瓜秋) なか蛙きしおわさ水の夜隴

寒 暖	天 氣	日 五 月 三	壬 辰	木 曜
信 發	宿の人も有る萬病の身立年ノ 播地他 大の四箇水也 日行楊柳ノ木地細小休之云ふ言針 午後暖軍運動之云ふ言針 大の陽を以て 信 受			

三月

六八

(年十) く置を院査檢計會て始



(牧杜) 村花杏指遙童牧。在處何家酒問借

寒 暖	天 氣	日 三 月 七 日			乙 未	日 曜
信 發						
<p>河原尚候遠候可利然共計訊集執事      後分長ノ原又概燭執事</p>						
信 受						
<p>梅子ノ手書來人</p>						

(年六) 寸稱と節元紀て以を日位即皇天武神

(堂素) 櫻初の中谷野上りた來僧小

寒 暖	天 氣	日 三 月 八 日			乙 未	日 曜
信 發						
<p>東一足指小石七返中      赤竹の暗合故鈴木三查釋其花らし兼      せの山崎金文の差ちりし河原尚遠八方申候      概初にありし真鶴海一里也遠安平と傍表      毎早来のみ子ノ木復候拜すし孝旭々吉抱し      概初にありし真鶴海一里也遠安平と傍表      概初にありし真鶴海一里也遠安平と傍表      概初にありし真鶴海一里也遠安平と傍表      概初にありし真鶴海一里也遠安平と傍表</p>						
信 受						
<p>八代ノ手書來</p>						

(年二寶大) つ順に下天を量度て始

三月 七

(外竹) 州江到未猶風春。角一山長比白雪

寒 天 日 丙 月  
暖 氣 九 三 申 曜

信 發  
 山石何心ト母華懐  
 夜十時山雨飛来  
 且キリニ一籠飲玉。夜陳三輪等共ニ出  
 物乃イ常尾身量手汗流枯樹子  
 物控涙母山鳥の巣火二根踏出  
 鳴子物控鶏をウに棘三内ト云ハ股長  
 大八手成来

信 受  
 大八手成来

三月

(年七廿) ぐ舉を典祝の年五廿婚大

(更闌) るへか鶴をかなの霞や汐しき

寒 天 日 丁 火  
暖 氣 十 三 酉 曜

信 發  
 東京  
 大成ハ及信

信 受

三月

(年五廿帝仁垂) つ建に勢伊を祠の神太照天

(村燕) なか燕くゆしほこ糞に糺津大

寒 暖	天 氣	日 一 十 月 三	戊 戌	水 曜
信 發	早起一浴昨夜之免七三鞠に贈 之鞠好活来 扶舞子来探具計沿然三層止計先			
信 受	先出子の大城への功に生す 夜堀敷子防に治の新雨利 左京への儀来 宅及大城の功に生す 信 受 長久の勤定物由指			

三 月

七 四

(年三卅) く開に京東を會迎歡式廷文士學讀侍林翰前國清

(名失) 言無喚碑小花隔。硯筆求成詩後醒

寒 暖	天 氣	日 二 十 月 三	己 亥	木 曜
信 發	復新夜改其衣 大八の善治来小知三層梅より			
信 受	例別一説。遠流三年の長懐意 午前梅聲。能三午前の川と運部 午後梅雨の 春の一圓の勤きを侍を十四日 能三免一足置来 長政の忠林来の年外余陽の元 差取更替来の 大八の善治来小知三層梅より			

三 月

七 五

(年六正天) す卒信謙杉上 (年九) む更に日曜日を暇休の日六一

二月十日

(山來) 草の春捨はてつしむはてつしむ

寒暖	雨	天氣	日三十月三	庚子	金曜
信	發	今日也雨天列 霧あふれ成 午前天保八氣 穢七年の湯河原迄 小田原侯御助(書付致す) 家におやの呪言自(五)酒を具祝三大 穢の(五)光(五)氣(五) 東あふれ(五)園(五)の る(五)の(五) 穢(五)三(五)大(五)の(五)年(五) 午都山鳥と喰ひ能(五)三(五)耳(五)と(五)也(五) 午好梅屋者 撰且汁 治。此(五)を(五)撰(五)成 有(五)家(五)信(五)の(五)也(五)。(五)言(五)十(五)五(五)社(五)相(五)月(五)出 今(五)と(五)天(五)氣(五)の(五)あ(五)り(五)の(五)事(五) 子(五)晚(五)ハ(五)こ(五)し(五)し(五)こ			
信	受	昔(五)元(五)の(五)事(五) 撰(五)成(五)の(五)事(五)の(五)事(五)			

三月

七六

(年三卅)く開に口山を會甲追子川品故(年二廿)す布公を法收徴税國

(南耕) 中答問聲鳩是仍。雨耶晴判未陰輕

寒暖	晴	天氣	日四月三	辛丑	土曜
信	發	今日也晴天 雨未陰輕 午前天保八氣 穢七年の湯河原迄 小田原侯御助(書付致す) 家におやの呪言自(五)酒を具祝三大 穢の(五)光(五)氣(五) 東あふれ(五)園(五)の る(五)の(五) 穢(五)三(五)大(五)の(五)年(五) 午都山鳥と喰ひ能(五)三(五)耳(五)と(五)也(五) 午好梅屋者 撰且汁 治。此(五)を(五)撰(五)成 有(五)家(五)信(五)の(五)也(五)。(五)言(五)十(五)五(五)社(五)相(五)月(五)出 今(五)と(五)天(五)氣(五)の(五)あ(五)り(五)の(五)事(五) 子(五)晚(五)ハ(五)こ(五)し(五)し(五)こ			
信	受	昔(五)元(五)の(五)事(五) 撰(五)成(五)の(五)事(五)の(五)事(五)			

三月

七七

(年六)す許を嫁婚と入國外 (年三卅)す失焼棟二火失校學中早岐

(誰阿) きろじもおも鍋手や頃むるぬ水

日曜 壬寅 三月十五日

昨夜雨降り雨脚の引能はず難く亦大雨  
大磯傳遠少くとも一帯は三日此の如き  
シメ直ニ四時あり  
櫻井東の三月廿四日午は包紙を掃き  
初こ入浴しり  
午後雨降り雨脚の引能はず難く亦大雨  
雨脚の引能はず難く亦大雨  
宿の息子思ふに相子と名

三月

七八

(年七) く舉に賀佐を兵平新藤江

(外竹) 開櫻晚謝半櫻早。裏雨微陰輕日十

月曜 癸卯 三月十六日

七の目免雨降り雨脚の引能はず難く亦大雨  
淡不見生愁思  
堀氏来談。梅子ハロキ来  
家書ヲ作り出まらば免好旨の  
手紙揮毫宛甲葉  
今こゝ有る如く梅子痛おしん  
下機り小包遣り目録先指来  
夜合后假睡ハハ一活櫻櫻末右映計活  
梅子一杯ヤル土時暇和子夏暑風  
梅子一杯ヤル土時暇和子夏暑風  
梅子一杯ヤル土時暇和子夏暑風  
梅子一杯ヤル土時暇和子夏暑風

三月

七九

(年八廿) ろらせ任に督總大清征王親仁彰

(沼葭) 入瓜破似春分二。柳穉皆暮。

三月

火曜	甲辰	三 月 七 日	天氣	雨	寒	四
信 發						
夜来雨少し不眠食故捕虫を福子に 申す。子のひきあつる花と云ふは元 高十郎の子柳の事なり。						
信 受						
大磯の事なり。寒中懐中燭を 千九代傳に梅枝集の半信之村迄申上は梅枝の 信身は許は海防軍兵衛の信乃之江福成 晩方大磯の信意の信乃江山守の信乃江梅 信乃江山守の信乃江梅枝の信乃江梅枝 信乃江山守の信乃江梅枝の信乃江梅枝						

(年七) るさ許をるす學入に校學我の人外(年九廿) づ出令勅の張擴軍陸

(知忠) なか董の手土にぬかつ心何

水曜	乙巳	三 月 十 八 日	天氣	晴	寒	四
信 發						
久々の天気ありて、梅枝の信乃江月在南 梅の信乃江天気ありて、梅枝の信乃江月在南 十の信乃江梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝 梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝 梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝 梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝 梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝 梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝						
信 受						
大磯の事なり。梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝 梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝 梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝 梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝 梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝 梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝 梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝 梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝の信乃江梅枝						

三月

八一

(年十三) ふ行を式拜遙祭年世皇天明孝て於に京東

(莊旭) 來裏影斜橫泳魚。涉人無水春々盈

辛 寒 暖 日 三 月 十 九 日 丙 午 木 曜

信 發	大 減 志 子 奉 物								
信 受									

日 出 風 寒 日 也 氣 候 可 也  
 午 前 梅 枝 未 花 此 時 乃 拂 子  
 午 也 假 寐 大 睡 之 時 出 之 亦 忙 甚 矣 未  
 可 物 天 保 年 飢 饉 之 害 報 德 未 也 田 原 山 下  
 土 田 村 之 振 子 也  
 王 漢 洋 路 終 了 決 志

三 月

八 二

(年八廿) る 來 に 關 馬 章 鴻 李 使 和 構 國 清

(窓南) め げ つ れ ぬ り た け ぬ 階 二 の 合 待

寒 暖 日 三 月 二 十 日 丁 未 金 曜

信 發	雨 電 報 可 也								
信 受	家 信 可 也								

不 天 氣 堪 甚 二 番 余 亦 為 切 害 之 矣 唯 幸  
 生 物 而 天 多 矣  
 午 前 雨 止 決 志 矣 家 事 亦 幸 矣  
 午 後 食 物 亦 幸 矣 食 之  
 今 日 城 門 未 開 亦 幸 矣  
 午 後 雨 止 之 幸 矣 誠 可 也  
 久 矣 未 書 之 書 細 也 家 信 亦 幸 矣  
 午 前 雨 止 之 幸 矣 誠 可 也  
 雨 電 報 可 也 亦 幸 矣 誠 可 也  
 家 信 亦 幸 矣

三 月

八 三

(年三卅) 寸 見 謁 內 參 將 中 ン マ テ ン ベ 官 長 令 司 隊 艦 洋 東 逸 獨

(代千) く行く青も水やてれぬに雨春

寒暖	晴	天氣	日曜	土曜	戊申	三月十一日
信發	晴之鳥鳴雨天漸之吹風寒					
信受	昨夜八代より来たる赤土飛来りて 任事田池田伴淳切家とての乳を 午後及金山運出。物成んは四角の 午前の為子押電北家、息と樂不 能三海社好成可市と子書に得也 二宮金屋下りてし、向決む 後御舞子加物友不 宿十二日天保六年報徳未多身所子 おハ代し多快末 信受 信受 信受					

三月

八四

(年元寶大) む改を號位名官て依に令新てめ始

(壽春) 風春是頼聊無最。柳入吹花桃入吹

寒暖	晴	天氣	日曜	己酉	三月二十二日	
信發	此三大小人等、前村二十日物入りて 院方宿御兼懐地、多代廿年三人等					
信受	信受 信受 信受					

三月

八五

(年九廿) ふ行を式成落築新行銀本日



(石醉) 風絮柳於輕夢春。睡頭樓醉一人美

寒 天 日 庚 月  
暖 氣 三 十 二 月 三 戊 曜

信 發										
信 受										

此一課法終日故り時出後家人中  
 變松下と取違ふ  
 此課法の難難二つの子を  
 川外集法馬中苦今車一廿七回心  
 才收心何故周生也  
 性性海を中先如海士皆山  
 午路故海(通)却  
 電車(因)何(又)儀市三時  
 大機上三時(通)局招(通)三(通)

三月

八六

(年一卅) 戸餘千一燒延火大郷本 (年八廿) 才領占を島湖澎軍清征

(角其) 哉ひかつす出しさ櫻にとあはみふ

寒 天 日 辛 火  
暖 氣 四 十 二 月 三 亥 曜

信 發										
信 受										

具見上初時未語  
 候科(三)回(通)物(地)五(十)平(快)均(高)五(十)  
 亥の午終(は)  
 然(三)系(均)迄(才)終(一)不(正)午(及)存(信)三(帯)  
 未(誠)一(日)出(表)及

三月

八七

(年三卅) 才行舉を式通開道水市戸神

(石安王) 陰有月香清有花。金千價刻一宵春

寒 暖	天 氣	日 五 十 二 月 三	壬 子	水 曜
信	發	晴有風天候未定 一此朝終見。事有定。此後名。而也。此 一。身。舞。台。名。也。此。拾。出。買。三。不。上。此。也。 能。舞。台。一。此。心。氣。悅。思。		
信	受	可。三。即。日。自。舞。台。 天。神。此。舞。台。也。此。事。也。此。也。 午。好。一。此。也。長。政。也。而。此。也。此。也。此。也。 事。亦。當。世。播。東。如。雷。非。市。之。氣。也。 晚。舞。台。也。人。也。此。也。此。也。 能。以。信。也。此。也。		

三月

八八

(年十三) ろらせ布發を律法正改例條紙聞新

(蕉芭) れな恨そこるあ價に魚白

寒 暖	天 氣	日 六 十 二 月 三	癸 丑	木 曜
信	發	晴有風天候未定 一此朝終見。事有定。此後名。而也。此 一。身。舞。台。名。也。此。拾。出。買。三。不。上。此。也。 能。舞。台。一。此。心。氣。悅。思。		
信	受	可。三。即。日。自。舞。台。 天。神。此。舞。台。也。此。事。也。此。也。 午。好。一。此。也。長。政。也。而。此。也。此。也。此。也。 事。亦。當。世。播。東。如。雷。非。市。之。氣。也。 晚。舞。台。也。人。也。此。也。此。也。 能。以。信。也。此。也。		

三月

八九

(年一卅) ろ取を灣連大順旅國靈 (年十三) ろらせ布發法幣貨

三月廿八日

(村燕) りあ女むよ書に月花の梨

寒 暖	天 氣	日 八 十 二 月 三	乙 卯	土 曜
信 發	竹女山下の海に花の鳥黄 土曜田中細帯の石帯の西の果收即 あり事出の信發 海軍兼成の果 晩花の鳥黄の信發 花の鳥黄の信發 群の鳥黄の信發 花の鳥黄の信發 白老の鳥黄の信發 花の鳥黄の信發			
信 受				

三  
月

九一

(年七廿) ろらせ殺暗に海上均玉金

(羅沙) 花の桃し遠にりきしの鳥黄

寒 暖	天 氣	日 七 十 二 月 三	甲 寅	金 曜
信 發	午後五時五分大坂府新橋四丁目 山崎の信發 花の鳥黄の信發 山崎の信發 花の鳥黄の信發			
信 受				

三  
月

九〇

(年十三) す行發を圓萬十四債公事軍

(太夢) ずめ覺だまもて来てれら折や棠海

三月十日 丁巳 月曜

信發	信受
書生より何村より 松丸氏より雨烈風暴 一羽鴨の風呂あつても茶も梅枝も雪も 泉館の梅枝をかく大師の楽の音も 大森電車よりお月川橋下車 一羽鴨の物(午後)新橋の茶車 昨夜計帳右腕持物と物あり(利田)泉 一羽鴨の物(午後)新橋の茶車 山ノ母乃の徳甘素 孝藏より書揚見たり(白雲)書揚見たり 大八湯の湯の湯 乾銀の湯の湯(南境)土の湯	信受

三月

九三

(年八廿) る成約定戦休清日

(中湖) くさ夷辛の所ぬま住の人の常

三月二十九日 丙辰 日曜

信發	信受
大八湯の湯の湯 孝藏より書揚見たり(白雲)書揚見たり 山ノ母乃の徳甘素 昨夜計帳右腕持物と物あり(利田)泉 一羽鴨の物(午後)新橋の茶車 大森電車よりお月川橋下車 泉館の梅枝をかく大師の楽の音も 一羽鴨の風呂あつても茶も梅枝も雪も 松丸氏より雨烈風暴 書生より何村より	信受

三月

九二

(年九廿) るらせ賜下を盃銀に員議院兩

寒暖 雨 天氣 日一十三月三 戊午 火曜

三月

九四

昨夜の宿目覚め江の波はるる花  
 去風雨の初夜を聞く六松津の  
 一沙粒の破。天城の多事一書を出す  
 午後ゆめをのびと書きて  
 植子来様 宛方へ  
 信 發  
 信 受

(年三卅) す内參將少スルーク官令司隊艦洋東國英

寒 (節の月中三同) 大 月 四 寒 (節月三曆小陰)

四月

年中行事

三日神武天皇祭 ○八日は灌佛會、所謂お釋迦の誕生日とて、寺々の釋迦佛に詣づ ○櫻桃を初め、百花爛漫春風駘蕩の好時節なれば遊人到る所に賑ふめり ○汐干狩は陰曆三月十五日を好期とす ○十七日は上野東照宮祭 ○此月全國官國幣社の祭典多し

花盛に京を見やりて 素性法師  
 見渡せば柳櫻をこきませて 都ぞ春の錦なりける 柏如亭  
 木母寺  
 隔水香羅雜香過。醒人來哭醉人歌。  
 黄昏一片蘼蕪雨。偏傍王孫墓上多。  
 内藤丈草  
 うかうかと來ては花見の留守居哉 沾 德  
 蓼深き道をよこきる鶉かな 芭 蕉  
 唐崎の松は花より朧にて

花鳥春秋

桃 ○靖國神社、上野、深川公園、中野、越谷、大澤、松伏、芝公園  
 櫻 ○上野、飛鳥山、日暮里、向島、深川公園、靖國神社、護國寺、芝公園、御殿山、日枝神社、小金井、

節物時令

花 ○櫻 ○櫻狩 ○夜櫻 ○朝櫻 ○桃 ○菜の花 ○蝶 ○神武祭 ○涅槃會 ○灌佛 ○駒鳥 ○百千鳥 ○春の田花 ○花の雪 ○花吹雪 ○櫻鯛 ○柳籠 ○海棠 ○山吹 ○ゆく春 ○惜春 ○送春 ○別春 ○暮春 ○春晚 ○夏となり ○符 ○櫻もち ○稗まき ○胡瓜

食品月令

○松魚 ○めばる ○櫻鯛 ○ひらめ ○鰻 ○蕨 ○筍 ○胡瓜 ○うど ○茨菰豆 ○初茄子 ○蕪菜 ○茨隠元豆 ○諸鳥  
 よし原も花のさかりとなりけり 岡 持  
 吉野ははだし傾城は下駄

九五

(考支) なか椿るたけぬの底に春くゆ

寒 暖	天 氣	日 二 月 四	庚 申	木 曜
信 發				
信 受				

可遊家新上流一電流者

四月

九七

(年三卅) 開に省務内を議會官方地

(甫杜) 飛鳥白兼時鳥黃。落花楊逐細花桃

寒 暖	天 氣	日 一 月 四	己 未	水 曜
信 發				
信 受				

薄晴不見日光四路烟光冷  
 一涉河田辭一人力車馬大毒行、兼車物定  
 川村夕子おあけ申候  
 古無電三本、流花楊逐細花桃  
 山中お遊藝熱空者、やう者

四月

九六

(年一卅) ふ行に都京を祭年百三公豊

(董几) きしかつな昔し見今や野董

金曜

辛酉

四月三日

天氣

寒暖

四月

神武天皇祭

半く海子者な海子七村な海子也市見り六八  
用旗杖業屋り半に業り  
おやも山中り月りハも起り料理と郎  
未納りもか森海子あり祝三三高の増しを切  
後かき福の物、留取は材を候よありと  
いふ徳も口入は徳女、おやもを時以候  
も不地候

信 發

信 受

(年二十帝古推) む定を條七十法憲

九八

(牧杜) 風旗酒郭山村水。紅映綠啼鶯里千

土曜

壬戌

四月四日

天氣

寒暖

四月

新方やち竹子山下と  
竹子上野に和尼と身大概盛甲と  
おやも業りり走石多田引年  
半及運動業地とあり山半とん候  
おやも業り天置持系  
若葉軒、お根倉、お根倉、お根倉、お根倉

信 發

信 受

(年二十) く置を縣繩沖し廢を藩球琉

九九

(亭葵) 也かづしいて出を櫻風の朝

日曜	癸亥	天氣	寒暖
四月	四	五月	四
信	發	信	受
<p>觀艦式臨覽神戸行漸表心刺婦子お 我々起身を裁成なり 上杉家お深香千夜亦神行世勸後 す却る物地特観神運を慮の針祝 痛を氣持入一</p>			
信	發	信	受

(年元曆寶) ふ震に大方地田高後越

四月

100

(隣桃) 花の桃の見伏るのに舟るひ

月曜	甲子	天氣	寒暖
四月	四	六月	四
信	發	信	受
<p>形雨天 神は港変心貴慈院の刻り一筆書割 切手と陳米袋の書院より多敷 夫は海軍省新し力と徳福長官西梅 直徳を收出神の上西村勝花ゆ来 出虎交あるて交る軍艦の通船切手話 しん中 官内省の長恩佐の園話の本 信受</p>			
信	發	信	受

(年卅) す贈追を位二従に行正楠

四月

101



(名失) 花情有散吹情無。雨與風來朝事底

寒 暖	天 氣	日 七 月 四	乙 丑	火 曜
信 發	神ノ旅装皮盤一箇大田用着物を入 火ハ晚方大城ノ田也小田深ク出 村宅を直歩致す。拾仙海ノ甚多致す 今村館内ノ大八多乳ノ千田又西石山 金ノ御費ノ大八申出ツ 徳入ノ神ノ行隨々を日半外致す 学校ノ吉敷を日半外致す 千坂ノ吹野新橋ノ多田屋を電話接 信 受			
信 受				

(年四十) く置を省務商農

四月

1011

(山來) 聲の牛るなしこ堤や風春

寒 暖	天 氣	日 八 月 四	丙 寅	水 曜
信 發	午刻四時起旅村衣改 七時三十分新橋(昔及車)祝三和印 此路集り後ノ大八又三送車一昔車 下三各ノ聲あり混雜不可言 名有屋ノ有一詰龍筆虎闘竟如何勝敗 無以空指波一望葉花千方頂金城光映 夕陽多ク千坂ノ大坂ノ下車 祝十時四十分神 戸ノ角ノ市車結交直 福原芳以者 山ノ日逆境思古樂地也 信 受			
信 受				

(年元祿長) く築を城戸江灌道田太

四月

1011

(窓南) 髭乃猫ぬし盡へぞか雨の春

寒 暖	天 氣	日 九 月 四	丁 卯	木 曜
信 發	大島山崎新橋米津 下口とまち舟の船	雨 中 後 接 晴 氣 毛 海 軍 少 佐 少 衛 兵 少 隊 長 少 隊 長 少 隊 長 少 隊 長 少 隊 長 少 隊 長	信 受	神 戶

(年五) く置を長戸てし廢を寄年主名

四月

105

(參岑) 乾未露旗旌拂柳。落初星佩劍迎花

寒 暖	天 氣	日 十 月 四	戊 辰	金 曜
信 發	新々山崎海船院船	朝 起 霧 雨 霧 濃 不 見 海 色 船 中 三 号 千 早 出 航 之 儀 ハ レ ケ ル 事 ナ シ 水 中 船 長 不 詳 白 信 機 の 出 航 事 也 千 早 船 長 向 崎 港 出 航 由 程 詳 観 畢 乃 船 中 三 号 千 早 出 航 之 儀 ハ レ ケ ル 事 ナ シ 水 中 船 長 不 詳 白 信 機 の 出 航 事 也	信 受	神 戶

(年一卅) 寸行學を祭年卅都奠京東

四月

105



(寧以張) 雲川滿樹幽。雨夜一花落

火曜 壬申 四月十四日 天氣 寒暖

信發	大坂	信受
<p>大坂 壬申 四月十四日 天氣 寒暖</p> <p>此の夜は 雨の降る所なき 大坂の夜は 雨の降る所なき 大坂の夜は 雨の降る所なき</p>	<p>大坂</p>	<p>大坂</p>

四月

(年八) く置を院二の審大老元

(更闌) るども人山重八の春人一又

月曜 辛未 四月三十日 天氣 寒暖

信發	信受
<p>大坂 壬申 四月三十日 天氣 寒暖</p> <p>此の夜は 雨の降る所なき 大坂の夜は 雨の降る所なき 大坂の夜は 雨の降る所なき</p>	<p>大坂</p>

四月

(年八廿) も進に順旅を府督總清征 (年七) く就到刑平新藤江

(彦道) なか扇るけ初しざかに雁く行

(處碧) 英雲紫遍開風野。色一花田春里十

四月

110

水曜	癸酉	四月十五日	天氣	寒暖
信 發				
中 大坂を出發梅田停車場に到り名刺 送附りの切符付先しを止み都ノ切符買込み雨 七條下車西條橋南の層層料理店に酒 飯を炊し早や梅をさする程園の神社をえ る停車場由る方旅先を扱下り明りあ 有る車に乗り又小太切符買込みの初夜より一 車夜して泊る。後徳火火並と風月車中 一杯一人を扱スル程園に到る。買込み 国府津下車大磯に到り大磯の温泉に下り梅を 東海道の梅東一中				
信 受				

(年八廿) る成約條和平のと國清

四月

111

木曜	甲戌	四月十六日	天氣	寒暖
信 發				
昨朝日暮迄の如く静園を歩き居る所 天明國府津に到り停車場より 汽車に乗る大磯に到り温泉に下り梅を おやま車に乗る梅をさする程園に到り 午頃の太切符買込み津より切符買込み 書生園に到り梅をさする程園に到り梅を 砂田向り梅を扱下り五國の温泉に梅を 梅を扱下り梅を扱下り梅を扱下り梅を 梅を扱下り梅を扱下り梅を扱下り梅を				
信 受				
泊る大磯				

(年六) す幸に宮倉鎌下陛皇天

(秀正) 時吞茶の榮涅やふ呼にし越垣

(南耕) 聲一時花隔雄嬌。睡猶山午欲陰春

四  
月

寒 暖	天 氣	日 八 十 月 四	丙 子	土 曜
信 受				
東京平河町宅				

(年八廿) ふ賜を語勅に權全兩奥陸藤伊

四  
月

寒 暖	天 氣	日 七 十 月 四	乙 亥	金 曜
信 受				
在久磯				

(年二和元) ず藁康家川徳

(子孫) 亂可不則智。犯可不則勇

四月

寒 暖	天 氣	日 十 二 月 四				戊 寅	月 曜
信 發							徳子 お館 と泉 久と 来
信 受							

一五

(年五十文天) る破に越河を氏杉上康氏條北

(邦史) 月朧や匂るゆ煮の豆そみ

四月

寒 暖	天 氣	日 九 十 月 四				丁 丑	日 曜
信 發							順氣 納 保養
信 受							

一四

(年七十) す付還を金償關馬りよ國米

(叔茂周) ス默ハ者問ヒ言ハ者巧

四月

寒 暖	天 氣	日四十二月四						壬 午	金 曜
信 受									
信 受									

一一九

(年八廿) 才告勸を附還島半東遼リヨ國三の佛獨露

(諺俚) いる忘をさ熱げれぐ過とも喉

四月

寒 暖	天 氣	日三十二月四						辛 巳	木 曜
信 受									
信 受									

一一八

(年四) く置に道二海西山東を臺鎮てめ始



(如相馬司) 形無於危避者智。前未于見遠者明

四月

寒 暖	天 氣	日六十二月四						甲 申	日 曜
信 受									
信 受									

111

(年九廿) りあ火大樽小道海北

(蕉芭) 哉殘名の遊糸も日るいひ入

四月

寒 暖	天 氣	日五十二月四						癸 未	土 曜
信 受									
信 受									

110

(年五) す許を帶妻食肉の侶僧

(ルーメホ) ム慎且ヒ疑ハ者智

寒  
暖

天  
氣

日八十二月四

丙  
戌

火  
曜

四  
月

信 發

信 受

極木屋不事  
 石屋東不南境石精結了  
 湖生指初形分社其日德出可事  
 山口村 延別

1111

(年七廿) 才來渡名二十七人哇布

(憲張) 香骨玉花梨淡月。軟絲金柳楊輕風

寒  
暖

天  
氣

日七十二月四

乙  
酉

月  
曜

四  
月

信 發

信 受

極木屋不事  
 石屋東不南境石精結了  
 湖生指初形分社其日德出可事  
 山口村 延別  
 極木屋不事  
 石屋東不南境石精結了  
 湖生指初形分社其日德出可事  
 山口村 延別

1111

(年九廿) ろらせ布公を法民正修

(之退韓) 望所奚兮足不無。康而壽兮食且飲

四月

寒  
暖

天  
氣

日 十 三 月 四

戊  
子

木  
曜

信 發

信 受

大善  
 上  
 中  
 下  
 大坂梅井我起  
 四月廿五日

115

(年一卅) 寸布宣を立中外局國我に争戦西米

(風杉) ら野の春やり光の鞦るぐありふ

四月

寒  
暖

天  
氣

日 九 十 二 月 四

丁  
亥

水  
曜

信 發

信 受

和原邊  
 午後二十四分カラ午五時迄  
 四月廿九日  
 雨

116

(年四卅) 誕降御孫皇

五月

寒 暖	天 氣	○ 一 月 五	己 丑	金 曜
言 發				
言 受				

早起〜大い〜流〜も〜も〜流〜す〜今〜の〜月  
 植木〜園〜来〜ん  
 木〜来〜と〜素〜子〜わ〜不〜休〜二〜游〜あ〜は〜り〜あ〜あ〜  
 高〜揚〜新〜吉〜東〜西〜海〜の〜何〜株〜木〜の〜家〜す  
 福〜言〜物〜と〜後〜海〜の〜あ〜る〜大〜い〜の〜花  
 山〜下〜来〜  
 高〜揚〜木

一一七

(年二) ふ戦に館函と賊軍海の征北

五月

立 陰	夏 曆	五 月	小 同	滿 節
--------	--------	--------	--------	--------

年中行事 立夏の日(上旬)より夏となる  
 ○五月幟は一日より飾りて五日を當日とす、今は鯉のみ建つる家多し○此日には粽又は柏葉餅を喰ふ○湯屋にて菖蒲湯をたつ○躑躅、牡丹、藤の花開く○六日は靖國神社大祭あり○出雲大社は十四日○山城の加茂兩社は十五日を大祭とす

更衣 土御門院  
 庭樹影流過雨餘。蛙聲和月到階除。  
 小齋夜靜無些熟。一穗涼燈讀快書。  
 初夏夜坐 頼支峯  
 かへまくをしき夏衣かな  
 庭樹影流過雨餘。蛙聲和月到階除。  
 小齋夜靜無些熟。一穗涼燈讀快書。  
 初夏夜坐 頼支峯

節物時令 首夏○立夏○更衣○藤○牡丹  
 ○ついで○芍薬○青簾○つりしのぶ○初裕  
 ○短夜○遅櫻○葉櫻○若葉○杜鵑○松魚○  
 新樹○鯉幟○菖蒲湯○卵の花○羽蟻○螢○  
 螢狩○卵の花くだし○栗の花○柏餅○青梅  
 食品月令 黒鯛○あなご○泥鰌○鰻○い  
 な○年魚○あび○蜆○姫百合根○若荷の  
 子○蓮芋○青蕃椒○摘み菜○水芹○蠶豆○  
 薑○白瓜○ぜんまい  
 蜀山  
 いか程にこらへて見ても杜鵑  
 なかれはならぬ村雨の空

一一六

(公眉陳) 土淨處隨書讀。山深是即門閉

寒暖 天氣 日曜 五月二日 庚寅 土曜

信發

幸俱樂部松平山道

信受

廿九桂總理山女柳

但樂部紙(寸忘)船越衛宅へ届き中

子三屋翁松田と上る松松系

長久保の酒思見(口)腹膜炎、大患也

此の旨、後房、干は島岡信三

九時拜儀、新洲、松平、(寸)六、此後

白杜鶴也、去、(寸)都、(寸)都

多、(寸)都、(寸)都、(寸)都、(寸)都、(寸)都

情、(寸)都、(寸)都、(寸)都、(寸)都、(寸)都

(年十三) るなと使大英遣王親仁威川栖有

五月

二二八

(村燕) る見をちこ房女のひ向や蝙蝠

寒暖 天氣 日曜 五月三日 辛卯

信發

信受

幸早起、(寸)刻、(寸)時、(寸)除、(寸)石、(寸)撒、(寸)水

桂お花、(寸)壇、(寸)又、(寸)計、(寸)女、(寸)者、(寸)小、(寸)の、(寸)針、(寸)縫、(寸)造、(寸)也

大ハ文、(寸)三、(寸)自、(寸)轉、(寸)車、(寸)一、(寸)川、(寸)崎、(寸)の、(寸)田、(寸)の、(寸)末、(寸)木

晴、(寸)千、(寸)糸、(寸)房、(寸)の、(寸)誰、(寸)と、(寸)不、(寸)到

其、(寸)徳、(寸)の、(寸)者、(寸)此、(寸)ハ、(寸)足、(寸)舞、(寸)の、(寸)字、(寸)也

九州、(寸)原、(寸)の、(寸)書、(寸)の、(寸)自、(寸)然、(寸)の、(寸)屋、(寸)多、(寸)也、(寸)也

山田、(寸)徳、(寸)の、(寸)来、(寸)の、(寸)信、(寸)の、(寸)報、(寸)也

大ハ徳、(寸)の、(寸)舞、(寸)文、(寸)子、(寸)新、(寸)の、(寸)舞、(寸)の、(寸)山、(寸)中、(寸)ノ、(寸)ハ、(寸)文

の、(寸)血、(寸)ハ、(寸)り、(寸)廿、(寸)九、(寸)の、(寸)岩、(寸)の、(寸)也、(寸)及、(寸)ス、(寸)ト、(寸)云、(寸)フ

(年元武建) るらせ幽ニ窟土宮塔大

五月

二二九

(韶郷) 樓鶴一山空満月。秀芝三壑大回春

寒 暖	天 氣	日 四 月 五	壬 辰	月 曜
信 發	信 受	早 夕 天 雨 降 ぬ 枝 木 果 土 敷 等 せ り 又 庄 上 野 博 和 館 鳥 豆 友 海 翁 又 山 翁 午 後 本 郷 上 橋 家 又 遠 友 也 也 舞 中 郷 通 子 葉 子 也 當 り 金 印 可 多 前 田 晚 方 子 赤 吉 敷 子 儀 子 清 哉 不 在 外 也 柳 守 田 多 護 丹 買 い 山 草 又 娘 又 多 勢 也 柳 若 柳 雨 〇 老 妻 也 子 子 也 有	五 月	

(年四曆延) むしせ諱避を名御てし語

五月

1110

(太蓼) 哉ひ匂るしばを蒲菖の水玉

寒 暖	天 氣	日 五 月 五	癸 巳	火 曜
信 發	信 受	晴 昨 朝 大 雨 三 日 雨 敷 多 事 皆 流 レ タ リ 奴 親 多 勢 也 柳 若 柳 雨 〇 老 妻 也 子 子 也 有 有 の 儀 分 集 也 勢 也 柳 若 柳 雨 〇 老 妻 也 子 子 也 有 杜 鵝 花 在 葉 也 柳 若 柳 雨 〇 老 妻 也 子 子 也 有 歩 後 山 下 田 園 花 見 也 柳 若 柳 雨 〇 老 妻 也 子 子 也 有 梅 子 多 勢 也 柳 若 柳 雨 〇 老 妻 也 子 子 也 有 上 泉 山 中 宅 三 方 川 村 引 也 柳 若 柳 雨 〇 老 妻 也 子 子 也 有 多 勢 也 柳 若 柳 雨 〇 老 妻 也 子 子 也 有	五 月	

(年六) りあ火城皇

五月

1111

(堂素) んらた過情風蓮のこ葉浮葉卷

寒 暖	天 氣	日 七 月 五	乙 未	木 曜
信 發		山紫香英一々携へ来ん父山石園子れ出書 大指ニ海伊物と云ふニ言即名也 梅則ニ風文ヲ外表成りて一葉成り		
信 受				

五  
月

1311

(年一卅) ふ行を祭祝年十三港開戸神

(言格) シナ山奇中眠バレケナ書ノ卷萬中胸

寒 暖	天 氣	日 六 月 五	甲 午	水 曜
信 發		川葉齋梅子已こふる甘き鮮地 徳保ハ子供ハ流トキ七比踊来り 山下野火ハ宛方リ多ク新ニ成リ銀 二報也指の口當分山ト常也		
信 受				

五  
月

1311

(年二十長慶) るた來に戸江てめ始節使ノ鮮朝

(潤陳) 珠成雨葉荷池一。雪作風花楊岸兩

寒 暖	天 氣	日 八 月 五	丙 申	金 曜
信	受	議	議	議
議	受	議	議	議

五月

一三五

(年十三) ぶ襲を堤稻大北臺名百六匪土

(角其) 牛蝸きな角ばれ取を葉の杷枇

寒 暖	天 氣	日 九 月 五	丁 酉	土 曜
信	受	議	議	議
議	受	議	議	議

五月

一三五

(年六十) く置を縣三崎宮賀佐山富



(恭克高) 川山禹履長年萬。月日堯瞻仰海四

五  
月

寒 暖	天 氣	日 一 十 月 五			己 亥	月 曜
信 受						陸軍大將上操六子卒(廿二年)
信 受						

陸軍大將上操六子卒(廿二年)  
 大ニ一ノ時ヲ御座リ大磯村仙洲ニ四カ  
 保表匠ニ行ク  
 福三借川澄白カノ山と大ハリノ山  
 天官澄下西系ノ還華ノ山  
 午後五時還華一歩ノ行ク雑草ノ山

(年二廿) 寸卒子六操上川將大軍陸

一三七

(村蕪) りけにりなと暗の毎田に雨月五

五  
月

寒 暖	天 氣	日 十 月 五			戊 戌	日 曜
信 受						陸軍大將上操六子卒(廿八年)
信 受						

陸軍大將上操六子卒(廿八年)  
 船内より西東古き船中静園出陣リ  
 午前山申の相ふる葉地多し新東の年分  
 正始面屋より雪留ノ山  
 船内より出陣リ上方面より返シ

(年八廿) づ出勅詔の附還島半東海

一三六

(瞻子蘇) 中雨睡疎蕭韵曉。外煙茶淡閑陰午

五月

寒暖	天氣	日二十月五		庚子	火曜
信發	信受	<p>日あり          新大徳院式大禮破着申出          寺時下少時申從勤之御儀          上下院整列おあふ便給          のり便日大札          陛下御西新花の御事          多々申上り</p>			
信發	信受	<p>一心起す時院の易行の事          小田原行陣          日夜一志あり          小田原に在る可事</p>			

(年九廿) 誕降御宮泰女皇

(村燕) なか衛行の鯛きしれうや代苗

五月

寒暖	天氣	日三十月五		辛丑	水曜
信發	信受	<p>年前北時より新大徳院          御場北に金徳長身          挿御道公身徳の家蓮          決志又新部これ          三帯任妻負選先平          禊給林主女負之          出湯後毛髪内吐          物主より及上          帯供御部          長段院より東          北三の御儀          及御</p>			
信發	信受	<p>長段院より東          北三の御儀          及御</p>			

(年十三) む定を式形の幣貨新 (年八廿) ふ賜を諭勅へ人軍海陸

(堂素) 蔭柳ふ習書なかしな鷺に池

寒 暖	天氣 晴	日五十月五	癸 卯	金 曜
信 發				
信 受				

午前三井銀行に到り早川千吉郎と面會  
 午後五時國一山邸に到り七条はなや  
 六月六日米の値は山邸の銀りより高  
 手取圓角五分常盤船積運は大阪の船積運  
 中華亭午後二時雨降く横濱原町山本  
 買茶師宅の書物の録へ申  
 植木自來山屋との計り計り

五月

一四一

(年元) つ計を兵賊の山叡東

(諺俚歐北) リナルス有ヲ人主レ是ルス有ヲ妻

寒 暖	天氣	日四十月五	壬 寅	木 曜
信 發				
信 受				

雨天々ハ大水係り候し才六回あり  
 御座計り候

五月

一四〇

(年一十) ら莫通利保久大卿務内

五月

寒 暖		天 氣	日 曜	干 支
寒 暖		天 氣	日 曜	乙 巳
五 月 十 七 日				
信 發		晴早起 開門池にお掃車掃除 小車掃車等 今夕は後法寺のけいふ山に 籠りあし仕務。松山自由の塔揮毫。別 美内町。花巻へ出づ。		
信 受		おやす山へ行ふ徳女やゆれるをうたへ 左衛門寛義約集をよき不來 山下の柳を川原及び高京に立寄る 子供を眺むる		

(年十二) 寸布公を例條道鐵設私

一四三

五月

寒 暖		天 氣	日 曜	干 支
寒 暖		天 氣	日 曜	甲 辰
五 月 十 六 日				
信 發		梅屋屋東より野山陣は異隙二心の鹿屋及 造石塔の改修。舊習の修葺。五月十日 午前訪訪の遊。如由果わ初能上 午時山中柴火母の提梅。海子。其を獲て來 酒飲ふ也。		
信 受		新由上より三田河の雲和甚公園三線。其 和合一。波田宅。常老の井の窟能。直甘ん 梅本屋山屋上院の延祥。其の書が其也		

(年五廿) ゐらせ會停會議國帝

一四二

(諺國伊) プラアニル眠モシズ必者ルヅ閉ヲ眼

寒 天 日 丁 火  
暖 氣 九 十 月 五 未 曜

信 發

信 受

天氣陰鬱終日不省日光  
山并井複ニ来々 疹家ホ既朝山便糖分有之  
より田中 最一回據分スベシ  
伊藤侯大機より出東陸経理之身切  
之策也定心

五 月

一四五

(年三祿永) る破に間狭桶を元義川今長信

(童牧) なつ芽の木るへかて来いつか雀山

寒 天 日 丙 月  
暖 氣 八 十 月 五 午 曜

信 發

信 受

雨  
雲陰用淡  
主の成 新定 移入 抗家計 以 破く 2  
漢書 書物 携 割 抄  
若後古藤 寛三 八来 家計 組 織 九 山 大 歳  
山 入 材 料 手 據 行 々  
柏木 厚 来 以 及 山 東 山 陸 経 理 之 身 切

五 月

一四四

(年二) 寸定平館函り降賊の廓稜五

(丸才) りなぬらたに嘴一の鵜は鮎若

寒 暖	天 氣	日一十二月五	己 酉	木 曜
信 發				曇
信 受				

五  
月

一  
四  
七

(年九廿) ぐ下拂を山鑛兩野生渡佐

(川伊程) フ養ヲ性其シウ正ヲ心其

寒 暖	天 氣	日十二月五	戊 申	水 曜
信 發				
信 受				

五  
月

一  
四  
六

(年一卅) く逝氏ントストツラク國英

(祥天文) 節武蘇漢在。椎良張秦在。筆狐董晉在。簡史太齊在

五月

一四八

寒 暖	天 氣	日 二十二月五	庚 戌	金 曜
信 發				
信 受				

晴  
 晴く抄ねた親が来り、崖上、其再、朝鮮地、結  
 午刻、昔、信、多、部、引、故、新、年、の、基、礎、を、固  
 け、増、強、さ、す、事、を、期、す、所、也、と、い、ふ、に、  
 二、重、年、の、事、を、出、相、と、愛、患、田、止、約、と、い、ふ、に、  
 一、信、の、目、見、る、事、を、訪、止、婦、阿、宗、と、い、ふ、に、  
 一、信、の、目、見、る、事、を、訪、止、婦、阿、宗、と、い、ふ、に、  
 崖下、境、越、り、境、内、に、入、来、り、

(年九廿) る来りよ國米孝泳朴

(祥天文) 舌山常顔爲。齒陽唯張爲。血中侍詰爲。頭軍將嚴爲

五月

一四九

寒 暖	天 氣	日 三十二月五	辛 亥	土 曜
信 發				
信 受				

晴  
 柏木、眠、し、人、束、縛、り、  
 今、見、る、事、を、訪、止、婦、阿、宗、と、い、ふ、に、

(年一卅) 上炎廟大勢伊

(易) 行爲德成以子君

寒 暖	天 氣	日五十二月五	癸 丑	月 曜
信 發				
信 受				

五  
月

一五二

(年九廿) ぐ舉を式冠戴帝露 (年元元延) す死戦に川湊成正楠

(竹兒) 哉き暑むぼし花の藻て引潮

寒 暖	天 氣	日四十二月五	壬 子	日 曜
信 發				
信 受				

五  
月

一五〇

(年八廿) す發出に灣臺督總山樺



(軒梅曹) ス存則バレナ柔レ折則バレナ剛

寒  
暖

天  
氣

日七十二月五

乙  
卯

水  
曜

五  
月

信 受

大八丈  
信受

信 受

1511

(年一十) むしせ用通に般一を貨銀易貿

(順) 花の卵るゆ見とりけに來夏んらつたへを春や根垣の宿かわ

寒  
暖

天  
氣

日六十二月五

甲  
寅

火  
曜

五  
月

信 受

信 受

1511

(年一十) ず蕈九孝戸木

(力游) けたば麥や丈の供子ふあみかつ

五月

寒 暖	天 氣	日九十二月五	丁 巳	金 曜
信 發				
信 受				

一五五

(年八廿) 寸陸上に灣臺團師衛近

(名失) 歸如不意何聲鵲。壯益遊邊到里萬

五月

寒 暖	天 氣	日八十二月五	丙 辰	木 曜
信 發				
信 受				

一五四

(年三化弘) る來に賀浦船英

雨原辻村氏に  
 一若原年前出是致是事  
 失物記  
 新川桂雨原海  
 福三徳物  
 牛肉賣  
 物

(基楊) 深夜覺頭梢到月。淺春知面東來風

五月

寒 暖	天 氣	日 一 十 三 月 五					己 未	日 曜
信 發							此 日 休 日 不 開 議 會 切 廻 身 入 宿 院 本 出 頭	
信 受								

一五七

(年九廿) 寸決可を案奏上勅彈閣内てに院議衆

(角其) 影の笹に子障り明や子雀

五月

寒 暖	天 氣	日 十 三 月 五					戊 午	土 曜
信 發								
信 受								

一五六

(年八廿) 旋凱御下陸帥元大

芒種 (節月五曆陰) 六月 夏 (節月中月五同)

年中行事

上旬より梅雨に入る、梅の實の熟する頃なれば此名あり○一日は日光東照宮大祭○十五日は永田町日枝神社○二十一日は熱田神宮○三十日は攝津住吉神社の大祭なり○佃島なる住吉神社は二十八日に祭典あり○三十日は諸處の神社にて大祓を行ふ、半年の終なれば罪穢を祓ひ淨むるなりとぞ、十二月三十一日も同じ○花菖蒲咲く頃は田植の盛時とす

夏月 源親房

玉くしけふた上山の木の問より

梅雨晴 菊池五山

城中昨夜送輕雷。日氣烘紅暑驟回。已作一年鹽漬計。家々蘆箔曬黃梅。

若竹の香に新らしき鱸かな

一人乗る船作らせん燕子花

老つゝも早乙女くるふ御田哉

花鳥春秋

花菖蒲○堀切、廣尾笑花園、百花園、四目植文、四ツ木、其他 螢狩○谷中螢澤、關口、押上堤、江戸川

節物時令

夏木立○木下闇○入梅○梅雨 ○さみだれ○實梅○燕子花○花あやめ○ばらの花○枝蛙○蠅○蚊○蚤○夏至○天王祭 ○扇○團扇○夏山○さ月闇○さ月晴○暑○單衣○雷○苔の花○黃梅○若竹○新竹○今年竹○日枝祭○撫子○早苗○田植○早乙女 ○田歌○田植笠○蝙蝠○盧橘○青田

食品月令

いばし○こはだ○鱒○家鴨○牛蒡○人參○枝豆○夏蕨○百合根○冬瓜○藤豆○新芋○蕪○早松茸○あらめ○苹果○杏子○夏蜜柑

ほととぎす名のりて過る朝もよひ 聞きはづしたる豆腐屋が聲

(子孔) 憂近有必。慮遠無人

月曜 庚申 六月一日 天氣 晴 寒暖

信發

信受

今日中宮院并議  
帝國議會に限るは  
若竹の香に新らしき鱸かな  
一人乗る船作らせん燕子花  
老つゝも早乙女くるふ御田哉  
玉くしけふた上山の木の問より  
梅雨晴 菊池五山  
城中昨夜送輕雷。日氣烘紅暑驟回。已作一年鹽漬計。家々蘆箔曬黃梅。  
若竹の香に新らしき鱸かな  
一人乗る船作らせん燕子花  
老つゝも早乙女くるふ御田哉

(年七廿) 寸行發を貨銅白の錢五

(宅卜) なかるふかと猫と郎女に棠梅

火曜	辛酉	六月二日	天氣	暖	寒
信	受				
長谷院出御	上杉大主人	被田川	多梅木		

六月

140

(年十正天) 寸紙を長信秀光

(傳左) 徴有而信。言之子君

水曜	壬戌	六月三日	天氣	暖	寒
信	受				
長谷院出御	千坂儀	御宅			

六月

141

(年六永嘉) る來に賀浦艦米

(田石沈) ス服心人バベ及ニ人テシ推ヲ已

寒 暖	天 氣	日	月	日	癸 亥	木 曜
			六	四		
信	發	漢族院出席 瑞會半の事係部 山中泰徳命 瑞會に列風揚る火中の烟の如し 占取の事 其非或ハ素ハ 夫ハ興禪寺の権界の定む 此相俟人ハ彩花ニ對テ 信 受				

六月

一六二

(年一卅) 戸百六千燒延火大江直

(札田) 底の盡す出極茶古ていぬだは

寒 暖	天 氣	日	月	日	甲 子	金 曜
			六	五		
信	發	午前の十時漢族院に出席 瑞會に列風揚る火中の烟の如し 占取の事 其非或ハ素ハ 夫ハ興禪寺の権界の定む 此相俟人ハ彩花ニ對テ 信 受				

六月

一六三

(年九廿) る上に途の察視灣臺文博藤伊

(湖石范) 來猶蝶莢成花榮。老向蠶枝露葉桑

寒 暖	天 氣	日 曜	土 曜	乙 丑	六 月 六 日
信 發	杜木局米 東北境内平均地力多 上有家... 半... 長... 午... 日... 米... 甘...				信 受

六月

一六四

(年八廿) 寸定鎮を府北臺團師衛近

(諺四) レ勿トコス貸ニ人ハト房女ト權金

寒 暖	天 氣	日 曜	丙 寅	六 月 七 日
信 發	杜木局米 午... 多... 遠... 貴...			信 受

六月

一六五

(年一卅) ふ玉み臨に會議國帝てめ始下殿宮東

(翁放陸) 狂後醉容能地天。樂中閒足自書琴

寒 暖	天 氣	日 八 月 六	戊 辰	火 曜
信 發				
		立 寄 山 名 傳 定 元		
		桂 物 理 名 列 也 移		
		大 原 也 此 乃 年 新 體 也 美 致 略 あ ん		
		多 毛 滑		
		樂 舞 の ち よ あ り の か う の か の か の か の か		
		如 吐 ち り 若 山 居 を 蘇 平 の 午 名		
		前 あ り ま り 列 村 の 二 人 の あ り ま り 若 山 の 新 村 也		
		午 前 七 時 の り り と 角 中 紳 新 の 新 出 推 ノ		
信 受				

六月

一六六

(年九廿) 啓行に會大社字十赤下陸宮后皇

(蕉芭) 聲の暮の下が屋ひかよ出這

寒 暖	天 氣	日 九 月 六	戊 辰	火 曜
信 發				
		三 日 の 思 田 う か の 銅 像 あ り ま り 生 社 也		
		北 海 の 名 軍 也 の 智 也		
		抽 末 也 の り 房 と 業 あ り 揚 隆		
		和 意 國 の 花 葉 津 の 流 れ 仙 女 洞 花 甲		
		あ		
信 受				

六月

一六七

(年九廿) るらけ授を爵伯寸法寺願本兩



(茶一) なか乳添にらがなへぞか跡の蚤

寒 暖	天 氣	日 一 十 月 六						庚 午	木 曜
信 發									
信 受									

六  
月

一  
六  
九

(年元政安) む定と號徽總の船邦本て以を章日

(珪庭王) 班朝愧首回入幾。議奏見容動辟百

寒 暖	天 氣	日 十 月 六						己 巳	水 曜
信 發		午後廿公園。陸生社。到惠回柏。銅像 拜す。古島若杉の園。旋。金。或。折。面。 シ。備。あり 物。運。和。念。向。入。り							
信 受									

六  
月

一  
六  
八

(年七廿) る入に城京て率を隊戦陸使公鳥大

(武守) 種し落の原の野夏や子撫

寒 暖	天 氣	日 三 十 月 六	壬 申	土 曜
信 發				
信 受				

六  
月

一七

(年十三) ろらせ正改を制官省務商農

(諺國英) スニ背ヲ泉ニ直バレ了ニ飲ヲ水

寒 暖	天 氣	日 二 十 月 六	辛 未	金 曜
信 發				
信 受				

六  
月

一七〇

(年七廿) す着に川仁て率を兵昌義島大將少

(傳左) 志立以信。信出以言。言發以志

日曜 癸酉 六月十四日 天氣 寒暖

信發	福山杉葉館出給書族院日向道不識居女 直其地海より行くなり
信受	白石下車一人力車三台の如し我亦三人 物運載十石の鎌先の所一騎老を 運書板山の上の所あり 頗る雨あり山の上の者あり えに降るなり の所あり 二階の南に敷を 行く又 行く又

(年三慶天) 寸亡滅門將平

六月

一七二

(太夢) 夜一鮮し長てせか置露に夢

月曜 甲戌 六月十五日 天氣 寒暖

信發	今日いそがしき日なり
信受	朝霧は長夜を伴給ふ 山中は霧あり あへて雨あり

(年一卅) ろらせ布發法籍戸 (年九廿) 人萬數者死嘯海大陸三

六月

一七三

(天樂白) 忠爲直以臣。聖爲明以君

火曜 乙亥 六月十六日 天氣 晴 寒暖

信發	三田 洪	老婦 襟巻 志也 爲 下 船 出 二 及 三 東	總 杜 崎 多 杉 四 等 櫻 二 本 等	起 坐 預 神 首 節 二 方 針 分 也 八 節 二	輕 敷 浪 波 故 志 等 二 口 保 敷 步 山 中 山 邊	山 中 山 邊 志 等
信受	三田 洪	三田 洪	三田 洪	三田 洪	三田 洪	三田 洪

(年九廿) 寸始開を法便郵包小

六月

一七四

(梅支) 蓮る散蓮るく開や起くむ

水曜 丙子 六月十七日 天氣 晴 寒暖

信發	午 二 時 三 時 大 小 節 二	起 坐 預 神 首 節 二 方 針 分 也 八 節 二	輕 敷 浪 波 故 志 等 二 口 保 敷 步 山 中 山 邊	山 中 山 邊 志 等	山 中 山 邊 志 等	山 中 山 邊 志 等
信受	午後 三 時 三 時 三 時 三 時	三田 洪	三田 洪	三田 洪	三田 洪	三田 洪

(年九廿) 寸始開を館事領國帝津天在

六月

一七五

(炳澎) 波風有路世。水海如心人

六月

木曜  
曇り一時

丁丑

六月十八日

寒暖  
晴 天氣

信發	三四時
信受	初四のヨウマキスレを 三日のヨウマキスレ

家信来りて子竹と梅子と清見山玉と梅乳ハ  
大振あり  
主人一平の集共歸り来り過  
家書を作らぬ所也子竹おやの老也  
午後梅麻子の晩食の散あり。相又梅乳  
今もその首動りて自心好む梅乳自身不  
信の常主人社の七日の如く清見山玉

(年十三) る成印調の併合布米

一七六

(花氷) てまこづいの水いる流や子下

六月

金曜

戊寅

六月十九日

寒暖  
晴 天氣

信發	三四時
信受	大川一

昨朝中雨降りて思ひに今日晴天氣に入り梅  
葉不毛雨  
飯後靴子着立に流るる衣を脱ぎ  
木乃子ノ忌言の土垣の菓子の梅子  
杜鵑終り啼  
午後小馬御所へ小説ヲ讀む  
梅子又におやの打針

(年十) つ頑を糸條合聯便郵國萬

一七七

(蕉芭) なか走馳をきさいちの蚊は庵我

寒 暖	天 氣	日 曜	庚 辰	日一十二月六			
信	言	發	三	梅	夜	午	來
受	信	受	三	梅	夜	午	來

六  
月

一七九

(年四卅) るさ刺に堂會事參市京東亨星

(ステラクソ) リナ氣香ノ業鴻ハ譽名

寒 暖	天 氣	日 曜	己 卯	日十二月六			
信	言	發	四	後	宅	シ	三
受	信	受	四	後	宅	シ	三

六  
月

一七八

(年七廿) りあ震烈に京東

(明徵文) 松在月窓搖影碎。雨如風竹渡聲涼

寒 暖	雨	天 氣	日 二 十 二 月 六	辛 巳	月 曜
信	發				
四	湖				
	梅				
	信				
	受				
	十二				
	代				
	名				
	同				
	姓				
	梅				
	信				
	受				

(年一卅) 織組黨政憲 (年八廿) 廳開府督總灣臺

六  
月

一  
八  
〇

(子朱) 尺其守則尺得。寸其守則寸得

寒 暖	雨	天 氣	日 三 十 二 月 六	壬 午	火 曜
信	發				
梅	田				
信	受				

(年九廿) りあ金賜恩に者災罹嘯海

六  
月

一  
八  
一

(ソソヨシ) ス存猶行徳ハニ所ルス存ノ耻廉

(々淡) 屋長大るまつあ男や井しらさ

六月

一八二

水曜	癸未	六月二十四日	天氣	雨	寒暖
信	發	大	小	陽	三
信	受	安	子	復	一
<p>今雨多し 願念成公出奔女自出此乱の年公國へ おす古河方基地を以て百十年百泡沫 先年抄写御名湯泉者御井心儀 曉り奉りお針左腰り及御路程 常連馳せし福氣也 室もせし修夏山村の御子なり</p>					

(年四廿) ろらせ殺暗氏一ノルカ紙統大國佛

六月

一八三

木曜	甲申	六月二十五日	天氣	雨	寒暖
信	發	大	小	陽	三
信	受	安	子	復	一
<p>五竹起頭梅雨如昨今日も雨連 此鳥又戻りてきてまた雨連也 湯の假睡一人一平湯を以て持来 鶏肉をコシラセ汁を作 金創二治午後及雨戸推雨濁し山 如湯米を煮て食す 日陰し鬼井中を煮て食す 晩るは湯を食す 天神御札。彌生湯泉地標也 阿国湯</p>					

(年七十) す通開道鐵間崎高野上



(一トラブ) プラカ易ハトコス爲ヲ善

六月

一八四

寒暖	天気	日	干支	曜
寒	雨	六月十六日	乙酉	金曜
<p>信 發</p> <p>山 三回 持子 白</p> <p>宗方小太郎ノ此生外老ノ意ニシテ</p> <p>山 退氣 徳子</p> <p>午後三回 梅子 采女 海雨 老 山 持子</p> <p>勝海舟 約 口 授 着 符 三 代 某 人 持子</p> <p>宿 竹 筍 四 本</p> <p>欲 情 不 成 如 情 如 不 情 之 結 起 八 海</p>				
<p>信 受</p>				

(年九廿) く行に哇布伯奥陸

(翠曲) へとひ囀蚊てしますれがのに聲の蚊

六月

一八五

寒暖	天気	日	干支	曜
寒		六月十七日	丙戌	土曜
<p>信 發</p> <p>大 三回</p> <p>小 三回 持子</p> <p>夜 西 公 徳 子 着 管 思 田 約 朝 秋 持 子</p> <p>大 八 馬 持 子 海 心 三 回 持 子 持 子 持 子</p> <p>又 徳 子 行 持 子</p> <p>お ー の 主 持 子 三 回 持 子 持 子 持 子</p>				
<p>信 受</p>				

(年九廿) る成印調約條新白日

(子楊)ク招ヲ憂則ハレケ輕言

寒 暖	天 氣	日 九 十 二 月 六	戊 子	月 曜
信 發		三回		
信 受				

西成の夜、月、日光を映す。  
 新井の園、木、公園の樹、山下の池。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。

(年二卅)京入王理顯弟皇逸獨

六  
月

一八七

(臺曉)丹牡白りけ抱を月てれ暮花

寒 暖	天 氣	日 八 十 二 月 六	丁 亥	日 曜
信 發		八回		
信 受				

西成の夜、月、日光を映す。  
 新井の園、木、公園の樹、山下の池。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。  
 池、水、石、山、谷。

(年元龜元)ふ戦に川姉と倉淺井淺長信

六  
月

一八六

火曜 己丑 六月十三日 天氣 寒暖

發信

受信

三四四

松野

Handwritten notes in vertical columns, including dates and names.

六月

一八八

小陰曆六月節 七 大(同) 暑 (節の中月六)

年中行事

此月十一日より官衙學校等暑中休暇始まる。土用に入れば諸所に海水浴始まる。日本鐵道會社にては年々日光回遊列車を始む。十三日より孟蘭盆會なれば、十二日早朝より諸所に草市立ち。河河にては河施餓鬼あり。十六日の藪入は一月の時に同く。九日は淺草觀音の四萬六千日、參詣殊に群集す。兵庫の湊川神社は十日、肥後の阿蘇神社は二十八日を大祭とす。美濃長良川の鶴舟賑ふ。隅田川の大花火は多く此月の末に行ふ。此月隅田川游泳稽古始まる。

納涼 螢とふ野澤にしける蘆のの 後京極攝政 書所見 奮起湖魚挾雨飛 兜 水連青草丈餘肥。圓荷代笠老奴歸。 宗 因 店 來 祇園會の山路に入るや 西山 去 大津 駕 宗 來 夕くれや兀ならびたる雲の嶺

花鳥春秋

朝顔 入谷、其他各所の植木屋 納涼 上野、王子、隅田川、芝浦、愛宕山、遠くは箱根、日光、伊香保、鹽原其他諸温泉 海水浴 芝浦、大森、鎌倉、腰越、逗子、大磯、北條、大洗其他頗る多し

節物時令

納涼 晝寢 海水浴 瀧 氷室守 氷賣 ラムネ 土用休 盛夏 盛暑 帷子 避暑 銷暑 三伏 夏菊 朝顔 苦熱 秋近し 夏の雨 夕立 雲の峯 富士詣 蚊柱 蚊やり火 蚊蝨 蚊の月 夏の月 老鷲 水鷄 鵜飼 蝸牛 射照 靈棚 棚經 墓參 孟蘭盆 田草取 炎天 青嵐 雨乞 清水 打水 遣水 浴衣 行水 洗ひ鯉 冲臈 冷し瓜 汗 土用干 蟬 蟬時雨 晝顔 御祓

食品月令

きはだまぐる 黒鯛 紫蘇實 生椎茸 茄子 隠元豆 萌し獨活 干瓢 夏れぎ 玉蜀黍 朱鱸 芭蕉實 鳳梨 夏の夜は蚊をきずにして五百兩

七月

一八九

(雪嵐) なか曇るふ々朝てしほ養

七月

一九〇

水曜	庚寅	七月一日	天氣	寒暖
早起一課	午前小雨	七月一日	曇	四回晴
午後	午後	午後	曇	梅雨
七月一日	七月一日	七月一日	曇	
午後	午後	午後	曇	
七月一日	七月一日	七月一日	曇	
午後	午後	午後	曇	
七月一日	七月一日	七月一日	曇	
午後	午後	午後	曇	
七月一日	七月一日	七月一日	曇	
午後	午後	午後	曇	
七月一日	七月一日	七月一日	曇	
午後	午後	午後	曇	

(年二卅)施實法高(年五)す通開を便郵に國全(年六十)す行發を報官て始

(バルヨ) プレ容相ハト點汚ト衣白

七月

一九一

木曜	辛卯	七月二日	天氣	寒暖
湖山南	午後	七月二日	曇	田
午後	午後	午後	曇	田
七月二日	七月二日	七月二日	曇	田
午後	午後	午後	曇	田
七月二日	七月二日	七月二日	曇	田
午後	午後	午後	曇	田
七月二日	七月二日	七月二日	曇	田
午後	午後	午後	曇	田
七月二日	七月二日	七月二日	曇	田
午後	午後	午後	曇	田
七月二日	七月二日	七月二日	曇	田
午後	午後	午後	曇	田

(年三元延)す死戦に羽足貞義田新

久保...

(書尙) 邇自必遐陟。卑自必高登

寒暖	天氣	日	三	月	七	壬辰	金曜
信發	四	回	上	置	一	年	日
信受	梅	謝	子				

四姑去年一函 兒井英杉出表  
 孫音字一羅 諸菓子 函林 離法と山  
 多能子 犬吠 川東 離法と山  
 兒井英杉の批 置置置 七 弟 弟 弟  
 祝言 可き 可き 送金 夜事 七 弟 弟 弟  
 直々 果 力 へ し と 弟 弟  
 今 七 乾 吐 天 交 烈 何 弟 弟  
 兜 乃 一 函 揮 弟 弟 弟 弟  
 一 年 日 在 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

七月

一九二

(年四) く開を便郵に間濱京てめ始

(更關) るしは月に雲りよ雲や夜の夏

寒暖	天氣	日	四	月	七	癸巳	土曜
信發	四	回					
信受	梅	謝	子				

乾起 一函 〇 朝 乾 弟 弟 弟 弟  
 貴 函 下 弟 弟 弟 弟  
 昨 夕 續 揮 毫 振 弟 弟 弟 弟  
 一 條 更 來 弟 弟 弟 弟 弟 弟  
 干 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟  
 宿 下 花 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟  
 石 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

七月

一九三

(年一卅) りあ位贈に名一十七百外英長野高

(舍夢吳) 天碧蕪毫揮硯古。月明煎茗煮鑪小

寒 暖	天 氣	日 五 月 七	甲 午	日 曜
信 發		岩井の邸より七の日に 遊園四枚 信知の山 神楽の山花 至る一 海中梅子の樹 有る 有る		
信 受		亡の國を 七の日に		

七月

一九四

(年二卅) ろらせ織組黨國帝

(朗士) 哉家山るくつ樂芍代六五

寒 暖	天 氣	日 六 月 七	乙 未	月 曜
信 發		嵩山腰雨霧 早起 早星大仰 暮七 午後 出帆 宿地 出帆 午後 出帆 宿地 出帆		
信 受		嵩山腰雨霧 早起 早星大仰 暮七 午後 出帆 宿地 出帆 午後 出帆 宿地 出帆		

七月

一九五

(年七廿) ろらげ擧を式典授章念紀年五廿婚大



(枝北) 花櫻ばへるふを幕やしほ蟲

寒 暖	天 氣	日 十 月 七	己 亥	金 曜
信 發		晚方上泉徳入素酒先出		
信 受				

七  
月

一九九

(年七) す入編に籍民平を家分族士華

(史宋) 多常志得人小。少常志得子君

寒 暖	天 氣	日 九 月 七	戊 戌	木 曜
信 發				四時國気天氣所時雨未降
信 受				

七  
月

一九八

(年二) ろらせ稱と館遼延を殿御濱の芝



(草一) 子茄初んら伐やを日明んら伐日今

七 月	寒 暖	天 氣	日 二 十 月 七					辛 丑	日 曜
	信 發								
1101	信 受								

(年三久建) ろなと軍將大夷征朝頼

(耕超葛) 狂中夢似渾年百。醉下花如莫事萬

七 月	寒 暖	天 氣	日 一 十 月 七					庚 子	土 曜
	信 發								
1100	信 受								

(年一卅) す藁侯敬篤川徳 (年元治元) す卒山象間久佐

(太蓼) 藤青やゆしの戀をきさ爪

七 月	寒 暖	天 氣	日 四 十 月 七	癸 卯	火 曜
	信 發	徳久来 長谷川 の あひは 二瓶 表			
信 受					

11011

(年五) 縣置藩廢

(仁純范) 人恕心之已恕。己責心之人責

七 月	寒 暖	天 氣	日 三 十 月 七	壬 寅	月 曜
	信 發	尚何吐未好柳の葉 青山葉葉勢心竹子柳子とまき 午後為柳楊各所播りこれの孔子、魯 孔祥雲以下對其葉層防者、 雨、成、重、本、國、表 三、三、三、三、三、三、三、三、三、三			
信 受					

11011

(年八廿) る崩山州豐縣岡福

(掃劔) 放時一可不心。墜日一可不志

七月

寒 暖	天 氣	日 六 十 月 七	乙 巳	木 曜
信	發	牙後古山大山湯の湯の湯 立花浮若の息子不申の足跡之行 古山池も美山首老の湯火の跡		
信	受			

1105

(年二廿) 水洪大方地後豊

(坡東蘇) 葛與蓬者羨而企。覺自不尺千松長

七月

寒 暖	天 氣	日 五 十 月 七	甲 辰	水 曜
信	發	山古川湯と足跡の湯 古山池も美山首老の湯火の跡 古山池も美山首老の湯火の跡		
信	受			

1104

(年一廿) 寸火噴山梯磐國代岩

(村燕) りよ家小の野裾の士富やぶ飛蟻羽

寒 暖	天 氣	日 八 十 月 七	丁 未	土 曜
信 發	<p>           午後一時許、山崎村に會合す。            西郷侯の四子、長子、先澤、三喜、次、次、            保伊、地、去、井、元、田、後、森、里、の、子、也、了、時、            日本持倉田屋、            堀、            長、松、男、學、子、不、幸、也、留、女、            草、刈、也、坊、心、西、分、也、朝、朝、也、            昨、午、前、雨、半、故、也、            信 受         </p>			

七  
月

1104

(年四) 寸置設を省部文

(ドルーイフスンコービ) プラアハ慧智ルレ優ニ直正

寒 暖	天 氣	日 七 十 月 七	丙 午	金 曜
信 發	<p>           信 受         </p>			

七  
月

1105

(年元) 寸爲と京東を戸江てし詔

(岱青) 馬水やるてなを跡の立夕

七月

寒 暖	天 氣	日 十 二 月 七	巳 酉	月 曜
信 受		上杉大團扇 御長政の 今此水 御理来		
信 受				

二〇九

(年六十) 岩倉具視薨

(子程) 同人興佳時四。得自皆觀靜物萬

七月

寒 暖	天 氣	日 九 十 月 七	戊 申	日 曜
信 受				
信 受				

二〇八

(年元和享) 農商私に姓氏帶刀すところを禁ず

(更蘭)リけりれうの戸上り眠に風涼

寒 暖	天 氣	日 二 十 二 月 七	辛 亥	水 曜
信 發		晚 方 七 時 許 三 人 來 不 能 辨 別 今 出 去		
信 受				

七  
月

二  
一  
一

(年七廿) 才判談の後最後に延韓使公島大

(メトンシツ) リナ便方ノ上最ハ直正

寒 暖	天 氣	日 一 十 二 月 七	庚 戌	火 曜
信 發				
信 受				

七  
月

一  
一  
〇

(年一十) む定を則稅方地

(可無) 生先識眼有人美。子才困情無物造

七月

1111

寒 暖	天 氣	日三十二月七	壬 子	木 曜
信 發	<p>切起右有... 大ハ... 勸業... 午後... 梅雨... 蘭義... 長... 晚... 山...</p>			
信 受	<p>(Blank)</p>			

(年五十) ふ襲を館使公我徒暴の鮮胡

(貫鬼) むかば駄下に處何や又の立夕

七月

1113

寒 暖	天 氣	日四十二月七	癸 丑	金 曜
信 發	<p>信三... 米田... 辻村... 我夫... 親... 吐... 大... 慶...</p>			
信 受	<p>(Blank)</p>			

(年一卅) る上に途の遊漫清韓侯藤伊 (年二) む改を階位の官女

(角其) りけみ憎を花の卯の夜でん踏をきひ

七 月	寒 暖	天 氣	日六十二月七				乙 卯	日 曜
	信 發							
	信 受							

二  
一  
五

(年九) る成道鐵間阪大京西

(越王) 間人幾角蝸名功。曲里千陽羊路世

七 月	寒 暖	天 氣	日五十二月七				甲 寅	土 曜
	信 發							
	信 受							

二  
一  
四

(年十三) 始開學大國帝都京

山下千代燈  
糖餅御  
野菜拍  
うらま



七月

寒 天 日 火  
暖 氣 七 月 二 十 八 日 巳 曜

信 發
信 受

鹿の庭やし見と犬てちお角  
 七月二十八日  
 川村の庭やし見と犬てちお角  
 午後五時  
 夕方五時  
 午後五時  
 夕方五時  
 午後五時

二一七

七月

寒 天 日 月  
暖 氣 七 月 二 十 七 日 辰 曜

信 發
信 受

鹿の庭やし見と犬てちお角  
 七月二十七日  
 午後五時  
 夕方五時  
 午後五時  
 夕方五時  
 午後五時

二一八

(村燕) 峯の雲や脚飛び戻のりの飛

七月

寒 暖	天 氣	日 十 三 月 七	己 未	木 曜
信 發				
		大島昌義山を陥る 是安んせり 此九萬七改國也		晴
信 受				

(年七廿) る陥を山牙昌義島大

二一九

(天樂白) 仙地即憂無散官。爵天真貴當閉身

七月

寒 暖	天 氣	日 九 十 二 月 七	戊 午	水 曜
信 發				
		大島昌義山を陥る 是安んせり 此九萬七改國也		
信 受				

(年七廿) す死戦尉大崎松ひ戦に歡成軍我

二一八

(諺丁拉) ス朽腐ク早ハノモルス熟ク早

七月

二二〇

寒暖	天氣	日一十三月七				庚申	金曜
信受	信受	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">           園庭掃除柏枝新葉下            車夫産所不者念心也此也         </p>					

(年一卅)る了替引の貨銀圓一 (年八廿)才會開會覽博業勸回四第

立陰曆七月節 秋八月 處(節)同(中)月七 暑

八月

**年中行事** 立秋の日(上旬)より始めて秋なり○二百十日は立春より數へて第二百十日目の日にて、農家にて大厄日とす○炎暑の月なれば諸處の瀧繁昌す○一日は大宮なる氷川神社○及び信州の諏訪神社○四日は京都の北野神社○十日は安房の安房神社○十六日は伊豆の三島神社の祭日なり○東京にては二十五日龜井戸天神○二十八日深川八幡の祭日とす○秋の千草花咲き初む

殘暑 定家卿  
秋來ても猶ゆふ風をまつかれに  
夏を忘れし今朝そ立ちき  
苦熱 江馬天江  
一領蕉衫猶覺重。困眠偏與枕相親。  
隔簾竹影有時動。只見清風不到人。  
秋風もまたそよめかすばかり也  
菅沼曲翠  
裏店や西瓜に並ぶ物の本魚  
行雲のうつりかはれる残暑かな素

二二一

**花鳥春秋** 蓮○不忍池、芝辨天池  
瀧○王子、目黒不動、桐ヶ谷、十二社等  
秋草○向島百花園、廣尾笑花園、上野鶯花園其他諸所  
廿六夜待(陰曆七月廿六夜)○品川、高輪、九段坂、湯島天神、神田明神、洲崎

**節物時令** 立秋○初秋○秋風○殘暑○稻妻○初嵐○秋草○秋七草○蓮○銀河○花火○早稻○秋暑○秋蟬○秋の螢○二百十日○鈴虫○松虫○花野○秋の野○秋の千草○花すゝき○西瓜○眞桑瓜○初たけ○茸狩○秋の空○秋の雲○秋の聲○秋の鐘○下り鮎○さび鮎○初紅葉○芙蓉○露

**食品月令** 鮭腹ら子○海鼠○さはら○いなだ○薯蕷○なた豆○しめじ茸○西瓜○まくは瓜

一葉ちりて箒の沙汰におよはれと  
秋をたゝせる今朝のはつ風

田鶴丸

(一リ一々) リナ愛ハ實眞ノ中實眞

八月

寒 暖	天 氣	日 一 月 八				壬 戌	日 曜
信 發							晴
信 受							揮山伯の二羽 目録抄伊能日記 の巻末に記す 書状を出入

二二三

(年五十) る入に鮮朝て率を兵使公房花

(袖翠) 虫取火に間ぬ見も顔や半夜ふ逢

八月

寒 暖	天 氣	日 一 月 八				辛 酉	土 曜
信 發							
信 受							京橋の柳千抽 地方より日本橋 西川に多し 酒女一枝 最上

二二三

(年九廿) 寸行發を券郵念紀の付像肖下殿兩久能仁熾

(兆葉) リけり泊に宿る出の蚊りよきいす

八月

寒暖	天氣	日	月	年	干支	曜
信	受	八	四	月	甲子	火曜
<p>山崎此葉書来 宿安住          山崎山下の三ノ宮の宿山崎カト          一ツ子一鳥肉一牛肉料理加減未だ計精なり          此葉書来の宿山崎カトの三ノ宮の宿山崎カト          午後本郷 上宿の宿山崎カトの三ノ宮の宿山崎カト          天気曇り雨降る 宿山崎カトの三ノ宮の宿山崎カト          夜晴 宿山崎カトの三ノ宮の宿山崎カト          宿山崎カトの三ノ宮の宿山崎カト</p>						

二二五

(年十三) 才薨耶次象藤後爵伯

(村燕) 五この蟬や櫃を閑の日半

八月

寒暖	天氣	日	月	年	干支	曜
信	受	八	三	月	癸亥	月曜
<p>東の匂ちき          晩方立花徳斎不帯返札来          半時散敷歩梅田の江電車改定案改定          泥砂路行末車七時常時整理          切取の事車 宿山崎カトの三ノ宮の宿山崎カト          木原在館梅田地味地味宿山崎カトの三ノ宮の宿山崎カト          宿山崎カトの三ノ宮の宿山崎カト</p>						

二二四

(年二卅) 才布公を法締取藥火類銃

(語論) 也知是知不爲知不

八月

水曜	乙丑	八月五日	天氣	晴	寒暖
信	發				
信	受				
<p>早起朝飯 謹以草採す。九十日以上の暑氣の          大東の往中 因 亦東に          上京におく米作の          小食 近 官更の收貯 罪重 禁 三月 閉金          七日 追 徳金 五石 固 公判 あり          昨方 上 移 公 明 納 歸 米 市 元 七 年 行 以 至</p>					

(年八廿) く受を爵侯位勳大文博藤伊

二二六

(堂業) なか房乳を聖の花ゆあ小貼

八月

木曜	丙寅	八月六日	天氣	晴	寒暖
信	發				
信	受				
<p>早起朝飯 謹以草採す。九十日以上の暑氣の          大東の往中 因 亦東に          上京におく米作の          小食 近 官更の收貯 罪重 禁 三月 閉金          七日 追 徳金 五石 固 公判 あり          昨方 上 移 公 明 納 歸 米 市 元 七 年 行 以 至</p>					

(年元永嘉) く築に灣川品を臺砲

二二七

(諺伯拉亞) ス右左ヲ命運ノ者少ハ傳師

寒 暖	天 氣	日 七 月 八	丁 卯	金 曜
信 發		井上梅屋次郎左衛門尉 陸軍省上原旋功 陸軍省白根少佐山田		大工梅屋次郎左衛門尉 陸軍省上原旋功 陸軍省白根少佐山田
信 受		宗方大右衛門 徳任少将 徳任少将		宗方大右衛門 徳任少将 徳任少将

八 月

二二八

(年七廿) ろらせ布公を勅詔るす關に團勇義

(雄白) なかきしけし遂に葉若心の々木

寒 暖	天 氣	日 八 月 八	戊 辰	土 曜
信 發		大工東三郎 大工東三郎 大工東三郎		大工東三郎 大工東三郎 大工東三郎
信 受		大工東三郎 大工東三郎 大工東三郎		大工東三郎 大工東三郎 大工東三郎

八 月

二二九

(年五廿) ギ任に臣大理總閣内文博藤伊

(川露) 蟬蟋る居て來へ先やしまたわ

寒 暖	天 氣	日 十 月 八	庚 午	月 曜
信 發	草木屋裏の北新宅北面の垣際大栗の葉 茂満う作れ井戸流の修繕 井戸屋の裏の井戸の水邊に人まじり午何れ 虫。栗採梅樹の枯木多成り取 大八日午歌道。余四角の收取也 午時虫干草刈余木刈草刈也 午後三時十五分新採の苦菜八枚取 有伊藤の春の細路の 招仙翁の百吟を録す			
信 受				

八月

1111

(年八廿) りあ覽天を虜俘の兵清

(易) 貴富乎大莫高崇。月日乎大莫明著

寒 暖	天 氣	日 九 月 八	己 巳	日 曜
信 發	阿部山中子と撰て来 午後竹女大磯より田宅大八山中新採魚の行 紅豆の所。妙の所。何れも 午前書來甚し			
信 受				

八月

1110

(年九廿) す既皆蝕日てに道海北 (年四) す許を刀廢髮散



(因宗) 花の夢壽んきはらく棒よ見てがや

(明陽王) ♫冷水々漠雲溪。是雨還非雨睡醒

八月

11111

火曜	辛未	八月十一日	天氣	寒暖	
早起爽氣滿樓今朝無風如雁暑乍到 九十夜の上り當年始々涼威此盛年 予前所讀浪淘沙詞王人不在海邊海水浴 ハリ三好庵洋食ハ三品共ニカキ高の湯 年江流大威如燒三時女試マ 木下モシク生カ風ハ九十夜半雨初 加藤曰く支那廣金馬策三徳思 此志子有傳言一徳ハ一ハ有テ三徳言 歳ハ三徳ハ一ハ三徳言ハ一ハ 九十一度ハ大暑有ハ三徳思 三十三度七	信發	信受			
				二十七年此方暑氣	

(年七廿) 才察偵を衛海威隊艦我

八月

11111

水曜	壬申	八月二十日	天氣	寒暖	
目出初潮戸 爽氣吹る朝ハ秋威烈 朝出雲能ハ三曲遊行く 竹下ハ瑞也ありホ東ハハ九十五夜 今所ハ 珍貴者有年格年ハ之ハ カモ年ハ北也 梅子ハ 遠近題鬼ハ 年所ハ 始々暑ハ此ハ秋ハ 江ハ 洋カハ海ハ 信發	信發	信受			
				湯あり	

(年二卅) 戸餘千五燒延火大市山富

(子呂) シナハルナ大リヨ學ハス成ヲ身

寒 暖	天 氣	日 四 十 月 八	甲 戌	金 曜
信	發	<p>滋子いまた乳添井敷あり</p> <p>朝之始今朝も胎動感あり</p> <p>去来より子信條進行する多し</p> <p>二市街車道大橋敷良あり</p> <p>神七宮心取を早し。大ハコハ管撒水</p> <p>新橋山中區出ノ山中毛</p> <p>此方今又四宮若輔と妹</p> <p>伴来也。建行り。急な</p> <p>物光おやあ香煙特</p> <p>上泉徳源舞臺</p>		
信	受	<p>大八福三市</p> <p>夏酒</p>		

(年二卅) 戸餘千四燒延火出市濱横

八 月 廿四日

二三五

(可無) 涯無去轉不蕉芭。面裏猶醉角其

寒 暖	天 氣	日 三 十 月 八	癸 酉	木 曜
信	發	<p>早起日出出朝</p> <p>朝之始今朝も胎動感あり</p> <p>去来より子信條進行する多し</p> <p>二市街車道大橋敷良あり</p> <p>神七宮心取を早し。大ハコハ管撒水</p> <p>新橋山中區出ノ山中毛</p> <p>此方今又四宮若輔と妹</p> <p>伴来也。建行り。急な</p> <p>物光おやあ香煙特</p> <p>上泉徳源舞臺</p>		
信	受	<p>大八福三市</p> <p>夏酒</p>		

(年三長慶) 才蕤閣太豊

八 月

二三四

(諺四) 片ノ善ノ行ハ十斤ノ學ニ勝ル

日曜	丙子	八月十六日	天氣	寒暖
<p>早起者於秋の花態妍麗          午後意三葉の休か          不北威大ハ對在          曉方山中東ハ滋子ノ初都ノ報ナ          夜數歩多虫柑北密桃三顆花葉          夜月覚ハ願北輝</p>				
<p>信 發          山紙本          信 受</p>				

八月

二二七

(年五) 始て國立銀を行置

(九諸) 蝙蝠や遺をわたりてくゆ

土曜	乙亥	八月十五日	天氣	寒暖
<p>早起者於秋無秋の月ノ笑果有          昔生鹿島島 四宮電 為輝光          四宮電 房ノ午後立時農事早港ノ集          滋子 望ノ午後 四宮電 山ノ集          竹子 山ノ集          諸山 身舞ノ 信書 一ノ大ハ          子 國 姑ノ 物          山ノ 大 姑ノ 物 計 報 有 痛 氣 且 酒 折          七 姑 ノ 大 八 竹 子 由 宅</p>				
<p>信 發          山中 信書          信 受</p>				

八月

二二六

(年三卅) 列國合軍北京城を陷る

(洲南) 全甄耻碎玉夫丈。堅始志酸辛經幾

八月

二三八

月曜	丁丑	八月十七日	天氣	寒暖
<p>信發</p> <p>劉西田園出の栢枝を暑中已舞に未          其の三井の糸の太政博覧屋の油一盞          大蔵に打實物も十考徳者怒ハト云々十七          日美熟の上は休あり          竹女千任男直行くおら年々行々          お代宛方海電          土蔵を閉き長共と對乾様す 能造流し廊          土蔵指敷行字不積取          信受</p> <p>來報の真信</p>				

(年四承治) す起に豆伊を兵朝頼源

(由乙) くさに岸のらちあは日今や萍

八月

二三九

火曜	戊寅	八月十八日	天氣	寒暖
<p>信發</p> <p>此の七久文三年の危          日列(甲午年百)</p> <p>信受</p> <p>此の七久文三年の危          此の七久文三年の危          此の七久文三年の危</p>				

(年三久文) る下に州長卿七等公條三

(宗政達伊) 多髪白平時。過年少上馬

寒暖 晴雨 天氣

日九十月八

巳卯

水曜

八月

信發	伊勢山田山打針 栄元松也撒水 ホシタ樹肥ニ〇文三平段へ判ト菓子路 大八張延亮通シ 鍾金江島遊行 祝三山屋銀行 行キ 可三山屋炭炭百圓也 批 受取也モ 郵便局 川ラヌコル 湯水小ル 祝 三十三の築地林病院 行リ 宛モ流子乳部 お前ノ 湯ナリ 煙 六六 針 深ガ 五六 糸 切 并 懐モ 忘ル 山中 五ノ 成リ 糸ノ 〇 雷鳴 驟雨 一時 雨ナリ 福澤 是 免 雨 應ニ 則方 又 行 今 晩 又 涼シ	信受
伊勢山田山打針	本年 元月 末 始 陣	

(年元) 才脱を川品等揚武本榎

1150

(々淡) 哉りどかむ羨なき憂の鵜の森

寒暖 晴雨 天氣

日十二月八

庚辰

木曜

八月

信發	伊香保 昨 年 二 月 〇 日 今 年 四 月 迄 拾 四 箇 石 井 經 湯ノ 〇 竹子 及 我 大 磯 子 依 伊 等 甲 斐 岩 鶴 取 寄 也 鶴 計 依 竹 子 命 〇 痛 院 入 道 流 子 〇 湯 〇 〇	信受
伊香保 昨 年 二 月 〇 日 今 年 四 月 迄 拾 四 箇 石 井 經	湯ノ 〇 竹子 及 我 大 磯 子 依 伊 等	

(年元正天) ぶ亡景義倉朝

1141

(圖立) つ一月界世千大き廣や名

八月

寒 暖	天 氣	日 二 十 二 月 八	壬 午	土 曜
信 發				
信 受				

今秋も紅葉花を急ぐ。水戸城と雲の流  
 子前(紫地)枯病院(新)か湯の病  
 も元田林(小乳)部七切(井)し(白)田(田)成  
 一(物)分(熱)湯(分)日(湯)枯(快)五(成)下  
 二(鬼)高(高)多(多)片(片)山(山)中(中)立  
 あり(英)七(日)東(東)海(海)宅

(年六廿) 水洪大阜岐

二四三

(來完) 松馴磯もに底の水や翠翡

八月

寒 暖	天 氣	日 一 十 二 月 八	辛 巳	金 曜
信 發				
信 受				

早起(鳴)し川(打)系(と)餘(有)暇(全)所(下)初(亦)  
 上(志)。(月)日(七)十(分)心(を)暑(計)切(し)  
 其(前)上(物)花(沢)屋(方)理(山)瀧(信)公(日)景(晴)公(に)  
 車(所)保(存)海(海)任(公)心(を)對(の)危(海)好(日)景(晴)公(に)  
 百(塔)新(立)。(水)入(り) 芥(沢)千(坂)小(木)村(沢)  
 大(流)成(才)志(在)為(到)子(は)來(海)田(邊)送(る)  
 晚(翌)日(未)故(敷)歩(下)駒(麻)葉(七)竹(の)  
 山(後)冷(氣)單(物)耐(し)難(さ)と(免)心(の)

(年十) く開を會覽博業勸回一第

二四二

(貫鬼) くゆりやくを水は心に共と鶴

八 月	寒 暖	天 氣	日 曜	甲 申	月 曜
			日 曜	癸 未	日 曜
			信 發	信 發	信 發
			信 受	信 受	信 受

(年二卅) 雨風暴島兒鹿 (年十三) ず薨光宗奧陸爵伯

(諺西) シト尊リヨ銀金ハ友良

八 月	寒 暖	天 氣	日 曜	癸 未	日 曜
			信 發	信 發	信 發
			信 受	信 受	信 受

(年四) 寸許をる寸婚相民平族華

(和蘭)リ宿雨に軒やればあ蝶の夏

八月

二四六

火曜	乙酉	八月二十五日	天氣	晴	寒暖	九
<p>早起者花。起者可能立成也。吳中          天神像を掛け拜礼一家息成火を祈り          大八代初三と瑞波殿三財務也          後し困路何しのる利古百六拾回外          幾百五十四圓辨償る決心し得ず          徳弥来々又山中野々青島氏より電          代澤結納月深結納指輪持あけたり          太呂生枝日此指輪月此也思ふに在          折留丹長政来不徳也方也</p>						
信受		三十三度四				

(年二廿) ろらぜ任に裁總局査調度制室帝文博藤伊

(角其) 西は日今東は日昨や妻稻

八月

二四七

水曜	丙戌	八月二十六日	天氣	晴	寒暖	九
<p>朝半子夏起之者蓮花及び西子菊          著葉の物口既石也          七子山守徳有る候瑞徳也          才天高基にあり美の来下折也          子初院に新しき山陽中築也          其の日向拾遺物喜也折理也          大八代田原の事三三三三三三三三三三          東。大八代田原の本の心傳あり目一板也          一土心けの園陽事多し祝多し百五十四度</p>						
信受		三十三度四				

(年二廿) ふ行を祭年百三府開戸江



(考支) 哉さ暑の秋る居て来てま梢

寒 暖	天 氣	日七十二月八	戊 子	金 曜
信 發	八月 信受 八月 信受			
信 受				

(年元) 位即御皇天上今

八月

二四八

(諺漢) ム棲デン擇ヲ木ハ禽良

寒 暖	天 氣	日八十二月八	戊 子	金 曜
信 發	八月 信受 八月 信受			
信 受				

(年二卅) し多甚傷死崩潰山銅子別 (年四) 寸廢を名の人非多穢

八月

二四九

(-ラルフ) リナ詩ノ響有ハ樂音樂音ノ聲有ハ詩

八月

寒 暖	天 氣	日 曜	庚 寅	八 月 三 十 日
信 發	日三回踏 日三回踏 三回踏			
信 受	朝ソツフ 午ニ也 晩ニ也			

(年十三) リえ賜下を圓百七千二金に方地水洪後越

二五二

(堂素) なか哀む涼てに陰の月日三

八月

寒 暖	天 氣	日 曜	己 丑	八 月 二 十 九 日
信 發	日三回踏 日三回踏 日三回踏			
信 受	朝ソツフ 午ニ也 晩ニ也			

(年七廿) るらせ叙に爵伯光宗奥陸

二五〇

(太夢) 花耶女し淋ばれ折手にのも我

月曜

辛卯

八月三十日

天氣

寒暖

八月

二五二

信發

信受

鈴一法師  
 午前長政回中油元行前山木茂山果  
 松本梅屋末の。半坂子素行  
 驟雨巻来。美白海山の夜然。け地毛  
 雨。多。り。た。金。り。健。人。皆。長。り。  
 晚。景。坂。長。政。回。中。油。元。行。前。山。木。茂。山。果。一  
 和。あ。り。七。箇。皆。あ。

(年二世) 任就御に務軍りよ日此下殿宮東

白露 (陰曆八月節) 九月 秋 (同八月の中節) 分

年中行事

秋分の日、秋季皇靈祭を行は  
 る、次第春季祭に同じ○秋の彼岸、亦春の  
 彼岸に同じ○十五日神田祭禮は日枝祭と隔  
 年にて東京の二大祭なり○十六日は芝神明  
 宮○十九日は赤城明神○廿一日は小石川白  
 山神社及び根津神社○廿七日は千駄谷八幡  
 の祭禮とす○此月も四月と同じく全國神社  
 の大祭多し○十五夜の觀月は此月の下旬、  
 陰曆の八月十五夜なり

詠人不知

白雲に羽うちかはしとふ雁は

秋 曉 草場 珮川

殘蟲聲細月低斜。涼意新經星夕加。

莫是天孫別時淚。一籬露滴牽牛花。

十團子も小粒になりぬ秋の風

名のりけり抑もこれは秋の月

市人の物うち語る露の中

謝 蕪 村

荒木田守武

森川許六

九 月

花鳥春秋

萩○龜井戸龍眼寺、百花園、  
 笑花園、麻布仙花園其他  
 觀月○高輪、芝浦、綾瀨川、隅田川、愛宕  
 山、洲崎、湯島天神、九段坂  
 蟲聽○道灌山、日暮里、廣尾、向島、關口

節物時令

秋蟲○蟲聲○蜻蛉○秋蝶○萩○桔梗○女郎  
 花○かる萱○われもかう○藤袴○すゝき○  
 葛の花○稻刈○秋分○秋季祭○後の彼岸○  
 月○秋月○名月○明月○中秋○望月○觀月  
 ○月夜○尾花○桐一葉○砧○案山子○鳴子  
 ○引板○落し水○秋山○鮭○野分○朝寒○  
 夜寒○新米○新稗○新蕎麥○初雁○渡り鳥  
 ○秋海棠○鳶

食品月令

ぼら○かどき○生鮭○ます○  
 木耳○くわぬ○蓮根○桃○梨子○棗○くる  
 み○銀杏○葡萄

二五三

(涯王) 荷洲滿盡翻珠露。起末嶺風清夜一

九月

寒 暖	晴	天氣	日 二 月 九	癸 巳	水 曜
信 發	今日の農家、虎の二百十の、減の種、種、天、 則、松、本、と、呼、ひ、松、林、の、打、針、 信、來、梅、子、と、呼、ぶ、大、八、の、大、城、の、 信、來、宅、を、清、り、し、 二、回、の、鶏、を、買、ひ、汁、及、肉、を、煮、 今、年、の、虎、の、り、わ、も、二、百、十、の、 宿、り、の、里、の、遠、り、身、外、和、 印、材、の、一、紙、を、買、 夜、合、及、敷、の、酒、を、 何、れ、小、梅、子、を、 山、井、の、梅、子、を、 九、尾、の、梅、子、を、				
信 受	三十二夜九				

二五五

(年十三) ろらせ止廢省務殖拓 (年二政安) 人萬廿者死震地大戸江

(村燕) なり稍く行ひらけ露のふいのも

九月

寒 暖	雷	天氣	日 一 月 九	壬 辰	火 曜
信 發	後、雨、刀、梅、子、 十、尾、の、梅、子、を、 大、尾、の、梅、子、を、 信、來、宅、を、清、り、し、 二、回、の、鶏、を、買、ひ、汁、及、肉、を、煮、 今、年、の、虎、の、り、わ、も、二、百、十、の、 宿、り、の、里、の、遠、り、身、外、和、 印、材、の、一、紙、を、買、 夜、合、及、敷、の、酒、を、 何、れ、小、梅、子、を、 山、井、の、梅、子、を、 九、尾、の、梅、子、を、				
信 受	此、七、二、の、子、を、 牛、乳、の、所、の、 梅、子、の、 雷、の、 信、來、宅、を、清、り、し、 二、回、の、鶏、を、買、ひ、汁、及、肉、を、煮、 今、年、の、虎、の、り、わ、も、二、百、十、の、 宿、り、の、里、の、遠、り、身、外、和、 印、材、の、一、紙、を、買、 夜、合、及、敷、の、酒、を、 何、れ、小、梅、子、を、 山、井、の、梅、子、を、 九、尾、の、梅、子、を、				

二五四

(年八廿) ふ向に灣臺督總島高

(更蘭) リよしりなと夜きし美や露白

寒 暖	天 氣	日 三 月 九	乙 未	金 曜
信 發	村松美茂系	今祖月色好し	大蔵 千子物出書	四重 事輔 吳忠 竹子 約 夜 十 半 紙 書 送 不
信 受	三十二五六			

九月

二五六

(年七) ろらせ定制則規替爲便郵

(翰劉) 中明月葉梧階滿。處覓無聲秋起睡

寒 暖	天 氣	日 四 月 九	乙 未	金 曜
信 發	三十二五六	三十二五六	長 改 来 々 佳 新 菊 々 書 類 指 系 抄 写	一 因 乃 宿 料 二 十 百 柳 小
信 受	山石井 初六と抗女			

九月

二五七

(年二) ろらせ殺暗郎次益村大

(熹朱) 秋舍繞花閑薄淡。土塵無去歸簷茅

寒 暖	天 氣	日 六 月 九			丁 酉	日 曜
信 發	大雷ニ春ニ 長政宿侍十時及 梅形也	徳子 徳子 徳子	徳子 徳子 徳子	徳子 徳子 徳子	徳子 徳子 徳子	徳子 徳子 徳子
信 受	長政「じん」 若一	若一 若一	若一 若一	若一 若一	若一 若一	若一 若一

九  
月

二五九

(年七) く赴に國清てしと使大權全通利保久大

(雄白) し白圍の蛛蜘蛛てればりき原の草

寒 暖	天 氣	日 五 月 九			丙 申	土 曜
信 發	小崎ニ 徳少梅	小崎ニ 徳少梅	小崎ニ 徳少梅	小崎ニ 徳少梅	小崎ニ 徳少梅	小崎ニ 徳少梅
信 受	三十二夜二	三十二夜二	三十二夜二	三十二夜二	三十二夜二	三十二夜二

九  
月

二五八

(年二卅) ふ賜を圍千四帑内災風灣臺

(潜道) 明處淺雲浮在月。斷吹風半夜頭樓

九月

寒 暖	天 氣	日 八 月 九	己 亥	火 曜
信 發		負亮、俄、遠、然、と、お、出、り、ソ、ラ、ナ、ク、ト、カ、		
信 受		夜平、老、夫、人、と、負、亮、		

(年元) む定を制の元一世一め改と治明を元

二六二

(村燕) 月のふけてけかしころもきな櫻

九月 二七、二八

寒 暖	天 氣	日 七 月 九	戊 戌	月 曜
信 發		夜平、老、夫、人、と、負、亮、		
信 受		二、三、と、ソ、ラ、ナ、ク、ト、カ、		

(年五) 寸始開信電の間京兩四東

二六〇

(太蓼) ゑこの蟲りけりな寐晝はけ明を眼

水曜	辛丑	九月十日	天氣	晴	寒暖
<p>信發</p> <p>東京最高温極 三十四度七 九十四度五 華氏</p> <p>信受</p> <p>明治五年九月三日 二最高極反トスル故 明治九年東最高温</p>					

九月

二六三

(年四祿永) ふ戦に島中川田武杉上

(白太李) 人古照經曾月今。月時古見不人今

水曜	庚子	九月九日	天氣	晴	寒暖
<p>信發</p> <p>二十九度三 此方竹と木信</p> <p>信受</p>					

九月

二六二

(年九廿) 人千一者死溺てし決潰川内庄縣知愛



(臺曉) 雲のきある定に鶴やしけつし

寒 天  
暖 氣

日一十月九

壬 金  
寅 曜

信 發

書二回徳二回

信 受

露ニヤ話ニ又あり  
ハルカキ出

今朝の山も物も物も伊吉保の若自初  
午初長崎の信は信子ハ此落書来  
とる多踏若キ誠之極 既信三回中  
是も折種も田舎と改  
平八来ハ前指と送る漢ハ寸所仍五十  
おやとすも東ハ家内を子ハ若女  
晩天長崎の信ハ出交と考すハハ  
極極極極極極極極極極極極極極  
今夕得ハ并ハ信ハ入ハ信ハ入

(年二卅) ふ賜を章綬大花桐日旭に伯木大

九月

二六四

(義興陳) 聲秋著處無愁却。盡葉吹風西遣莫

寒 天  
暖 氣

日二十月九

癸 土  
卯 曜

信 發

信 受

昨夜の陣雨曉来ハ無降ハおや  
次ハ心ハ安ハ入ハ信ハ入ハ信ハ入  
ハ信ハ入ハ信ハ入ハ信ハ入ハ信ハ入  
二百廿日ハ陣雨陣雨ハ信ハ入ハ信ハ入  
又ハ信ハ入ハ信ハ入ハ信ハ入ハ信ハ入  
雨ハ信ハ入ハ信ハ入ハ信ハ入ハ信ハ入

(年五) る成道鐵間濱京

九月

二六五

(白太李) 月秋滴珠垂露白。城秋搖水映雲白

寒 暖	天 氣	日 曜	甲 辰	九 月	三 十 日
信	發	三 時			
信	受				

早起湯元行寒泉頭髪を洗ひ  
 船三尾之雲の求む鶴牛苦購求  
 竹子者牛と木末梅子七石八分考然  
 夢の氏意地記を讀む  
 福三と端あま喜平段を中七十六夜長政三所  
 栗多ゆきあり  
 根本著の掃瘡匠并針及及晩星  
 鶴字物十の時執事後

(年七廿) 葦發御へ島廣下陸帥元大

九月

二六六

(雄白) 庇濱すたもたも薦や風秋

寒 暖	天 氣	日 曜	乙 巳	九 月	十 四 日
信	發	三 時			
信	受				

長政より木末の仍る直と直り  
 并次大真極建碑一由りあり  
 名下横本二字若失并芥吹掃  
 杉岸掃神あり首の打針  
 龍鶴の傳部  
 打針

(年九廿) 水洪大島向下府 (年五長慶) 戰大原ヶ關

九月

二六七

(期土) 松の庭きしすに終やまづ稻

寒 暖	天 氣	日 五 十 月 九	丙 午	火 曜
信 發	大八新著官話篇末	四時	山蔭堂於赤飯指是	新著教科書出来御送しとあり
信 受			山蔭堂於赤飯指是	新著教科書出来御送しとあり

九月

二六八

(年二卅) 戸餘千二燒延火大館函(年七廿)る破を兵清に大軍我戰激大壤平

(謙之曹) 寒水秋天碧滿月。去樓南過遠聲一

寒 暖	天 氣	日 六 十 月 九	丁 未	水 曜
信 發	三時			
信 受				

九月

二六九

(年二卅) 寸雪初山士富



(太蓼) なか夜降ばてし出ひ思雨の秋

九月

寒 暖	天 氣	日 九 月 二 十 日					辛 亥	日 曜
信 發								
信 受								

(年元亨元) 城落置笠

二七三

(連惠謝) 雁雲度唳寥。蟬風含瑟蕭

九月

寒 暖	天 氣	日 九 月 十 九 日					庚 戌	土 曜
信 發								
信 受								

(年三) るさ許をふ呼を氏姓民平

二七四

秋夜素降の如く思ふ所は  
 山は雲霧に覆れ雨止む  
 昔の如く山は海に並  
 馬車生かす風は  
 四人乗車前橋十二の  
 千石の岩屋 山崎の  
 三文三匹車 山崎の  
 長崎の如く 山崎の

(莊章) 香夢蓮風野岸雨。冷華露月殘山半

寒 天 日 癸 火  
暖 氣 九 丑 曜

九  
月

信 發

号外大浦波多野故土  
久保田浪船伝来  
海山夜高橋之舟伝

信 受

二七五

(年元) ぶ行を儀の節長天てめ始

(雪嵐) れだす繩ぬきごう心の風秋

寒 天 日 壬 月  
暖 氣 九 子 曜

九  
月

信 發

信 受

二七四

(年元) く置を縣川奈神

(祐張) 凉笛一高天。靜門千鎖月

九月

寒 暖	天 氣	日 四 十 二 月 九	乙 卯	木 曜
信 發				
信 受				

Handwritten text in vertical columns (from right to left):

- 鹿兒島の島に鹿の定平す
- 年十
- 鹿兒島に鹿の定平す
- 年十
- 鹿兒島に鹿の定平す
- 年十

(年十) ず定平賊の島兒鹿

二七七

(更闌) にちうく動の萩りけに咲りけに散

九月

寒 暖	天 氣	日 三 十 二 月 九	甲 寅	水 曜
信 發				
信 受				

Handwritten text in vertical columns (from right to left):

- 萩の原に萩の花を散らす
- 花散らす萩の原に萩の花を
- 散らす萩の原に萩の花を
- 散らす萩の原に萩の花を
- 散らす萩の原に萩の花を
- 散らす萩の原に萩の花を

(年七廿) 答奉語勅將中東伊

二七六

(炎夢朱) 帷滿月毫揮夜午。席搖花露滴曉晴

九月

寒 暖	天 氣	日六十二月九	丁 巳	土 曜
信 發	大ハ花三長年者出者有 ありの如き末也何事保れ末知る事 梅子、多敷三直長川村の如き有也 山下、赤海軍大佐陸軍少佐、在田路 長尾、梅田、北吉、敷、ありの如き有也 午、收、四、信、あり、料、有、手、届、け、り、三、信、あり、出、者、有、り、 不、久、少、人、信、發、り、二、三、信、あり、大、ハ、花、三、長、年、者、出、者、有、り、 上、行、く			
信 受				

二七九

(年二卅) る贈を位一正に萬實條三 (年二卅) ず薨任喬木大爵伯

(太蓼) 升-花に升-露ヲ萩白

九月

寒 暖	天 氣	日五十二月九	丙 辰	金 曜
信 發	天神、信、あり、 山下、母、入、来、信、あり、			
信 受				

二七八

(年七廿) ず任に官令司軍二第將大山大



(理有朱) 來外天濤秋里萬。聽中月鶴老聲一

九月

寒 暖	天 氣	日 八 十 二 月 九	己 未	月 曜
信 發		長 政 の 御 前 に 御 奉 進 の 御 禮 を 奉 進 す	御 母 皇 様 の 四 十 三 回 長 政 の 御 奉 進 の 御 禮 を 奉 進 す	
信 受				

二八一

(年元延萬) 下宣王親皇天上今

(雄白) よも次しらあの菓葛ふけふのき

九月

寒 暖	天 氣	日 七 十 二 月 九	戊 午	日 曜
信 發		長 尾 権 常 成 殿 御 前 に 御 奉 進 の 御 禮 を 奉 進 す	御 母 皇 様 の 御 奉 進 の 御 禮 を 奉 進 す	
信 受				

二八〇

(年七廿) す着に島廣將兩地山山樺



(六許) 葉紅つはて雨時に岩やはも秋

寒 暖	天 氣	日 一 月 十	壬 戌	木 曜
信 發				雨
子 因 因 因 因 因	川 上 忠 め た ら せ り			
信 受				
子 因 因 因 因 因	北 海 の 早 物 早 あ			

十月

二八五

(年二永壽) ふ戦に島水に大軍兩の平原

降 霜 月 十 露 寒 (節の 月中 九同) (節 月 九 曆 陰)

十月

二八四

年中行事

十七日は神嘗祭として、新穀を伊勢大廟に薦め玉ふ祭儀なり。○六日より十五日まで、浄土宗諸寺に十夜詣あり。○十一日より十三日まで、日蓮宗諸寺に會式あり。何れも信徒群參す。○十日、湯島天神祭なり。○此月二十日、商家にては惠比須講として惠比須神を祭る。○大和丹生川上神社祭は八日。○日向宮崎宮祭は二十八日。○筑前香椎宮祭は二十九日とす。○下旬より團子坂の植木屋にて造り菊を見せしむ。

秋植物

後 醍 醐 院

立田山みれの錦も中たえぬ

松をのこしてそむる紅葉に

江都客裏雜詩

頼 杏 坪

八百八街宵月明。秋風處々賣蟲聲。

貴人不解籠間語。都是西郊風露情。

きのふには似て似ぬ物か草の露

梅 坊 白

知る人になりて別るゝ案山子哉

之 然

また従弟尋ねよりけり秋の暮

花鳥春秋

菊 ○團子坂、淺草公園、染井、目黒、本所植文、仙花園其他各種木屋

節物時令

秋雨 ○秋夕 ○菊 ○野菊 ○造り菊 ○稻干 ○木の實 ○栗 ○柿 ○鹿 ○鶉 ○百舌 ○鴨 ○後の月 ○秋霜 ○秋の風 ○烏瓜 ○糸瓜 ○梅もどき ○紅葉 ○紅葉狩 ○秋柳 ○秋晚 ○暮秋 ○神嘗祭 ○ふびす講 ○十夜 ○會式 ○菊月 ○捨團扇 ○落穂 ○晚稻 ○冬近し ○ゆく秋 ○きりくす ○竈馬

食品月令

ほうとく ○さんま ○松茸 ○初茸 ○しめと茸 ○新蕎麥 ○芋 ○細根大根 ○柚子 ○栗 ○柿

(遠瀾李) 香自蘭清池。韻生竹靜山

寒暖	西	天氣	日	二	月	十	癸亥	金曜
信	發							
<p>雨は先元学校不効に大雨あつた如く        物不出        山田捕物と呼ぶ午前計時。おやう路        サテ雨あ公使ローセン西参副旅順に罷越し        キシラーと命儀遷延を義を取徴兵の力を        決利にクリウ其内を少の軍艦を        海國の清油防備もたんとの往來切        露公使長崎船来        日誌あり</p>								
信	受							

十月

二八六

(年五) ず禁を買賣身人

(室貞) 月の半夜やれなりましたかのさし涼

寒暖	晴	天氣	日	三	月	十	甲子	土曜
信	發							
<p>大山曰く日英同盟あり日露有事に際各國        一方は加勢を成美莫大に國あり        英國の嚴心中をこの國の決意を        大山は度々存存保長國村海軍死去大山        心海十日程前大山は自答を。韓國遊美        橋上者月招信を呼ぶ。老田平五河浦系        山田捕物と呼ぶ午前計時。おやう路        和山陸軍少將海軍の        御禮者橋の邊り</p>								
信	受							

十月

二八七

(年七廿) ず任に將大軍海道從郷西 (年十三) ず薨治元地山將中軍陸

芝山  
看月

(蕉芭) 庵の草よ來にいきを音の虫糞

十月

二八八

日曜	乙丑	十月十四日	天氣	寒
信	發	於上野書院秋意心切 於大工寺寺來の東社秋意心切 草山秋意心切 貞亮以松山中秋意心切 平後府の東社秋意心切 宗的秋意心切 仙丈秋意心切 三絲秋意心切 山十秋意心切 七回十秋意心切		
信	受	於上野書院秋意心切 於大工寺寺來の東社秋意心切 草山秋意心切 貞亮以松山中秋意心切 平後府の東社秋意心切 宗的秋意心切 仙丈秋意心切 三絲秋意心切 山十秋意心切 七回十秋意心切		

(年九廿) 寸朝來宮和義鮮朝

思江  
看月

(駢高) 易周點朱研露滴。寒窻碧鎖深門洞

十月

二八九

月曜	丙寅	十月十五日	天氣	寒
信	發	於園在細細花柳。貞亮上林 門外運動三宅下。雨東家秋意心切 柳立也。小梅山。秋意心切 大梅山。弟為旌。秋意心切 柳立也。秋意心切 大梅山。秋意心切 柳立也。秋意心切 大梅山。秋意心切 柳立也。秋意心切 大梅山。秋意心切 柳立也。秋意心切		
信	受	於園在細細花柳。貞亮上林 門外運動三宅下。雨東家秋意心切 柳立也。小梅山。秋意心切 大梅山。弟為旌。秋意心切 柳立也。秋意心切 大梅山。秋意心切 柳立也。秋意心切 大梅山。秋意心切 柳立也。秋意心切 大梅山。秋意心切 柳立也。秋意心切		

(年二武建) 世通房藤原藤

月公園

(村燕) なか長夜るゆか踏枝の鳥山

十月

二九〇

火曜	丁卯	十月六日	天氣	寒暖
<p>信發</p> <p>大工下即夢始</p> <p>信受</p>				

(年元治元) すと配支行奉國外を吉諭澤福

高由巻  
着月  
相日

(諺西) シ少トコル知ハノモキ多眠

十月

二九一

水曜	戊辰	十月七日	天氣	寒暖
<p>信發</p> <p>信受</p>				

(年六政安) ろらせ處に刑死等内左本橋樹三頼

(茶鑪)花豆紫邊籙數閑。裏陽殘立小醒酒

木曜 巳巳 日八月十 天氣 雨 寒暖

信 發 可三郎と侍来ニ 梅子物少ク 出例ニ徹具  
又木曜前長長侍者云帝座に候事  
政令集田中<sub>刑部</sub>村地<sub>五郎</sub>伊豆<sub>守</sub>山<sub>守</sub>平<sub>守</sub>の  
平由<sub>郎</sub>助<sub>右</sub>田<sub>守</sub>中山<sub>守</sub>柳<sub>守</sub>千<sub>守</sub>政<sub>守</sub>長  
大<sub>守</sub>由<sub>守</sub>有<sub>守</sub>目<sub>守</sub>之<sub>守</sub>流<sub>守</sub>  
木曜上<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>若<sub>守</sub>公<sub>守</sub>行<sub>守</sub>所<sub>守</sub>中<sub>守</sub>候<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>  
川村<sub>守</sub>の<sub>守</sub>松<sub>守</sub>之<sub>守</sub>来  
善<sub>守</sub>之<sub>守</sub>院<sub>守</sub>松<sub>守</sub>之<sub>守</sub>北<sub>守</sub>西<sub>守</sub>松<sub>守</sub>之<sub>守</sub>来  
下<sub>守</sub>之<sub>守</sub>来<sub>守</sub>之<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>之<sub>守</sub>来<sub>守</sub>之<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>  
木曜<sub>守</sub>之<sub>守</sub>来<sub>守</sub>之<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>之<sub>守</sub>来<sub>守</sub>之<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>  
信 受 出例ニ徹具

(年四)才遣差に國各米歐を臣大右倉岩

十月

二九二

(角其)菊の鶴りけみつ葉下の鶏

金曜 庚午 日九月十 天氣 晴 寒暖

信 發 梅子物少ク 出例ニ徹具  
又木曜前長長侍者云帝座に候事  
政令集田中<sub>刑部</sub>村地<sub>五郎</sub>伊豆<sub>守</sub>山<sub>守</sub>平<sub>守</sub>の  
平由<sub>郎</sub>助<sub>右</sub>田<sub>守</sub>中山<sub>守</sub>柳<sub>守</sub>千<sub>守</sub>政<sub>守</sub>長  
大<sub>守</sub>由<sub>守</sub>有<sub>守</sub>目<sub>守</sub>之<sub>守</sub>流<sub>守</sub>  
木曜上<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>若<sub>守</sub>公<sub>守</sub>行<sub>守</sub>所<sub>守</sub>中<sub>守</sub>候<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>  
川村<sub>守</sub>の<sub>守</sub>松<sub>守</sub>之<sub>守</sub>来  
善<sub>守</sub>之<sub>守</sub>院<sub>守</sub>松<sub>守</sub>之<sub>守</sub>北<sub>守</sub>西<sub>守</sub>松<sub>守</sub>之<sub>守</sub>来  
下<sub>守</sub>之<sub>守</sub>来<sub>守</sub>之<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>之<sub>守</sub>来<sub>守</sub>之<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>  
木曜<sub>守</sub>之<sub>守</sub>来<sub>守</sub>之<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>之<sub>守</sub>来<sub>守</sub>之<sub>守</sub>佐<sub>守</sub>  
信 受 出例ニ徹具

(年二應慶)御崩皇天明孝

十月

二九三

(建王) 家誰在思秋知不。望盡人明月夜今

十月

二九四

土曜	辛未	日	十月十日	天氣	寒暖	信發
<p>大平東居者不來</p> <p>此後天無風雨之時</p> <p>晚方德休未深本部七官應身外一人向伴末</p> <p>方樹河切親王親像際書布式其長祿ノ下</p> <p>留七兄軒友主書遠無忠申梓甲 為多矣</p> <p>有柄川親之親孫孫</p> <p>信受</p> <p>此書可</p>						

(年七廿) 才卒弘井中人山洲櫻

(俗涼) なか鹿河す出き啼てれつに音川

十月

二九五

日曜	壬申	日	十月十一日	天氣	寒暖	信發
<p>大工屋合吉來 地形羅張 二箇半 三箇半 吉吉</p> <p>大上考人來</p> <p>若東。洋殿。上物。本殿。聖殿</p> <p>海慢。右邊。黃。日。信。軒。終。し。有。る。及。許。要。</p> <p>及。四。時。廿。伊。殿。名。う。高。北。堂。極。土。信。大。誠。受。</p> <p>信受</p>						

(年七廿) る入に覽天を鷹靈るたへ捕に艦穗千高



(孫名沈) 秋鷹白風西樹紅。節花黃月淡雲碧

寒 暖	天 氣	日 二 十 月 十	癸 酉	月 曜
信 受	信 受	雨 天 大 子 東 之 氏 甚 之 國 是 也 山 縣 伊 藤 切 乃 大 山 井 上 如 元 老 之 稱 也 之 首 相 如 乃 五 元 老 外 務 西 渡 大 臣 會 合 時 中 國 聖 入 之 佳 山 本 孝 因 小 村 四 臣 傳 更 公 口 一 又 旅 歸 何 也 記 之 好 書 記 官 之 年 乃 行 一 手 取 攝 刺 片 有 積 月 乃 覽 跡 洗 除 改 一 夫 得 地 之 乃 實 之 昨 年 乃 東 橋 側 之 別 也 切 也	雨 天 大 子 東 之 氏 甚 之 國 是 也 山 縣 伊 藤 切 乃 大 山 井 上 如 元 老 之 稱 也 之 首 相 如 乃 五 元 老 外 務 西 渡 大 臣 會 合 時 中 國 聖 入 之 佳 山 本 孝 因 小 村 四 臣 傳 更 公 口 一 又 旅 歸 何 也 記 之 好 書 記 官 之 年 乃 行 一 手 取 攝 刺 片 有 積 月 乃 覽 跡 洗 除 改 一 夫 得 地 之 乃 實 之 昨 年 乃 東 橋 側 之 別 也 切 也	十 月

(年三應慶) 寸還奉を政大喜慶川徳

(山來) 薄萩の顔々我はりよ朝今

寒 暖	天 氣	日 三 十 月 十	甲 戌	火 曜
信 受	信 受	雨 天 大 子 東 之 氏 甚 之 國 是 也 山 縣 伊 藤 切 乃 大 山 井 上 如 元 老 之 稱 也 之 首 相 如 乃 五 元 老 外 務 西 渡 大 臣 會 合 時 中 國 聖 入 之 佳 山 本 孝 因 小 村 四 臣 傳 更 公 口 一 又 旅 歸 何 也 記 之 好 書 記 官 之 年 乃 行 一 手 取 攝 刺 片 有 積 月 乃 覽 跡 洗 除 改 一 夫 得 地 之 乃 實 之 昨 年 乃 東 橋 側 之 別 也 切 也	雨 天 大 子 東 之 氏 甚 之 國 是 也 山 縣 伊 藤 切 乃 大 山 井 上 如 元 老 之 稱 也 之 首 相 如 乃 五 元 老 外 務 西 渡 大 臣 會 合 時 中 國 聖 入 之 佳 山 本 孝 因 小 村 四 臣 傳 更 公 口 一 又 旅 歸 何 也 記 之 好 書 記 官 之 年 乃 行 一 手 取 攝 刺 片 有 積 月 乃 覽 跡 洗 除 改 一 夫 得 地 之 乃 實 之 昨 年 乃 東 橋 側 之 別 也 切 也	十 月

(年八廿) 寸着來使大恩謝りよ鮮朝 (年元) る入に京東てめ始駕車

(蕉芭) 風の秋もくなれつは日とかあかあ

十月

寒 暖	天 氣	日 五 十 月 十	丙 子	木 曜
信 受	漸く天氣晴与 大土山人土方四人其棟上其建前より 此即地方南正科多し其為寺に正南北 二方南に凡そ方立ちて 天土の鳥カ、祝儀也 此方有る者其長収果の類なり然 類も亦む			
信 受				

(年九廿) 寸廢を衛護の臣大

二九九

(白初查) 聲秋作畔河狼白。影槐綠榆黃片一

十月

寒 暖	天 氣	日 四 十 月 十	乙 亥	水 曜
信 受	曉起山雨而晴 午後雨晴日老来 第一雷雲心使り 土方半の間の 青山の 遠く行く 長麻虎采の 此方半の間の 青山の 遠く行く 長麻虎采の			
信 受				

(年七廿) る來に島廣捕の壤平

二九八

(廬南劉) 深秋信枕攪風松。上月知窻到影水

金曜 丁丑 十月十六日 天氣 寒暖

信發	雨 大工不來
信受	陳先の年たの浪又のこを贈る東の信州宮 取の高のこみり松竹の影集 菊池の元而詩の別多とい東 午後所澤間徳の森茂の命の七十五前 祚葉維新前後切のあり黄旗院隣者 南議合身あり可憐人あり 會葬後悲多とい而

(年八皇天智天) 寸薨足鎌原藤

十月

三〇〇

(村燕) 哉寒夜るほのを在自すりきりき

土曜 戊寅 十月十七日 天氣 寒暖

信發	神嘗祭
信受	大工来 冬作来 財の口の中 河の内の立ち廻り 松竹の影を 在の月 木葉を南極の 移轉る海菜 精お七揃起す 待じ書は 松木成り 大工秀乃いりし 在食在定山中入美 あり風のうらな

(年元治文) 寸襲夜に川堀を經後源俊昌坊佐土

十月

三〇一



(諺俚) 鹿ヲ逐フ師ハ山ヲ見ズ

黃菊白菊其外名はなもく(嵐雪)

十月

三〇五

火曜	辛巳	十月二十日	天気晴	寒暖
<p>           晴 植木匠五人来 ユツリ葉山茶花            之小片敷例 移植了 取之 故            花官来。植木匠五人(山茶花又ユツリ葉花            五株取) 取之 不來小群七 摘め取りて            午後三時 榊山 芝 榊 之 後 井 澤 観 楓 之            宅 仙 居ノ 静 静 也 伺ハシ ヲ ス 在            湯 水 停 車 場 目 録 的 目 録 不 動 形 形 是            敷 大 國 屋 晚 七 時 汽 車 新 形 所 リ            銀 花 打 草 七 時            夕 會 海         </p>				
<p>           信 受            遊 目 録 大 國 屋         </p>				

元老院を鎖し其功蹟を表彰す(廿三年)

衆議院頌徳を表上る(廿七年)

十月

三〇五

水曜	壬午	十月二十一日	天気晴	寒暖
<p>           晴 植木匠五人来 ユツリ葉山茶花            之小片敷例 移植了 取之 故            花官来。植木匠五人(山茶花又ユツリ葉花            五株取) 取之 不來小群七 摘め取りて            午後三時 榊山 芝 榊 之 後 井 澤 観 楓 之            宅 仙 居ノ 静 静 也 伺ハシ ヲ ス 在            湯 水 停 車 場 目 録 的 目 録 不 動 形 形 是            敷 大 國 屋 晚 七 時 汽 車 新 形 所 リ            銀 花 打 草 七 時            夕 會 海         </p>				
<p>           信 受            遊 目 録 大 國 屋         </p>				

衆議院頌徳を表上る(廿七年)

(太夢) 哉たぬきて來出に都の里遠

寒 暖	天 氣	日 二十二月十	癸 未	木 曜
信 發	夏 秋 兼 天 山 寺	般 雨 初 公 使 滿 洲 之 近 况 矣 傲 慢 無 心 礼	連 り 陰 樹 可 寒 天 物 々 人 世 ノ 氣 象 如 ト 一	朱 海 始 九 州 の 本 情 を 知 る の 記 事 を 讀 み 梓 山 の 又 雨 井 の 流 水 を 尋 ね
信 受	初 高 田 梓 山 郊			

十月

三〇六

(年八廿) ぶ行を祭念紀都奠安平てに都京

(漢劉) 花似少風驚葉紅。絮如多雨作雲白

寒 暖	天 氣	日 三十二月十	甲 申	金 曜
信 發	山 田 梓 山 の 近 况 を 尋 ね る 為 に 先 づ 山 田 の 近 况 を 尋 ね る 可 し	咳 多 く 印 才 の 標 の 標 木 を 治 す 可 し	山 田 梓 山 の 近 况 を 尋 ね る 為 に 先 づ 山 田 の 近 况 を 尋 ね る 可 し	山 田 梓 山 の 近 况 を 尋 ね る 為 に 先 づ 山 田 の 近 况 を 尋 ね る 可 し
信 受	可 三 即 子 代 來			

十月

三〇七

(年四) く設を卒邏査巡て始

(臺曉) 雁の風てれ亂りよ夜しめそいき

十月

三〇九

十日十二月四

寒暖

天氣

乙酉

土曜

信發

信受

時。高。了。心。事。人。其。了。移。木。好。存。漢。亦。木。作。ん  
 子。前。十。信。味。何。思。以。至。梅。子。と。子。は。成。る。の。以。後  
 道。馬。車。と。其。書。揚。州。張。馬。危。く。人。の。衆。恐。入  
 一。百。招。引。て。半。敵。を。共。い。子。次。取。て。風。愈。々  
 為。り。成。る。其。事。揚。州。都。事。  
 内。建。國。軍。兩。部。心。人。人。車。中。多。日。八。海。陽。電  
 梅。子。の。熟。り。て。引。一。し。て。其。女。賊。也。  
 榊。山。伯。時。七。時。甲。武。鉄。道。耀。兎。出。出。及。接。接。す。切  
 此。所。要。事。未。レ。了。す。時。の。延。引。之。事。計。ら。せ。り。

(年九) 才擊狙を將少田種しなを亂連風神本熊

(翁放陸) 螢寒啼濕露草衰。鵲飛繞白月梧高

十月

三〇九

十五日十二月五

寒暖

天氣

丙戌

日曜

信發

信受

干。信。徳。海。来。徳。女。来。大。木。中。德。書。其。去。居。森。し  
 未。レ。了。游。子。英。一。と。獲。入。運。動。分。来。ん  
 徳。也。半。改。一。物。也。似。正  
 天。神。像。也。拜。す  
 晚。方。長。の。指。く。お。鑄。さ。ま。の。山。中。葉  
 来。の。草。的。誘。張。長。以。長。臨。院。一。ち。好  
 張。め。了。一。元。氣。也。長。改。川。産。敷。移。轉。思。ふ  
 梅。子。今。夕。及。熟。し

(年九十) 才没沈號ントンマルノ船古耳土

(蕉芭) 哉葉紅らかも葉も實は灯鬼

十月

三二〇

寒 暖	天 氣	日六十二月十	丁 亥	月 曜
信 發	晴日三竹千日免山庭の生掃除 大工甚喜外八束九官来、小石敷屋敷 可力九月二十二日し木連す三百山色子葉 未成玉粒三の手成り接ぎ おやも出陣行行行く			
信 受	夜三時地震中、激怒且長 可二午事九月二十日 三百山金在、報			

(年七廿) す領占を城連九軍我

(齋詠楊) 裳紅更少方年楓。髮縁猶高已壽松

十月

三二一

寒 暖	天 氣	日七十二月十	戊 子	火 曜
信 發	雨天、雨の雨天、甲府行、改 大工二人来、口、右左、脚氣、如、腫、水、氣、あ、り			
信 受	上杉相談會			

(年一廿) ろらせ稱改と城宮を居皇



(翠曲) 聲のかしる消に上屋や星明

水曜 己丑 十月 十八日

煙雨不付今之甲辰行不出來  
 大工東之儀作 東之南より  
 可公使其動之出表由國滿三年より無  
 能今之新公使國多捧是拜詢舊公使の  
 拜詢より直に極論を述べ、其の釣公使の三四折欲  
 心と不報の儀あり  
 此方新公使の五折より茶銅公使の送の極論あり  
 林の折新公使極論の何如降の時極論あり  
 公使の折より東の之和合の出入の三折あり  
 可二ヶ月本月二日に出船の  
 へりマ既区ハカヤニ十七日  
 今ハ既セリ

信受

信發

(年四廿) 震地大濃美張尾 (年九) す起に口山を亂等誠一原前

十月

三二二

(大成范) 邱高上笛次童牧。雪似花々茫麥壽

木曜 庚寅 十月 十九日

ヤの雨天 大工居在東四路中、床板より置  
 合歡木三作の外一人来る板のり方あり

信受

信發

(年八廿) ふ賜を語勅へ社字十赤本日

十月

三二二

(村燕) なか田門るな鳴鼠に稻掛

十月

三十四

寒 暖	天 氣	日 十 三 月 十	辛 卯	金 曜
信	發	晩飯は在宅母忌日ナリ	天	天
信	受	堀尾金助亦船乗歸郷スルナリ	天	天
		突直津波百人乗船セリイニギの巻キナリ	天	天
		津輕海峡ニ東海丸船昨早返路因船衝	天	天
		二間板ヲ張合歡ナリ	天	天
		大工二人乗ル一人板ケリ一人三角掃ハキ	天	天

(年七廿) 寸領占を城鳳軍我 (年三廿) づ出語勅育教

(意誠劉) 涼蒼空木喬。飛自各鳥衆

十月

三一五

寒 暖	天 氣	日 一 十 三 月 十	壬 辰	土 曜
信	發	清國新使楊樞密等不在館	天	天
信	受	大工二人乗ル雲道半一糊板三ヶ所取り付ク者	天	天
		曾根大藏大臣官舎を移ス不在名刺ヲ甲申去ル	天	天
		長江ヲ移ル者ナリ	天	天
		る山草内母丸者方舟ヲ賣海行ク野は大將也接	天	天
		子七八男共其大草内買カレト云フ	天	天
		晩飯食在宅 今夕之暖氣ナリ	天	天
		榎山仙ハ詩楊所ハ詩	天	天
		吊高島訪諸新公使	天	天

(年十三) 寸着に賀須横繼士富

立陰 冬月十節 (節月十曆) 十一月十 (節月中月十同) 小 雪

年中行事

立冬よりは冬に入る。三日は天皇節。二十三日は新嘗祭とて、天皇陛下新穀をもて神祇に奉りたまふ。六日は靖國神社の大祭にして、五月の時に同じ。八日には鍛冶職の家々にて輪祭を行ひ、酒肴を供へ蜜柑を撒く。十五日は小兒の祝日にて男女三歳、男兒五歳、女兒七歳なるを携へて氏神に詣つ、神田明神殊に賑ふ。初の西の日に西の市あり。初の亥の日を爐開きの期節とす、陰曆の頃は亥子とて十月初の亥なりき。紅葉狩は下旬よりなり。

初冬 顯仲朝臣 大荒木の森のみち葉散果て 下草かるゝ冬は來にけり

維司谷雜詠 館柳灣 孟冬之月維爲蜃。幾歲疑團今始休。

一笑西村寺前路。芒花入店化鷓鴣。

口やくや吹草祭の酒のかん 竹 新藁の屋根のしつとや初時雨

鉢巻をとれば若衆の大根引 野 坡六戸

花鳥春秋

紅葉。瀧野川、海晏寺、眞間西の市(初西五日、二の西十七日、三の西廿九日)。龍泉寺町、深川八幡、平河天神、四谷天王、品川天王、目黒、新宿、雜司ヶ谷、花又村。

節物時令

立冬。初冬。天長節。新嘗祭。西の市。輪祭。初霜。初時雨。爐びらき。霜。時雨。火桶。火爐。木がらし。殘菊。落葉。寒。霞。敗荷。水仙。茶の花。山茶花。大根引。頭巾。足袋。外套。神樂。冬。雨。冬。の。月。初。氷。薄。氷。鷹。野。鳥。撃。冬。の。蠅。

食品月令

目鯛。むつ。伊勢。ぶ。たい。らぎ。松露。大根。ほうれん草。黒くわぬ。生海苔。

冬ぞとは今朝しる鍋の中にさへ ちりて浮へる銀杏大こん 橘 洲

こなたには晴るゝ小春の花川戸 今駒形はかたしくれして

(來去) 郭てすの城の見伏むせ見月

日曜	癸巳	十一月十一日	寒暖	雨	天氣
昨夜雨終つておとす。終つて雨降	福園の五羽の鳥。園裏起原草。文を伝ふ。	片岡健吉。高知縣知事。去る。一。可。惜。人。也。	あつた。議院議長。生。期。中。あり。	水。来。り。半。宿。り。相。り。伝。り。三。巻。小。窓。	戸。外。の。老。母。や。四。五。の。半。棚。あり。
遊子。か。や。う。の。道。を。花。を。積。み。あ。り。山。中。に。行。く。	夜。宵。花。を。集。め。お。や。ま。山。中。に。不。悔。	晩。方。は。心。を。使。楊。梅。束。束。乃。二。十。五。年。に。某。路。	信	發	信
			信	發	信

(年八廿) す領受を金償の回一第りよ國清

(盤蕭) 臺露上光榮。鼎寶生雲瑞

寒 暖	天 氣	日 三 月 一 十	乙 未	火 曜
信 發	信 受	<p>天長節 好晴一天無雨</p> <p>至剛十時奉々々大禮殿奉内奉進下二人 引觀兵武出列還奉後殿奉拜奉進内セリ 掃宅午時酒饗奉自奉祀 後抱末物但百奉奉奉祀初奉進下 夜ハ侍侍女同降帝園ホテル外相ノ御居 鑑む外正人男女多敷東リ降ル奉ナシ又御位 御位ニ御座奉、奉御有リ御位 片々ノ御位一ノ御位 御位公使口一セシ舞奉 ナリ 某公使マリトナ 踊ル</p>		

(年二廿) ろらせ布公旨す爲と子太皇て立を王親仁嘉

十一月

三一九

(蘭紅) 村柚橘南江到夢。息消傳夜昨霜清

寒 暖	天 氣	日 二 月 一 十	甲 午	月 曜
信 發	信 受	<p>大子奉卜入口橘イ乃政ナ</p> <p>午所一時高島子御母奉式座奉不 福園ニ出居明々知 迄奉奉 吹乃奉以入奉奉式名鬼念食對飯 送奉奉子ノ信送奉</p>		

(年七廿) す催に島廣を會捷祝大

十一月

三一八

(坡東蘇) 時綠橋黃橙是正。記須君景好年一

水曜	丙申	十月一日				天氣	寒暖
信	發						
信	受						

十一月

三二〇

(年一卅) りあ祭大時臨社神國靖

(祇貞) なか雀るたしら散取を藁新

木曜	丁酉	十一月一日				天氣	寒暖
信	發	廿九	十日	十日	十日	十日	十日
信	受	廿九	十日	十日	十日	十日	十日

十一月

三二一

(年八廿) 去藁宮將大川白北

(芳土) 柳る散や影る散猶に影る散

十一月

三三三

金曜 戊戌 十一月十六日 天氣 寒暖

信	發	梅の道標	吉亦東の真亮豊子英一が松尾社へ行	正午山本へ来た一郎へ食の初めありて豊子	大に素の社敷より口持の方殿へ左官へ来た	物敷板不出来り。自板元付と指さるる	易の味 松尾社
信	受	徳正昨夜山へ電報	毛石見山へ来た	何と云ふ影徳と云ふ			

(年七廿) 寸領占を城州金軍我

(滄劉) 層雲白出半山寒。恨少多々蒼景風

十一月

三三三

土曜 己亥 十一月十七日 天氣 寒暖

信	發	又の梅氣が来た	一層四の、一層白の	梅の道標	平信の山本英一使館へ弟遊園招き	露の便り、他山へ公使且内前大臣外松	井上校本品の山本大令長青木が立
信	受		梅の道標				

(年七廿) 寸領占を灣連人軍二第

(因宗) 霜の橋ふらふさり渡の人里

十一月

寒 暖	天 氣	日 曜	庚 子
信	受	日	十
			十一
			十二
			十三
			十四
			十五
			十六
			十七
			十八
			十九
			二十
			廿一
			廿二
			廿三
			廿四
			廿五
			廿六
			廿七
			廿八
			廿九
			三十
			三十一

三二四

(年八廿) る成印調約條付還東遠 (年四十) す過經を面陽太星水

(意誠劉) 燈青一雨風更五。鬢白雙山江里千

十一月

寒 暖	天 氣	日 曜	辛 丑
信	受	日	十
			十一
			十二
			十三
			十四
			十五
			十六
			十七
			十八
			十九
			二十
			廿一
			廿二
			廿三
			廿四
			廿五
			廿六
			廿七
			廿八
			廿九
			三十
			三十一

三二五

(年五) む改に曆陽太てし廢を曆陰太

(諺四) リナ問顧ツ且テシニ友朋ノ頁最ハ籍書

寒暖	天氣	日十月一十				壬寅	火曜
信發							十一日 梅雨 三 余 七
信受							

十一月

三十一

(年十三) ふ行を式通開架新橋代永

(元宗柳) 滴淪舞藻寒。谷幽響與飢

寒暖	天氣	日十月一十				癸卯	水曜
信發	好					晴天	十一日 晴天 七 信 發 十 分 陸 下 雲 の 舞 三 十 分 七 分 車 の 道 の 名 在 屋 の 油 の 京 橋 河 岸 宮 田 屋 の 立 安 竹 田 東 九 太 四 中 三 三 信 梅 雨 屋 馬 の 竹 五 把 雷 用
信受							

十一月

三二七

(年八祿元) す出を律法の犬殺吉綱軍將







(毗曹) 興條振風長。落晨向葉離

月 戊申  
日 十一月十六日  
天氣 寒暖

十一月

三三三

晴植木危七余木土なら一六二東井書窓ノ戸成  
造新造外  
可二即有者色徳ハシハ後二叔木の徳金一  
南園踏石の好し茶を敷あはゆ多し楓杯下  
動の道に柱の掃掃を特掃  
孫七大地片取ナ  
。和念湯一  
川村徳義の母ハ分の道ウ北志香茶二  
指集樹多梅山杉方より梅山厚熱西来  
信 發  
福川村弟尚  
福文の弟集  
信 受

(年五政安) ず投に海薩と照月郷西

(通義) れすそこ地心ふ洗を錦はまさるよぜまきこ葉紅に木るトあ

火 己酉  
日 十一月十七日  
天氣 寒暖

十一月

三三三

晴植木危七余木土なら一六二東井書窓ノ戸成  
造新造外  
可二即有者色徳ハシハ後二叔木の徳金一  
南園踏石の好し茶を敷あはゆ多し楓杯下  
動の道に柱の掃掃を特掃  
孫七大地片取ナ  
。和念湯一  
川村徳義の母ハ分の道ウ北志香茶二  
指集樹多梅山杉方より梅山厚熱西来  
信 發  
福川村弟尚  
福文の弟集  
信 受

(年四廿) ろら贈を位四正に徳尊宮二

(舟維) 丹牡冬つみこかりよ葉にかいたあ

十一月

寒 暖	天 氣	日九十月一十	辛 亥	木 曜
信 發	午後三時より分國華先立席 大山伯都園より先立席 川村伯母と居舞十八十二才に去風邪を引 一車如夢の事かきか 午後五時より分國華先立席 朝朝町へ行り着菊花又祝三結婚の事かきか 小舟敷敷く後成り出ん事 仙の細師居先立白足野を御す			
信 受				

三三五

(年六) ず禁をとるすと稱通て以を名官及名國

(斯溪揚) 霜有欲花寒地幽。日沈初雁斷天連

十一月

寒 暖	天 氣	日八十月一十	庚 戌	水 曜
信 發	昨夜雨降今朝露石 午前雨降 杜わる来ん 還幸舞子と居舞名古危少引 大澤島中九の雨天先く穿ぬる事かきか 晩方三宅伏電車神田橋下車入車通り出ん 降馬車三上野河原より分國華先立席 仙の細師居先立白足野を御す			
信 受				

三三四

(年七廿) ず領占を巖岫軍一第

(古復戴) 花杏賣頭街日昨。暖春如氣天冬一

寒 時 天氣 日 十二月 十一 壬子 金曜

十一月  
三三六  
格お色来星跡  
経師は来格お色立  
又備修了

信 發  
信 受  
修即内事  
硯

(年七廿) る定署部の撃攻順旅

(修陽歐) 稀影雁寒天。樂聲鴉熟歲

寒 味 天氣 日 十二月 十一 癸丑 土曜

十一月  
三三七  
大ハ自轉車江島の外に説教師共中待  
茶列敷下崖上雨霧  
格高杉拾木格修  
格下雨障前修了  
是改新雀焼ヲ贈リシレ  
夜更前伊香保の光輝  
晚方味吉一才来  
山前モミ木一本格起  
出沙谷来リ思案。建具屋来リ雨ヲ入レル  
経師は来リ積ル漢七枚外屏風ヲ批ス  
大着来リ今日切仕舞のフリヤ屋来リ。硯  
早起好晴日出草植木庭入来

(年七廿) ぶ行を撃攻總順旅

(牧杜) 風笛一臺樓日落。雨家千幕簾秋深

寒 暖	陰 天	天氣	日三十二月一十	乙 卯	月 曜
信	發	新嘗祭 天氣最冷甚 天欲雨 植木茂来ル。室町院柏枝ノ 經師屋引子襪付ノ 午故田内男爵来ニ大ハ昔似官誥篇 曾根松相官舎觀初層ノ 出ル 官舎の如ク 室町内更如月急下傳事 此月始ハ十年 此月始ハ十年			
信	受				

十一月

三三九

(年七廿) ふ襲を州金兵敗の順旅

(長曾) 鳥千らむす崩とれのおや風浦

寒 暖	曇 天	天氣	日二十二月一十	甲 寅	日 曜
信	發	大八自物車 幸但 他手掛系由 下ハ自物車 此方茂来ル 官舎の如ク 室町内更如月急下傳事 此月始ハ十年			
信	受				

十一月

三三八

(年七廿) す取略を順旅軍二第

(坡東蘇) 枝霜傲有猶殘菊。蓋雨擊無已盡荷

寒 暖	天 氣	日 一 十 二 月 十 四		丙 辰	火 曜
信 發	信 受	<p>夜持流後四竹目毛燈其五十五台燈炭</p> <p>三時三刻入院 二時午毛肉代受候</p> <p>四時牛肉一分五分</p> <p>新長少并木念候知一名有物</p> <p>為着候見候御宅。ソソフ</p>			

(年七廿) 寸絶謝を裁仲の清日てし對へ國米

十一月

三四〇

(更闌) りけれ流てれ折に日に日の蘆枯

寒 暖	天 氣	日 一 十 二 月 十 五		丁 巳	水 曜
信 發	信 受	<p>此物且名者此物多、游區現三十七台、取</p> <p>七時理結髪。ソソフ五分</p> <p>九時牛乳各</p> <p>宅へ運張り。水野長知が候分計、</p> <p>新楊上野間電車后、早通、</p> <p>天神像七台拜</p> <p>祝三三三。梅井貞仙身勝精と云候</p> <p>末、テ、末、同、果、懸、</p> <p>兵、了、院、長、馬、坊、。舊、訪、了、候、</p> <p>ソソフ、申、外、候、</p> <p>為、了、可、現、為、</p>			

(年十三) リあ覽天を艦遠鎮てに賀須横

十一月

三四一

(樞施) 思多自薄衣綿衾。貫與誰高寒價酒

寒暖	天氣	日七十二月一十	己未	金曜
信	發	野陣雨 冬前十時 初冬入 沙心地 冬收之 時 曉 長夜 寒 冬と 肉 店 河 邊 冬 日 糖 揚子 白 野 菜 試 漬 湯 食 食 肉 食 冬 冬 冬 冬 肉 店 糖 心 透 可 可 冬 冬 冬 冬 冬 古 訪 源 冬 漬 漬 切 台 兩 切 存 冬 冬		
信	受	楊子院長來訪		

十一月

三四三

(年三廿) る下勅詔の會開會議國帝

(更闌) ますぶ紙や文の漢和ふとまに身

寒暖	天氣	日六十二月一十	戊午	木曜
信	發	八代子元輝來 野陣雨 冬前十時 初冬入 沙心地 冬收之 時 曉 長夜 寒 冬と 肉 店 河 邊 冬 日 糖 揚子 白 野 菜 試 漬 湯 食 食 肉 食 冬 冬 冬 冬 肉 店 糖 心 透 可 可 冬 冬 冬 冬 冬 古 訪 源 冬 漬 漬 切 台 兩 切 存 冬 冬		
信	受	八代子元輝來		

十一月

三四三

(年七廿) る來に戶神グンリトツテ使清



(雄白)りけに老守橋の治字酒がうせ

土曜	庚申	十一月二十八日	天氣	寒暖
<p>野果未時。老守橋の治字酒がうせ          吉刺又三九舞集。水波長らひの所          尾崎の山あり久廻彦          舞集未時。老守橋の治字酒がうせ          徳女九舞集。東日暮き出。早ゆり停          暇。小豆粥。即菜          甲目高硬。石の如き物。空粒。通下          核。秋。残。未。の。所。が。月。光。き。り          信 受          大八おし由。安。怒。り          有。子。心。無。事。し</p>				

十一月

三四四

(年八廿) 寸行發を圓千八萬二十三債公事軍

(太蓼) なか夜十む沈で佛念へ呂風据

日曜	辛酉	十一月二十九日	天氣	寒暖
<p>信 受          大八おし由。安。怒。り          有。子。心。無。事。し          信 發          在。舞。久。未。時。心          保。科。豆。三。束</p>				

十一月

三四五

(年三廿) 式院開會議國帝一第

月曜 壬戌 十一月十三日 天気 寒暖

晴 空 舍  
 晴 空 舍  
 飛 鳥 船 英 艦 島 千  
 年 五 廿 五 沈 て し 突 衝 と 號 ナ ン エ ヴ ラ 船 英 艦 島 千  
 長 以 美 山 十 五 商  
 八 代 梅 白 果  
 梅 子 初 雪 七 日 あり

信 受

信 受

大陰 曆 十一月十日 雪 節 二十 月 冬 (同 十一月の中節) 至

年中行事

此月十三日より年の市立つ、其日割十三日十四日は湯島天神、十五日は深川八幡、十七日十八日は浅草観音、廿一日は神田明神、廿二日は芝神明、廿四日は愛宕、廿五日は平河天神、廿八日は兩國なれど、廿五日以後は三十一日迄諸處にて、しめ飾松杯賣る處多し○煤拂ひ○餅つき○歳暮の回禮終りて○三十一日に大祓あり、六月に同く○冬至には湯屋にて柚子湯を立つ○諸學校は多く廿五日より休業○諸官廳は廿九日より休む○廿日過より忘年会多く○廿五日耶蘇教の家にはクリスマス祭あり○かくて廿一日には門飾を終るなり

歳暮 深守法親王  
 過易きひのくま川の年の暮  
 水かふ駒のとまる瀨もなし  
 戊申至日 石野雲嶺  
 三盃引酔老懐伸。舉坐暖生懸炭辰。  
 且掩春風不消雪。白頭故戴一陽巾。  
 日枝一つ前に置たる雪見かな  
 煤拂て何やら足らぬ家の内  
 天地の盗人しれや年のくれ

花鳥春秋

枯野○向島、關屋の里、飛鳥山、淺茅ヶ原、眞崎、綾瀬堤、目黒、雜司ヶ谷、調布里

節物時令

初雪○雪○炭○糞○ふじき○冬枯○冬田○枯野○枯尾花○枯柳○室の梅○冬木立○ふぐ汁○冬至○冬至梅○柚子湯○冬○山○冬野○氷○水鳥○千鳥○鴨○鳩○鴛鴦○霜柱○雪見○雪達磨○鐘牙る○氷柱○臘梅○冬の梅○冬牡丹○年忘れ○忘年会○煤拂○餅搗○年の市○餅筵○から鮭○抵○輝○ゆく年○歳の暮○除夜○除夜の鐘○大年○大晦日

食品月令

ひらめ○うぐい○はも○白魚○たら○鮫鱈○蟹○からすみ○新鹽鮭○干海苔○根いも○菜○大根○れぎ○蕪○鳥獸肉

春と夏秋と冬の四つ手か、  
 飛ぶか如くに歳ばくれにき



(貫鬼) 花リへかや白面らあやごすのも

十二月

三五〇

木曜 乙丑 十二月二十三日

信 受

温之者今群十五貫四百日

午前入浴

七割取系山若井の断

予居之字況と早末の取物物類行有也

橋本之川に舟を寄りて送る

保神と瑞と云ふ事

形年夕飯を湯に投じ夜と夜に

花し身が心院道場迄ゆき

建身屋小社救戸障

子之林木

信 受

(年五) む定と日一月一年六治明て以を日本

(顯葉) 霜夜半寒高。月山孤淡冷

十二月

三五〇

金曜 丙寅 十二月二十四日

信 受

晴 表の市東極如念

登利木上殿八段海老籠三木

信 受

(年三) く開を便郵てめ始

(丸江大) れ知を戀てれ離夜と一ふ鳥しを

寒 暖	天 氣	日 曜	戊 辰	日 六 月 二 十	信 發
<p>十二月</p> <p>東の空は青く          夕陽の影は長し          遠くを望む心          涙の跡も消えず          昔の面影を想ふ          月夜は静かに          思ひを運ぶ</p>					
信 受					

十二月

三五三

(年十二) 才薨光久津島臣大左

(晁仲唐) 帷入月杯傳。硯生氷句覽

寒 暖	天 氣	日 曜	丁 卯	日 五 月 二 十	信 發
<p>十二月</p> <p>晴          春の気配          花の匂い          鳥のさえずり          心は軽やかに          春の光景を          楽しむ</p>					
信 受					

十二月

三五二

(年七廿) 才領占九州復軍我

(一バシタ) シナトコルス變久テシニ友朋ノ良最ハ書良

寒 暖	晴 天氣	日七月二十	己巳	月 曜
信 發	長ハ	上泉遠外來可高送屋評判此夜ハ有國贈 与酒多飲一徳所十國特為廿山ノ由ニ為	湯子集	晴 徑竹丸豊 乃常者乃降方後棟ノ三行 巧ノ立位ニ成 信 受
信 受				

十二月

三五四

(年元) つ分に國ケニを羽出に國ケ五を奥陸

(蕉芭) てま處ぶろこに見雪ばらさざい

寒 暖	天 氣	日八月二十	庚午	火 曜
信 發		輕 衆 怨 天 氣 多 云 々	信 受	
信 受		所 謂 道 士 の 某 等 其 他 來 る 者 物 々 の 力 盡 す 山 村 の 事		

十二月

三五五

(年一卅) ず獻に室帝を圓萬千二金償

(知忠) 枝の雪のし昔ぬい焼や炭白

寒 暖	天 氣	日 十 月 二 十	壬 申	木 曜
信 發				
信 受				

晴  
用院式大祀殿出勤  
炎象雨降引立  
聖上御勅出明渡行御奉  
は湯舟忠一杖の雪のし昔ぬい焼や炭白

十二月

三五七

(年三應慶) る下諭勅の古復政王

(衛士陸) 端雲于飛高鳥。杪林于嘯長猿

寒 暖	天 氣	日 九 月 二 十	辛 未	水 曜
信 發				
信 受				

三三八石田正屋銀ノ行き同り出先  
方七也

十二月

三五八

(年七廿) く開を會捷祝に園公野上民市京東





(吟季) なか色景きなもと走師山の土富

寒 暖	天 氣	日 曜	月 曜
		二十月十四日	丙子
信 發	晴 梅子山下の山		
信 受	<p>         先刻より梅子山麓の山麓に於て          山前儀長、初めは物相在任中、初めは          表、先刻院の銀箱一枚、一人分、居山也、          宗師の傳外相、相、白卷、          一七、          晩、          先刻より梅子山麓の山麓に於て          山前儀長、初めは物相在任中、初めは          表、先刻院の銀箱一枚、一人分、居山也、          宗師の傳外相、相、白卷、          一七、          晩、       </p>		

十二月

三六一

(年五十祿元) 寸達を響復士義穂赤

(連惠謝) 切愈風寒積。堅彌氷霜履

寒 暖	天 氣	日 曜	月 曜
		二十月三十日	乙亥
信 發	晴 梅子山下の山		
信 受	<p>         先刻より梅子山麓の山麓に於て          山前儀長、初めは物相在任中、初めは          表、先刻院の銀箱一枚、一人分、居山也、          宗師の傳外相、相、白卷、          一七、          晩、          先刻より梅子山麓の山麓に於て          山前儀長、初めは物相在任中、初めは          表、先刻院の銀箱一枚、一人分、居山也、          宗師の傳外相、相、白卷、          一七、          晩、       </p>		

十二月

三六〇

(年七廿) 寸領占を城海軍我

(村燕) 棒の鱈刀太の鮭らかや守年

寒 暖	天 氣	日 六 十 月 二 十	戊 寅	水 曜
信 發	時進疎玄教の志を以て出づる者も極し是年大八 なる凶通の事あり三村の麻ヲ染す 雨國一果今口を以て傳へて玉物御取 井山不出方五老杖御取一曰徳理即ち御取 中ノ一日の凶通の事あり三村の麻ヲ染す 西木野公使の長文の電候ヲ等二函取らるる迄 七取らるる雨の延びたる事 此の期名ハ 此方其知念の事ハ 三村の麻ヲ染す			
信 受				

十二月

三六三

(年五元長) 火噴山士富

(渥韓) 心松老潤千霜濃。性玉眞爐滿炭熾

寒 暖	天 氣	日 五 十 月 二 十	丁 丑	火 曜
信 發	公海徳川後長前出 千物老在り饋頭繁持来 大八晚方大候 御取山潤二迄集疎世迄迄取と喘 此中ノ好更又方一也 傳七十五圓計りの事 雨國 老也す年迄迄迄より安田限行日氣 歳暮御取 大候松山潤ノ女侍浦御持来 由候は疎来 消 り寄取らるる事 梅子山ハ 此の期名ハ			
信 受	年物之 梅老来			

十二月

三六二

(年七廿) す始開を署公に城海

(信庚) 沈凍抱魚寒。嘯雪披猿冷

木曜 己卯

日七十月一十

寒暖 天氣

信 發

シメキ山下、寒夜也

信 受

五ノ三ノ大候不實

梅子既乃下り切ナリ葉毎子守行リ  
雪方山下田ノ東ハ老敷セニモ鳴野ニ勸心  
大ハ山の即野ノ一ノ心ニ信リ新法ナリ母セ  
送リト玉山下ノ新法信ニ己竹子の母切

梅子山下ノ新法

三村麻ノ風候ナリ一ノ心ニ十者ノ風  
ニコンニヤリ一若子饅頭三箇ノ為ナリ  
小社敷ニテ新法

十二月

三六四

(年二) む改と學大を校學大

(草丈) なかさ寒き難き向振に明有

金曜 庚辰

日八十月二十

寒暖 天氣

信 發

直録より幾ノ入候

信 受

直録より幾ノ入候

晴來威撞地ニハ捲来  
狼皮物皮華巻ニテ 法堂ノ敷ナリ  
徑師制事ナリ 上段宮セリ 及ハ法堂ニハ百六段  
新法  
雪ノ東ノ山ノ新法 又此法堂ノ方セ一ノ心ナリ  
法堂ノ新法  
大ハ山の即野ノ一ノ心ニ信リ新法ナリ母セ  
小社敷ニテ新法  
直録より幾ノ入候

十二月

三六五

(年一卅) つ建を像銅の洲南に園公野上

(莊克劉) 蘭澆怕呻砌臨非。榮種慵邊屋在圃

土曜 辛巳

日二十月九年

天氣 寒暖

十二月

三六六

晴前雪起甚固庭相柱霜並電暖計  
 四十六夜の起三昨雪不降  
 經師屋來感張化堂及對宅の命す  
 浩堂書務修の修強修  
 午伯高徳川識長被家為女華修層修  
 新貴院院の修親層立辰修修  
 三打陽生來の父子虎出修修  
 花の修教明晴如雪  
 玩三修夕の修來の修  
 貴院院、人氣漲の修  
 信 發  
 信 受  
 其方氣脈修修

(年七廿) る敗を敵に大し戰激に塞瓦缸軍一第

(山來) なかさ寒る見てげあ首をた寢我

日曜 壬午

日二十月二年

天氣 寒暖

十二月

三六七

晴前雪起甚固庭相柱霜並電暖計  
 四十六夜の起三昨雪不降  
 經師屋來感張化堂及對宅の命す  
 浩堂書務修の修強修  
 午伯高徳川識長被家為女華修層修  
 新貴院院の修親層立辰修修  
 三打陽生來の父子虎出修修  
 花の修教明晴如雪  
 玩三修夕の修來の修  
 貴院院、人氣漲の修  
 信 發  
 信 受  
 其方氣脈修修

(年三) む定を領綱律新

(遠公楊) 成不雪寒陰日三。少全雨暖晴冬一

十二月

三六八

寒 暖	天 氣	日二十二月二十					癸 未	月 曜
信 發		九時午宅へ入る 九時午宅へ入る 九時午宅へ入る 九時午宅へ入る 九時午宅へ入る 九時午宅へ入る					信 受	
信 受							九時午宅へ入る 九時午宅へ入る	

(年七廿) るさ遣派に鮮朝てしと使大權全馨上井

(角其) 色の顔いのだ頭船や日の雪

十二月

三六九

寒 暖	天 氣	日二十二月二十					甲 申	火 曜
信 發		四時目覚めの船 九時午宅へ入る 九時午宅へ入る 九時午宅へ入る 九時午宅へ入る 九時午宅へ入る					信 受	
信 受							九時午宅へ入る 九時午宅へ入る	

(年九廿) ふ賜を圓千金幸行に學大國帝下陸皇天

(龍鉦毛) 燈夜伴花梅影凍。下窓書寔寂憐誰

水曜 乙酉 十二月二十三日

晴祝三吉初七日大磯の春景  
 梅子大磯の村地まはして右身とまを法華堂  
 来り身祝三吉磯の道中  
 十吉勢揚為車方物九箇方し事  
 此方為揚勢吉入来り此の向然に深谷力  
 十分快補元氣を分けて返す  
 伊波井上七十六の元約層積馬奴の腹を振  
 入り中し揚方象初ら腹を固めたるなり揚勢

信 受

十二月

三十七〇

(年八十) く置を臣大理總め定を制の閣内てめ始

(太蓼) 雪の夜りあ風げれ見を火しもと

木曜 丙戌 十二月二十四日

晴。植小念二人来り物置掃除  
 此の執事時車は解珠を多しき、梅山の火磯  
 ？此の志のきと成との物に切迫る事出む  
 祝三自大磯海の右井の者共同族し  
 おやと徳を解し此の事、此の祝三の事と物置  
 由河の経路より多し祝三の事、此の祝三  
 此の祝三の事、此の祝三の事、此の祝三の事

信 受

信 發  
 此の祝三の事、此の祝三の事、此の祝三の事  
 枕を所とす

十二月

三七一

(年九廿) ズ蓼徳元利毛位一從

(德貞) こしか穴もてまらけ蟲り籠冬

寒 暖	天 氣	日六十二月二十	戊 子	土 曜
信 發				
信 受				

文三火機行へ四吾海へ  
 昨日末着北珠、五ノクヲ彌ヤ唯方リ和家  
 多事ヲ買ハ切也  
 日有揚中華新ニ見食改ハ木沢細ニ見  
 多事ヲ買ハ切也

十二月

三七三

(年八廿) す了結理處の附還東遊 (年一十文天) る生康家川徳

(諺西) シ如ガキナ神精ニ體ハキナ籍書ニ室

寒 暖	天 氣	日五十二月二十	丁 亥	金 曜
信 發				
信 受				

夜文之世ニ天神市ニ龍梅ノ買ハ所  
 山ノ原ノ風ニ賜  
 天神像ニ知テ拜ス  
 杉木ノ一人者、又先煉掃出改ニ梅  
 杉木ノ一人者、又先煉掃出改ニ梅

十二月

三七二

(年十三) るらせ散解會議一十第 (年十二) す布發を例條安保

(德信) 暮の年鏡眼の女やしるそお

寒 月 天  
暖 日 氣

日 曜  
己 丑  
二十二月十七日

時

十二月

信 發

上杉家州七身... 申上... 草刈...

信 受

おやも山中... 古...

Vertical handwritten notes on the left side of the page.

(年元治平) 戦合門賢待

三十四

(適高) 年一又朝明鬢霜。里千思夜今郷故

寒 天  
暖 氣

日 曜  
庚 寅  
二十二月十八日

時

信 發

寛三... 可三...

信 受

おやも山中... 他...

十二月の... 和...

三七五

(年八廿) る至に國韓使大權全上井



(昇洪) 雲流不凍山。雪受難深溪

火曜 辛卯 日九十二月二十 天氣 雨 寒暖

十二月

三七六

信 發

今より冬振り降雨の氣雨を催す  
 東河より行はれし物他と流らん物も懐き河錦  
 入東のけき後之深流平段對食  
 冬百廿十日行り出す  
 甲寅年正月廿五日

信 受

雪乃より雨降り見たり大體ノ物今迄す小細  
 此年終りの物也

(年二八八一) す死タツベンガ國佛

(昆道汪) 鐘曉是華年送斷。裏門千戸萬憐可

水曜 壬辰 日十三月二十 天氣 寒暖

十二月

三七七

信 發

祝三三三三三志日行し大敵の地保是なり  
 大橋の國子之御儀十日坊系  
 大山候より惠比須夜渡りし物也  
 午後二人より宮内より新殿あり概談あり  
 惣より常盤町より河原口より掛籠と當り事  
 ありて道へ大津のありて夜渡りし物也  
 午中若草より入りてありて其れ名に別り入場  
 御免は御事

信 受

ト大ニ大敵の地保

(年六廿) るらせ散解會議五第

寒 暖	天 氣	日一十三月二十	癸 巳	木 曜
信 發	大子と敗遠の棚下と棚の造り 法親族近友の御別れ 月越年梅子也子福三修三(由婦也 在大城の可市に在英國在在者ハ主人 ハ代大ハ中子又三竹子白亮若ハ村虎取法 婦ハ山ト在皇徳也千鶴也越年梅子 長崎東蔵を流す千秋島屋			
信 受				

十二月

三七八

第四師團の凱旋此日を以て結了(廿八年)

明治三十六年 當用日記補遺

本文日記に書盡さざる事ある時は此欄内に月日を記入し備忘の實用に供し玉ふべし

月 日 曜 月 日 曜

補遺


一

月  
日  
曜


月  
日  
曜

月  
日  
曜


月  
日  
曜

補遺

月

日

曜

月

日

曜

四

月

日

曜

補遺

五

以下  
36枚  
白紙

土地	周地				面積			
	本	屬	合	計	本	屬	合	計
州	島	島	島	島	方里	方里	方里	方里
本州	1,938.88	523.58	2,462.46	1,449.22	78.91	1,449.22	14,571.22	
四州	451.27	234.64	685.91	1,151.24	29.43	1,151.24	11,806.77	
九州	861.18	985.68	1,846.86	2,311.86	305.68	2,311.86	26,175.54	
北海道 本島	833.33	451.18	1,284.51	5,056.78	51.2	5,056.78	56,190.00	
千島(三十二島)	633.22	—	633.22	1,033.64	—	1,033.64	10,334.60	
佐渡	533.00	—	533.00	563.33	—	563.33	5,633.33	
隱岐	747.00	—	747.00	2,188.00	—	2,188.00	21,880.00	
淡路	387.00	—	387.00	3,655.00	—	3,655.00	36,550.00	
壹岐	354.00	—	354.00	855.00	—	855.00	8,550.00	
對馬	186.27	—	186.27	439.50	—	439.50	4,395.00	
琉球(五十五島)	350.60	—	350.60	156.91	—	156.91	1,569.10	
合計	—	—	—	—	—	—	—	

○本邦周圍及面積

地名	經度		緯度	
	度	數	度	數
千島國占守郡占守島 東端	東經	一六三 度分	北緯	二四 度分
澎湖島花嶼西端	東經	一一九 度分	北緯	三〇 度分
臺灣パールレート列 岩南端	東經	—	北緯	—
千島國占守郡アライ ト島北端	東經	—	北緯	—

○本邦經緯度


○世界ノ面積及人口

地球ノ廣表	陸地	水	面積	人口
周極直徑 七、八九八、八八〇九	亞細亞洲 一、六五六〇、九三六	太平洋 七〇、〇〇〇、〇〇〇	方哩	亞細亞洲 八三〇、四八四、一六五
赤道直徑 七、九二四、九一一	亞弗利加洲 一、一五〇二、四九〇	大西洋 二五、〇〇〇、〇〇〇		亞弗利加洲 一八二、七八八、二三八
平均直徑 七、九一一、八九六〇	歐羅巴洲 三、八一〇、三二五	印度洋 二二、五〇〇、〇〇〇		歐羅巴洲 三六五、一〇三、〇一一
兩極及赤道直徑ノ差 二六、〇三〇二	北亞米利加洲 七、九一七、二三八	北冰洋 四、五〇〇、〇〇〇		北亞米利加洲 九五、三六九、一一四
南北各極區 一三、〇一五一	南亞米利加洲 七、五〇七、二一九	南冰洋 七、五〇〇、〇〇〇		南亞米利加洲 三六、二〇八、九五二
兩極經過周圍 二四、八二五、〇四五二	大洋洲 四、七〇一、七八二	其他 一六、〇〇〇、〇〇〇		大洋洲 四五、一一六、五三〇
赤道ニ於ケル周圍 二四、八九五、九二二四	合計 五二、〇〇〇、〇〇〇	合計 一四五、〇〇〇、〇〇〇	方哩	合計 一、五五五、〇〇〇、〇〇〇
平均周圍 二四、八五五、九三三三	水陸總計 一、八七六、三三三	合計 七四三、二八六	方哩	總計 二、七〇六、一九三

○各國國體

支那	國名	面積	人口	政體	首府
支那	支那	四、三三四、九一〇	三九九、六八〇、〇〇〇	帝國君主制	北京

○府縣郡市町村數及役所役場

露西亞	八、六六〇、三九五	一、一九〇、〇四、五二四	同	聖彼得堡
北米合衆國	三、五〇七、六四〇	七六、三〇三、三八七	共和憲制	華盛頓
獨逸	一〇八、八三〇	五、六、三六七、一七八	帝國立憲制	柏林
奧地利、匈牙利	一四〇、九四三	四五、三五七、七〇〇	同	維也納
日本	一六、一一三	四三、七六三、一五三	同	東京
英吉利	一〇、九七九	四一、六〇五、三三三	同	倫敦
佛蘭西	一〇四、〇九二	三、八、五九五、五〇〇	共和憲制	巴黎
伊太利	一〇、六四六	三二、四四九、七五五	王國立憲制	羅馬
西班牙	一、九七、六七〇	一八、〇八九、五〇〇	同	馬德里
朝鮮	八、二〇〇〇	一六、〇〇〇、〇〇〇	王國君主制	京城
伯兒	三、二一八、一三〇	一四、三三三、九二五	共和憲制	京、リオ、ド、ジャネイロ
墨西哥	七、六七、〇〇五	一三、五四五、四六二	同	墨西哥
波其西	六、八八、〇〇〇	七、六五三、六〇〇	王國君主制	墨西哥
瑞典	二九七、三三二	七、三七六、三三二	王國立憲制	斯德哥爾姆
白耳諾	一、一、三七三	六、六八七、六五一	同	普拉ツセルス
羅馬尼亞	五〇、七二〇	五、九一二、五二〇	同	ブツカレスト
葡萄牙	三六、〇三八	五、四二八、六五九	同	リスボン
和蘭	一三、六四八	五、一七九、一〇〇	同	海牙
暹羅	二四四、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	帝國君主制	盤谷

官有地及民有有租地

年次	府縣	市	郡	町	村	市役所	郡役所	町村役場	官有地		民有地		平均一反ノ地價
									種別	反別	種別	反別	
明治卅三年	四七	五八	六三八	一、〇五四	一三、四六八	五八	五六四	一、七二三	皇宮地及付屬地	三、六五四、五三二、一	官廳縣使用地	三三、八二二、三	三、五九八
同卅二年	四七	五五	六四八	一、一五八	一三、五四四	五五	五六四	一、七三六	御陵墓地	三六一、九	官林及官有山林原野	一七、五八七、五〇二、三	九、五三三
同卅一年	四七	五三	六四七	一、一六九	一三、六五七	五三	五六二	一、二八五	宗廟地	一九五、一	公園地	一、八五七、六	二、八五七
同三十年	四七	四八	六五三	一、一三三	一三、六〇一	四八	五五九	一、二七六	官幣幣社地	一五、六七三、八	外國人居住地	二、三三、一	三、七〇八
									別格官幣社地	三六五	官設地	八、一〇〇、八	二、八〇五
									計	三、六七〇、八〇三、四	文部省官立學校及附屬地	一七、六四三、〇六三、八	〇、三三
									皇族賜邸地	二八六	校舎後園及内務省官立醫院地	二二八、二	〇、三三
									開院省廳用地	三六、七七八、三	病院地及浴室敷地等	五〇九、八	五、三三

明治三十二年末府縣推計人口及面積

官有地ハ明治二十三年末日ノ調査ニシテ調査ヲ完了セシ員數ノミ

地方	面積	本籍		合計	現人口	住
		男	女			
東京	一、二五、八〇〇	七六〇、三三八	七五七、〇八一	一、五一七、四〇九	一、九一〇、四八三	一、五、一八七
京都	二、九六、五五五	四六九、二〇一	四六九、五二四	九三八、七二五	九六六、二三二	三、二五九
大阪	一、一五、七三三	六六三、三三六	六五九、八九八	一、三二二、二三四	一、五一九、九九八	一、三、一三五
兵庫	一、五五、六七七	三九四、三八六	三九一、八九七	七八六、二八三	八八一、五八八	五、六六三
長崎	五、五六、六八八	八五六、九七八	八二八、八四九	一、六八五、八二七	一、六七八、四五三	三、〇一五
新加	二、三五、一五五	四一三、八二二	四一六、一〇四	八二九、九二六	八八三、四八五	三、七五七
群島	八、二四、五九九	九一二、七三二	九一〇、五一六	一、八二二、二三八	一、七〇八、六八七	二、〇七二
千代	二、六五、九九九	五九一、八八五	五九六、三九四	一、一八八、二七九	一、一四一、三九八	四、二九一
茨城	四、〇七、二二五	三九一、〇〇〇	三九四、三三九	七八五、三三九	七九三、六二四	一、九四九
栃木	三、二六、一五五	六四九、九一五	六四〇、八七〇	一、二八六、七八五	一、二四五、七二八	三、八一九
奈良	三、八五、一八八	五七五、四八六	五五九、七〇五	一、一三四、一九一	一、二八四、四三三	二、九三〇
三重	四、一一、七七七	四〇〇、一八八	三九九、五七七	七九九、七六五	八〇六、三九四	一、九五八
愛知	三、二二、七八八	二七四、六〇八	二七〇、五三九	五四五、一四七	五二三、二八七	二、五九八
山梨	三、六八、五五五	五〇六、〇六四	五〇〇、一一二	一、〇〇六、一七六	九六六、六二二	二、六二三
滋賀	三、一一、七八八	八〇五、一四九	八〇四、九六三	一、六一〇、一一二	一、五七二、〇九〇	五、〇二六
岐阜	二、〇一、四二二	二七四、六〇八	二七〇、五三九	五四五、一四七	五二三、二八七	二、六二三
石川	五、〇三、八二二	六一五、八一	六〇〇、五六九	一、二一六、三八〇	一、一七三、四八七	二、三三九
福井	二、八九、八五五	二五〇、一九〇	二五一、三二六	五〇一、五〇六	四九四、四三三	一、七〇六
静岡	二、五八、四四四	三五七、六五八	三六一、四七三	七一九、一三〇	六六五、九〇四	一、五七七
愛媛	六、七一、四四五	五二三、五四三	四九四、二二七	一、〇〇七、七五九	九五三、六〇二	一、四二〇
高松	八、五三、七六六	六二九、九二二	六二〇、二六一	一、二五〇、一七三	一、二三〇、一三六	一、四四一
徳島	五、四〇、七九九	四三〇、九六六	四一六、八四一	八四七、八〇七	八三九、九九一	一、五五三

宮熊佐大福高愛香德和山廣岡島鳥富石福秋山青岩福  
歌

崎本賀分岡知媛川島山口島山根取山川井田形森手島

宮崎	熊本	佐賀	大分	福岡	高知	愛媛	香川	徳島	和歌山	山形	廣島	岡山	鳥取	島根	富山	石川	福井	秋田	山形	青森	岩手	福島
八四六・〇七	八九九・一九	六〇七・〇三	六〇一・一五	七五四・〇〇	二七二・四〇	二七〇・七二	二六六・四一	二二四・一六	四三三・八二	四二〇・九八	五二〇・七八	三八九・九九	三二〇・六二	二七一・三八	一三三・五〇	三四一・一七	四五四・七二	三二七・八一	三四四・七三	一六〇・〇八	四六五・四七	四八七・三四
五四一・五六四	三七二・一六	三一七・二三四	四二二・八二	四〇八・二〇〇	三一九・四四三	三九二・六二六	四〇三・八七〇	二二三・八四一	三六九・〇九三	五九三・一五二	七三七・六四一	五〇三・四六〇	三四九・七九八	三五六・一三七	三六〇・九八九	五一二・四九六	三一九・七〇五	六九六・八八二	四二四・四六〇	三二七・六二二	五七五・五二八	二三三・三三二
五二八・九七三	三五二・九五六	三〇一・九三六	四一六・五五九	三七六・六二一	三三〇・五五六	三九六・〇六七	三九一・四〇四	二〇九・四八一	三五七・〇二六	五四七・〇七三	七二二・二九三	四九二・一七一	三三八・九〇五	三四九・三六六	三四七・四二八	四九六・四九一	三〇二・七八二	六八四・八三五	四二二・二七九	三一一・三三四	五八五・四三九	二三四・七五〇
一,〇七〇,五三七	七二五,〇八二	六一九,一七〇	八三八,八四一	七八四,八二一	六三九,九九八	七八八,六九三	七九四,二七四	四三三,三二二	七二六,一九	一,一四〇,二二五	一,四四九,九三三	九九四,六三一	六八八,七〇三	七〇五,五二三	七〇八,四二七	一,〇〇八,八九七	六二二,四八七	一,三八一,七二七	八四五,七三九	六二八,九二六	一,一六〇,九六七	四五六,九八一
一,〇七七,一七三	七二二,六一三	六一二,一〇八	八二二,三六五	七二二,二六三	六〇六,七〇七	七八九,九五五	七五二,五三三	四一〇,三三三	七〇五,七八四	一,一〇三,七九三	一,四二二,六〇一	九五九,〇四〇	六六二,〇〇〇	六七〇,二七三	六七八,〇三三	九七五,九三三	六〇九,四一八	一,四〇三,六三九	八二二,一六七	六一四,五八九	一,一四一,五二〇	四五六,五七六
一,二七三	七九三	一,〇〇八	一,三七〇	一,〇三四	二,二二七	二,六九三	二,八二五	一,八三一	一,六一九	二,六二二	二,七三四	二,四九九	二,一三一	二,四七一	五,九七四	二,八六一	四,四二七	二,〇四一	三,八三九	二,四三二	九四一	

◎人口族籍別

每年末日

年次	華族	士族	平民	棄兒	無籍在監人	合計
明治三十一年	四,五五一	二,一〇五,六九八	四一,六四八,一六六	三,四九八	一,二四〇	四三,七六三,一五三
明治三十年	四,五二三	二,〇八九,一三四	四一,一三〇,七四一	三,三七八	一,〇八七	四三,三二八,八六三
明治二十九年	四,三七五	二,〇六七,九九七	四〇,六三〇,七八一	三,八二六	一,二八五	四二,七〇八,三六四
明治二十八年	四,一六二	二,〇五〇,一四四	四〇,二一〇,七五三	四,二四二	一,三一九	四二,二七〇,六一〇
總計	二四,七九四・三六	二二,三三四・三九八	二一,九〇一・六五七	四四,三〇七・〇五五	四四,三〇五・八七三	一,七八三
鹿兒島	六〇三・三二	五五六・八二三	五五六・三三三	一一三・一四四	一,〇九六・八一七	一,八二二
沖繩	一五六・九一	二三四・九九八	二二九・〇六二	四五四・〇六〇	四六二・七〇七	二,九四九
北海道	六〇九五・三六	三三四,〇六二	三〇〇,五〇五	六三四,五六七	八三八,九〇七	一,三八

◎出生死亡及婚姻離婚

◎内外在留人

年次	出生	死亡	婚姻	離婚	年末配偶數
明治三十二年	一,三七一,一九一	一三五,六六六	二九七,一一七	六六,四一七	七九七九,七七六
明治三十一年	一,三六九,六二二	一二五,八四一	四七一,二九八	九九,四六四	七八九二,〇七三
明治三十年	一,三三五,一二五	一三〇,二三七	三六五,二〇七	一二四,〇七五	七八九二,〇七三
明治二十九年	一,三二二,一七八	一二七,二三三	五〇一,七七七	一一五,六五四	七八七七,四五七



年次	海外在留本邦人			本邦在留外國人	
	公用	留學	商用	其他	合計
明治三十三年	一、〇六九	九四〇	一四、八七六	一〇六、五二六	一二三、四一
同三十二年	八三九	六〇五	一一、五八	八五、三四四	九八、二九六
同三十一年	七七〇	五九四	一一、三〇二	五七、七四〇	七〇、四〇六
同三十年	七二八	二、四六五	九、五七三	四六、〇二九	五八、七八五

○人口二萬以上住居スル都邑

明治三十一年十二月卅一日

都邑	現住人口	都邑	現住人口	都邑	現住人口
東京市(武藏)	一、四〇、一二二	高知市(土佐)	三六、五一	千葉町(下總)	二六、二三三
大阪市(攝津)	八二、二三五	那覇區(琉球)	三五、四五三	谷山村(薩摩)	二五、九九七
京都市(山城)	三五、一三九	山形市(羽前)	三五、三二〇	門司町(豐前)	二五、二七四
名古屋市(尾張)	二四、一四五	姫路市(播磨)	三五、三二二	四日市市(伊勢)	二五、二二〇
神戸市(攝津)	二五、七八〇	弘前市(陸奥)	三四、七七一	丸龜町(讚岐)	二四、九七七
横濱市(武藏)	一九、七六二	前橋市(上野)	三四、四九五	熱田町(尾張)	二四、九四一
廣島市(安藝)	一二、三〇六	高松市(讚岐)	三四、四一六	首里區(琉球)	二四、八〇九
長崎市(肥前)	一〇、七四三	大津市(近江)	三四、二三五	横須賀町(相模)	二四、七五〇
金澤市(加賀)	八三、六六三	水戸市(常陸)	三三、七八八	上田町(信濃)	二四、一四
仙臺市(陸前)	八三、三三五	盛岡市(陸中)	三三、二八七	桐生町(上野)	二三、九九〇
函館區(渡島)	七八、〇四〇	盛岡市(陸中)	三三、九八九	八王子町(武藏)	二三、二〇三
福岡市(筑前)	六六、一九〇	佐賀市(肥前)	三三、七五三	栃木町(下野)	二三、三七九

和歌山市(紀伊)	六三、六六七	佐賀市(肥前)	三三、七五三	尾道市(備後)	三三、五二二
徳島市(阿波)	六一、五〇一	宇都宮市(下野)	三三、〇六九	穎娃村(薩摩)	三三、〇五六
熊本市(肥後)	六一、四六三	岐阜市(美濃)	三一、九四二	酒田町(羽後)	二二、九三七
富山市(越中)	五九、五五八	高岡市(越中)	三一、四九〇	豊橋町(三河)	二二、七八五
岡山市(備前)	五八、〇二五	松本市(信濃)	三一、三二四	和庄町(安藝)	二二、五五三
小樽(後志)	五六、五六一	長野市(信濃)	三一、三一九	伏見町(山城)	二二、五五三
鹿児島市(薩摩)	五三、四八一	高崎町(上野)	三〇、八九三	足利町(下野)	二二、三四八
新潟市(越後)	五三、三六六	米澤市(羽前)	三〇、七一九	明石町(播磨)	二二、一九六
堺市(和泉)	五〇、二〇三	奈良市(大和)	三〇、五三九	東南方村(薩摩)	二二、一一一
福井市(越前)	四四、二八六	秋田市(羽後)	二九、四七七	福島町(岩代)	二〇、六三四
赤間關市(長門)	四三、七六六	若松町(岩代)	二九、二〇〇	鶴岡町(羽前)	二〇、四六一
静岡市(駿河)	四三、一七三	久留米市(筑後)	二九、〇〇八	戸太町(武藏)	二〇、三三三
甲府市(甲斐)	三七、五六一	鳥取市(因幡)	二八、四九六	高田町(越後)	二〇、三三五
佐世保村(肥前)	三七、四八五	青森市(陸奥)	二八、〇二九	桑名町(伊勢)	二〇、一三一
札幌區(石狩)	三七、四八三	宇治山田町(伊勢)	二七、九九〇		
松山市(伊豫)	三六、五五五	小倉町(豐前)	二七、五〇四		

○各國大都會人口 最近

都會	人口	都會	人口	都會	人口
倫敦(英吉利)	四、五六、〇六三	伯明翰(英吉利)	一、八八、三三六	東京(日本)	一、四〇、一二二
紐約(合衆國)	三、四三、七、〇三三	シカゴ(合衆國)	一、六九、五七五	フイルデルヒヤ(合衆國)	一、二九、三、六九七
巴里(佛蘭西)	二、六〇、五九九	維也納(奧地利)	一、六七、四九五七	聖彼得堡(露西亞)	一、二六、七〇、三三三

君士坦丁堡(土耳其)	二,一五,〇〇〇	ブラッセル(白耳義)	五六一,七八三	クリブランド(合衆國)	三八一,七六八
カルカッタ(印度)	二,一三,六六四	ボストン(合衆國)	五六,八九三	セツフホールド(英吉利)	三八〇,七一七
北支那	一,〇〇〇,〇〇〇	マンチエスター(英吉利)	五四三,九六九	コーベンハーゲン(丁抹)	三七八,二三五
莫斯科(露西亞)	九八八,六四四	バーミンガム(英吉利)	五二二,一八二	コーロン(獨逸)	三七三,二九
漢口(支那)	八五〇,〇〇〇	アムステルダム(和蘭)	五三〇,六〇三	リスボン(葡萄牙)	三五七,〇〇〇
アエノスアイレス(亞爾然丁)	八三六,三八一	マドリッド(西班牙)	五二一,一五〇	京(日本)	三五三,一三九
大阪(日本)	八二二,二三五	バルセロナ(西班牙)	五〇九,五八九	パツファロー(合衆國)	三五二,二一九
廣東(支那)	八〇〇,〇〇〇	マドラス(印度)	五〇九,三九七	マニラ(比律賓)	三五〇,〇〇〇
孟買(印度)	七七〇,八四三	バルチモア(合衆國)	五〇八,九五七	ベルフアスト(愛蘭)	三四八,八七六
リオデジャネイロ(伯西兒)	七五〇,〇〇〇	蘇州(支那)	五〇〇,〇〇〇	桑(合衆國)	三四三,七八二
グラスゴー(蘇格蘭)	七三五,九〇六	ミユニツク(獨逸)	四九九,九五九	チユリン(伊太利)	三三五,六三九
ブダペスト(匈牙利)	七三三,三三三	メルボルン(維多利亞)	四九四,七六九	ロツテルダム(和蘭)	三三三,一八五
漢堡(獨逸)	七〇五,七三六	ミラポルン(伊太利)	四九三,九五六	メキシコ(墨西哥)	三三九,七四
天津(支那)	七〇〇,〇〇〇	ライプツヒ(獨逸)	四六一,四六〇	プリストル(英吉利)	三三八,八四三
杭州(支那)	七〇〇,〇〇〇	里昂(佛蘭西)	四五五,〇八九	シンシナチ(合衆國)	三三九,九〇三
福州(支那)	六八四,九四七	シドニー(新南威爾斯)	四五三,一四五	ビツツブルグ(合衆國)	三三一,六六
ソール(露西亞)	六五〇,〇〇〇	ハイドラバット(印度)	四五二,〇〇〇	アレキサンドリヤ(埃及)	三二九,七六六
上海(支那)	六三六,二〇九	リゾ(英吉利)	四四六,二九一	エジンバラ(蘇格蘭)	三二六,四七九
盤谷(暹羅)	六〇〇,〇〇〇	プレスロー(獨逸)	四三八,九五三	ロー(露西亞)	三二五,二〇九
セントルイス(合衆國)	五七五,二三八	オデッサ(露西亞)	四三三,七三八	パレルモ(伊太利)	三三〇,三五三
カイロ(埃及)	五七〇,〇六二	ドレスデン(獨逸)	四〇五,〇四一	ストックホルム(瑞典)	三三〇,六二四
ネーフルス(伊太利)	五三三,七三二		三五五,三四九	南重慶(支那)	三三〇,〇〇〇

○各種農産物

種類	明治三十二年	同三十一年	同三十年	種類	明治三十二年	同三十一年	同三十年
粳米	三五,六四九,六三七	四二,七二二,三九二	二,九七二,七三六	黍	三七七,七六八	二九一,八五三	二六〇,四一四
糯米	三,四九七,二〇九	四,〇五五,六九〇	二,八七八,九四四	蕎麥	九九九,四一〇	一一九二,八〇六	九九〇,一九五
陸米	五五二,四二二	六一九,五八四	四三七,六三三	菜種	一一一,四六四	一,〇七九,五九四	一,〇一一,〇〇四
計	三九,六九八,二五八	四七,三八七,六六六	三三,〇三九,二九三	甘藷	二,五二二,五六三	二,一〇七,三四三	二,一九二,九四四
大麥	八,五二二,七二六	八,九一三,五六〇	八,〇〇八,五三九	馬鈴薯	六六一,四四四,八六三	七二六,九五六,一四六	六六二,三九一,五九〇
裸麥	六,六八二,〇二一	七,三六六,六〇五	六,一六五,七九二	實綿	六四,五九四,七〇五	三四〇,七六,〇三三	五八,五二八,二八七
小麥	四,一四一,二〇五	四,一八一,八八八	三,七八八,八六四	大葉	五,二二二,九五五	七,二七九,七三三	七,三〇四,一五三
計	一九,三三五,九五二	二〇,〇六二,〇五三	一七,九六三,二九五	葉煙	二,九二二,九五四	三,七七五,九一七	三,五九九,一五九
大豆	三四一〇,六九三	三,一〇八,七〇七	三,一〇〇,九七三	藍	一三,七二四,八六八	八,二七八,一五二	八,八七一,三七〇
小豆	八三三,七七五	六五四,八八三	六五五,七六七	漆汁	一八,七九六,四三五	一七,七五八,五二〇	一九,四一五,五九三
粟	二,二七,一五四	二,六二六,五八八	二,三九五,一五八	蠟	三九,六三八	三七,五九四	四一,四七八
稗	八六二,〇七三	九〇一,四七二	八〇六,二四七		三,五四七,三三六	三,〇九〇,三二五	三,一一四,五五三

○牛馬現存數

年次	牛		合計	馬		合計
	牝	牡		牝	牡	
明治三十一年	七六九,一六三	四八三,七〇一	一二,五二,八六五	八六一,六四七	六八五,五一三	一,五四七,一六〇
同三十二年	七四二,四二二	四八八,〇五四	一二,三〇,〇六六	七四三,六一七	七二四,〇八〇	一,五八七,六九七

毎年末日

○鑛物產出高

年次	金	銀	銅	鐵	鉛	石炭
同三十一年	七三三,四四四	四八一,七五五	一,二四九,七六一	一八,五四一	八七四,六六三	七二八,二〇八
同三十一年	六九二,三三三	四七七,四四九	一,二四九,七六一	一六,七七七	八五九,五二四	七二八,五九三
同三十一年	四四六,七六六	一四,九七八,〇六〇	四〇,四五九,七〇九	六,一五一,〇三三	三,三三三,四六四	六,七二一,七九八
同三十一年	三〇九,一四五	一六,一一八,二四二	三五,〇三九,五九二	六,二九六,二二五	二,八三七,五七〇	六,六九六,〇三三
同三十年	二七六,四二七	一四,四七八,四八五	三三,九八二,二一七	七,四四六,三六四	一,二八四,八五六	五,八八八,一五七
同二十九年	二五六,五二九	一七,二〇九,一三三	三三,四六四,六一五	七,二九九,五七九	三,二五七,一六六	五,〇一九,六八九

○石炭消費高

年次	船		鐵道		工場		製鹽用	合計
	官	民	官	民	官	民		
明治三十二年	一〇七,〇三四	一一,二七,七八八	一五七,二七四	三三八,七〇二	一一,二,四三	二,四八二,五三七	六六九,三三五	四,九四四,八八二
同三十一年	三六,七九三	七四八,〇八六	一三七,〇七七	二五〇,三八九	四,一七九	二,四八六,一三五	六五七,八五	四,三三八,〇四八
同三十年	四七,一〇九	八三八,九三九	一一四,五三〇	七二八,八九〇	七,二五三	一,七五九,七三〇	四九六,五三二	四,〇五八,二二三
同二十九年	三八,六三三	六四八,四六一	九四,三二〇	一六三,六二七	七四,四六一	一,四七八,五四四	五四六,六三九	三,〇四四,六八八

○酒類及醬油製造

年次	酒	醬油
製造場	清酒	濁酒
一	一	一
二	二	二
三	三	三
四	四	四
五	五	五
六	六	六
七	七	七
八	八	八
九	九	九
十	十	十
十一	十一	十一
十二	十二	十二
十三	十三	十三
十四	十四	十四
十五	十五	十五
十六	十六	十六
十七	十七	十七
十八	十八	十八
十九	十九	十九
二十	二十	二十
二十一	二十一	二十一
二十二	二十二	二十二
二十三	二十三	二十三
二十四	二十四	二十四
二十五	二十五	二十五
二十六	二十六	二十六
二十七	二十七	二十七
二十八	二十八	二十八
二十九	二十九	二十九
三十	三十	三十
三十一	三十一	三十一
三十二	三十二	三十二
合計	製造場	一醬油

○各種工業製產物

種別	明治卅二年度	同卅一年	同卅二年	種別	明治卅二年度	同卅一年	同卅二年
蠶絲	二六八,九四二	二七六,六六六	八〇,三一一	蠶製	八,七三六	四,三五六	二四,一八一
真綿	一九七,五三四	三〇,六八七	六四,五五四	製糖	五〇,四五四	六〇,三二四	一〇,〇三三
紡績綿絲	一七,二九四	一四〇,一六九	八五,五四四	製茶	一五,一一四	三,五〇〇	一〇,〇三四
	一四,二六四	六三六,一一四	二七,二一九	製紙	一一,三〇一	四,七七八	一〇,一七七

○各國蠶糸需用高

(一基ハ二百六十六匁)

年次	亞細亞	亞米利加	歐羅巴	合計
明治三十四年度	一,〇一〇,一〇〇	三,九八,三〇〇	一〇,八六四,八〇〇	一五,七九三,二〇〇
同三十三年度	六二七,四〇〇	四,六四七,七〇〇	一〇,八六四,二〇〇	一六,一三九,三〇〇
同三十二年度	四七〇,五〇〇	四,〇五一,四〇〇	一〇,一四六,九〇〇	一四,六六八,八〇〇
同三十一年度	四五三,一〇〇	四,四一七,八〇〇	九,六六九,一〇〇	一四,五四〇,一〇〇

○諸學校

明治三十三年末日

校名	學		校		教		員		學		生		徒		卒業生
	官立	公立	私立	官立	公立	私立	官立	公立	私立	官立	公立	私立	官立	公立	
小學校	二	二六、四五	三六九	三	九一、七六七	一、一〇一	一、二四四、六三、九三〇	一九四	七、三三三	二	二	二	二	二	二
盲啞學校	一	一	九	一	一五	二五二	一、九六	一九四	一	一	一	一	一	一	一
師範學校	二	五	九	一〇	九五八	八〇三	一、九三	一八〇	一	一	一	一	一	一	一
高等師範學校	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
中學校	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
高等女學校	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
帝國大學	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
高等專門學校	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
實業學校	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
各種學校	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
總計	二六	二七、一五六	一、六七八	一、一九九	九七八、八五	七、〇三三	一、四四七、四七四、三、四三五	二、六八八、八四二、七八八、八八四	一、六八八、八四二、七八八、八八四	一、六八八、八四二、七八八、八八四	一、六八八、八四二、七八八、八八四	一、六八八、八四二、七八八、八八四	一、六八八、八四二、七八八、八八四	一、六八八、八四二、七八八、八八四	一、六八八、八四二、七八八、八八四

新聞紙及雜誌

年次	年		未		合計	本		中		合計
	有保證金	無保證金	有保證金	無保證金		有保證金	無保證金	有保證金	無保證金	
明治三十三年	五五	四〇九	四〇九	九四四	二二八	二五七	二二八	二二八	二二八	四七五
同三十二年	四九	四八九	四八九	九七八	一八六	二二八	二二八	二二八	二二八	四七五
同三十一年	三八	四八	四八	八二九	一五二	二二八	二二八	二二八	二二八	四七五
同三十年	三三	四三	四三	七四五	九九	二二八	二二八	二二八	二二八	四七五

無保證金ハ學術技藝統計等ニ關スル事項ヲ記載スルモノナリ

社寺及神官住職等

年次	神社		神官		寺院		住職		會堂及講義所等	
	國幣社以上	附縣社以下	神官	寺院	寺院	住職	會堂及講義所等	會堂及講義所等	會堂及講義所等	會堂及講義所等
明治三十三年	一六九	五七、九〇二	一三八、二八七	七二、九五二	三、八〇三	五二、八七三	一、〇三五	一、〇三五	一、〇三五	一、〇三五
同三十二年	一六九	五七、三七七	一三五、三三三	七一、九七七	三、八〇三	五二、〇四八	一、〇一十	一、〇一十	一、〇一十	一、〇一十
同三十一年	一六	五八、三七三	一三五、三六六	七一、九四七	三、八〇三	五三、九八五	一、〇一十	一、〇一十	一、〇一十	一、〇一十
同三十年	一六七	五八、三七四	一三五、四二一	七一、九二〇	三、八〇三	五四、六三五	一、〇一十	一、〇一十	一、〇一十	一、〇一十

裁判所

年次	院		支		合計	年次	院		支		合計
	審判	控訴	部	部			審判	控訴	部	部	
明治卅二年	一	七	七	三	一〇	卅二年	一	七	七	三	一〇
同卅一年	一	七	七	三	一〇	卅一年	一	七	七	三	一〇

民事訴訟件數

年次	上告		控訴		第一審	抗告	和解	督促	合計
	件數	金額	件數	金額					
明治三十二年	一、五〇八	一、二五七	一、八九一	一、四四五	一、六二九	五、九〇八	二、五七、九九六	四、六八、七五三	
同三十一年	一、四六〇	一、〇六九	一、七六二	一、三三〇	九六二	八、二三八	二、三二、二〇八	四、二九、七八〇	
同三十年	一、六三三	一、〇六五	一、四八八	一、四三六	六六八	八、八二九	一、七二、一八九	三、四二、四三九	

○重罪輕罪違警罪及罰則違犯者

同	二十九	一、六六	一〇、六〇一	一、三、七三五	七六	一〇、〇六	一、四七、七二	三〇八、五二
年	次	重罪	輕罪	違警罪	罰則違犯	合計		
明治三十二年		二、七九八	一、三〇、九三三	二、八三、一三三	五、一八三	四六八、六八四		
同	三十一年	三、〇三九	一、六四、四六九	二、七、七八〇	五、六、四七九	五〇、七六七		
同	三十年	二、九六	一、七、七三〇	二、七、七二九	四、六、五二九	五〇〇、九三八		
同	二十九年	二、四九三	一、六五、五五六	二、七、七五五	四、三、七八	四八八、五二		

○警察官署及警察官

年	次	警察官署	同分署	派出所及交番所	駐在所	合計	警察官
明治三十二年		七七七	七七七	一、五〇七	一、一、四一〇	一、四、三七二	三、二、四四五
同	三十一年	七三五	七三五	二、二二九	一、一、三三五	一、三、九八四	三〇、六三五
同	三十年	七三八	七三八	一、二五五	一、一、〇四七	一、三、七三七	二九、九七六
同	二十九年	七三六	七三六	一、二七七	一〇、七四五	一、三、五〇〇	二八、七五

○就捕犯罪者違警罪犯者諸規則違犯者

年	次	監視規貨幣偽造ニ關スルヲ犯ス	賭博ニ入子殺傷又ハ人子傷ヲ犯ス	竊盜及強盜	詐偽取財	放火	違警罪及諸規則違犯	其他	合計
明治三十二年		八、〇六一	三、七三五	一、一〇、一九	五、一、五二二	一、一、六二七	一、六、二八三	九、三、六六三〇	三、一、五五二
同	三十一年	九、〇五三	四、九、二〇六	一、一、六三三	六、八、四六五	一、一、四二四	一、七、四九五	一、〇、七三七、六三八	三、三、七二四、〇七五
同	三十年	七、八三六	四、六、四六五	一、二、一六六	六、三、三九三	一、〇、九四	一、六、二四六	九、一、二九四、二九二	三、三、三九四、七六一

○盜難變死者及棄兒

年	次	強盜	竊盜	其他	合計	自殺	其他	合計	棄兒
同	三十一年	二五六	四六、〇一〇	一、三、三五五	七、一、三五六	一、八、三四四	一、三、〇二二	三、八、三二四、九七、一、九八	三、八、三二四、九七、一、九八
同	三十年	三、四八	四九、二〇六	一、二、六三三	六、八、四六五	一、七、四九五	一、〇、七三七	三、三、七二四、〇七五	三、三、七二四、〇七五
同	二十九年	二、九八	四九、六四五	一、二、一六六	六、三、三九三	一、六、二四六	九、一、二九四、二九二	三、三、三九四、七六一	三、三、三九四、七六一

明治二十九年變死者ノ數殊ニ多キハ三陸東海岸ニ大海嘯アリシニ依ル

○陸軍准士官以上總員

年	次	現役	豫備	後備	合計	年	次	現役	豫備	後備	合計
明治三十三年		八、八九九	二、四〇一	一、一、六五	一、三、四六六	明治三十一年		七、四〇〇	一、四九六	八、六五	九、七六一
同	三十二年	八、〇八五	一、九三二	九、九四	一、一〇、〇一〇	同	三十年	六、六三三	一、三三〇	七、七六	八、七四八

○陸軍諸隊准士官以上人員

明治三十三年末日

艦種		戰艦		巡洋艦		艦名		排水量	馬力	速力	砲數																
八	明須和	千代田	秋津洲	高千穗	浪速	高砂野	吉野	橋立	松島	嚴島	初瀬	朝日	敷島	三笠	扶桑	鎮遠	八島	富士									
九,八〇〇	二,八〇〇	二,七〇〇	二,九六七	三,一七一	三,七〇九	三,七〇九	四,二二七	四,二二五	四,二七八	四,二七八	四,二七八	四,二七八	四,二七八	一五,二四〇	一五,四四三	一五,〇八八	一五,三六二	七,三三五	一三,六八七								
一五,五〇〇	八,〇〇〇	八,五〇〇	五,五七六	五,六七八	八,五五六	七,六〇四	八,六〇四	一五,九六七	一五,九六七	一五,九六七	一五,九六七	一五,九六七	一五,九六七	一四,七〇〇	一五,二〇七	一四,七〇〇	一五,二〇七	一三,六八七	一三,六八七								
二〇,〇〇〇	一九,五〇〇	二〇,〇〇〇	一七,〇〇〇	一九,〇〇〇	一八,〇〇〇	一八,〇〇〇	一八,〇〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	一八,〇〇〇	一八,〇〇〇	一八,〇〇〇	一八,〇〇〇	一四,五〇〇	一八,二五〇								
二五	二四	二四	二二	二二	二四	二四	二四	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	五〇	五〇	五〇	五〇	二〇	二八								
艦	砲	艦防		海防		艦巡		艦名	排水量	馬力	速力	砲數	艦名	排水量	馬力	速力	砲數	艦名	排水量	馬力	速力	砲數					
天平	筑紫	天龍	海門	武藏	大和	葛城	筑波	比叡	金剛	高雄	濟遠	千歲	笠置	岩手	出雲	常磐	淺間	吾妻	千歲	笠置	岩手	出雲	常磐	淺間	吾妻		
六六	一,二八五	一,三七三	一,一五〇	一,五〇二	一,五〇二	一,五〇二	一,五〇二	一,九七八	二,二八四	二,二八四	一,七七八	二,四八一	四,八三六	四,九七八	九,九〇六	九,九〇六	九,八五五	九,八五五	九,八五五	二,四八二	二,八三九	二,八三九	二,八三九	二,八三九	二,八三九	二,八三九	
七〇	一,〇〇〇	一,二〇〇	一,二六七	一,六三三	一,六三三	一,六三三	一,六三三	一,九七二	二,五三九	二,五三九	一,六三三	二,八三九	一五,七二四	一七,二三五	一四,七〇〇	一四,七〇〇	一八,二四八	一八,二四八	一八,二四八	一五,七二四	二,八三九	二,八三九	二,八三九	二,八三九	二,八三九	二,八三九	
一一〇	一〇,五〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇	一八,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	一三,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二〇,七五〇	二〇,七五〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇	二二,五〇〇
一一	一六	一一	一一	一四	一四	一四	一四	一七	一九	一九	一六	一一	三〇	三〇	三六	三七	三七	三七	三七	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	

帝國軍艦		海軍軍人	
種別	現役	豫備	後備
准士官	五七九	二	六
候補生	二九二	二	一
士官	九一三	二	七
上長官	六〇九	二	九
將官及相當官	四〇	二	三
合計	一,〇一三	一〇	一七
明治卅二年	二四,五七五	二,五二二	一,六三三
總計	二八,三〇八	二,九九五	一,六七八
生徒	七五一	一	一
卒徒	二〇,四九五	二,七三九	一,四六八
下士	四,六三〇	一八四	一
合計	二四,八一四	二,九二〇	一,四七〇

隊別	現役	豫備	後備	合計
近衛師團	四三	四六	九二	一八二
第一師團	四三	四六	九二	一八二
第二師團	四三	四六	九二	一八二
第三師團	三〇	三二	六二	一二四
第四師團	三〇	三二	六二	一二四
第五師團	三〇	三二	六二	一二四
第六師團	三〇	三二	六二	一二四
第七師團	二五	二七	五二	一〇四
第八師團	三〇	三二	六二	一二四
合計	四三	四六	九二	一八二
明治卅二年	四三	四六	九二	一八二
總計	四三	四六	九二	一八二
憲兵	一	一	一	三
臺灣守備隊	一	一	一	三
第十一師團	三〇	三二	六二	一二四
第十二師團	三〇	三二	六二	一二四
合計	四三	四六	九二	一八二
明治卅二年	四三	四六	九二	一八二
總計	四三	四六	九二	一八二
合計	四三	四六	九二	一八二

帝國軍艦

海軍軍人

明治三十三年末日

(最近調)



○官私設鐵道ノ一二

年次	線路長	線路延長	機關車	客車	貨車	經過哩數	創業ヨリ建設費	年次	乘	客	貨	物	收入金	支出金	益	金	國名	鐵道		線路長	線條長	
																		調查ノ年	調查ノ年			調查ノ年
明治三十三年度	三、九一五・三九	五、〇七三・三五	一、二九六	四、四三五	一八、四〇九	二八、六九九・七五四	三〇、四七〇・八三〇	明治三十三年	一三三、一三八・九八三	一四、五三〇・〇一〇	四六、九七三・〇七一	三三、四九一・五一	二四、四八一・五三〇	日本	明治三十三年	三三、一三五	一三、八七九	五九、三九六	同	同	同	同
明治三十二年度	三、六九九・二六	四、七五二・六一	一、三三五	四、一六六	一六、五九五	二六、三七六・一〇八	二六、五九八・四〇五	明治三十二年	一〇一、二六三・八一四	一一、九七二・一七二	三九、九八六・六〇五	一九、七九九・七二五	二〇、一八六・八七〇	支那	明治三十二年	二、五三三	一四、〇〇〇	二九〇、六三四	同	同	同	同
明治三十一年度	三、四三〇・五〇	四、三五一・四二	一、一〇三	三、八二三	一四、〇七四	二二、九七七・四〇〇	二二、四五六・七六四	明治三十一年	九八、三六九・九七五	九、九九四・七四五	三三、六九二・三三三	一八、四〇三・七〇四	一五、二八九・六二九	日支	明治三十一年	三、五三六	九八、五七〇	二九〇、六三四	同	同	同	同
明治三十年度	二、九四四・三三	三、六九一・三三	八七〇	二、八一七	一〇、九一六	一八、七八八・四三七	一八、六六二・四三八	明治三十年	八四、四五三・三六三	八、六八八・三八八	二八、六八八・九三三	一三、〇一四・三二一	一五、六七四・六〇一	露支	明治三十年	三、二〇五	四九、二九五	五一七、三五〇	同	同	同	同

○各國鐵道電信

國名	鐵道	電信	線路長	線條長
佛蘭西	同	同	二、八五五	三三〇、一〇〇
英吉蘭	同	同	二、一七〇	三四七、六八〇
奧地利	同	同	一、一〇〇	一〇七、一五〇
匈地	同	同	一、〇六七	七、一九一
伊太利	同	同	九八〇	一〇一、四七〇
土耳其	同	同	二、九八〇	三八、四〇〇
西班牙	同	同	八〇六八	四六、六七〇
瑞典	同	同	六、六四九	二八、二六九
諾威	同	同	一、三三三	四九、五三〇
白蘭義	同	同	二、八三三	二四、九四〇
和蘭	同	同	一、七三〇	一四、二一〇
瑞西	同	同	二、三六二	一三、一七八
丁抹	同	同	一、八一〇	八、六六一
北米合衆	同	同	一、九四三・二	九七二、七六六
墨西哥	同	同	九、六〇〇	—
伯西	同	同	八、七八	二五、三三〇
智利	同	同	二、八八〇	—
葡萄牙	同	同	一、四六四	一一、四六〇
羅馬尼亞	同	同	二、〇六〇	一一、二四六

○內外國發信郵便物及小包



年次	通狀		常郵		其他		合計		小包郵便
	書	葉	書	其	他	合	計		
明治三十二年	一五,六八六	八〇六	三三四,〇三三	二五八	一四〇,一八三	七五一	六二九,八九三	八一五	六,〇八一,〇一一
三十一年	一五七,五二四	三九三	三三九,九三三	八二五	一二五,三二〇	八七	六一二,七五九	〇三三	五,〇七六,六四八
三十年	一四五,七三七	七九	二八九,七七二	一七二	一二三,二〇八	八二一	五五七,七七七	〇一	四,二三八,四九九
二十九年	一二三,三五五	五三三	二六二,八六一	三五五	一一八,一四六	八三五	五〇三,三五九	六八二	二,七三七,一三八

○電信線路通數等

年次	線路延長		發信通數		外國着信通數		料金
	線路	延長	發信	通數	外國	着信	
明治三十二年	五六八,八二三	里	二四,三四二	七三三	二四,七六三	七七七	三,八三三,六三六
三十一年	五,二九五	九一	二〇,五六一	九一	一五,五〇三	七〇〇	三,三八四,四一九
三十年	五,一三九	〇三	一八,三六〇	九四	一四,一六三	〇二二	三,〇六五,九七七
二十九年	四,七二〇	二七	一五,四三一	八六	一〇,九七八	一五三	二,四二二,三六三

○商船

年次	西洋形汽船		西洋形帆船		合計		日本船
	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	
明治卅三年	一,三三二	五四三,二五八	三,八五〇	三三〇,五七二	五,一八二	八六三,八三〇	一八,七九六
卅二年	一,三三二	五〇〇,〇七七	三,三三二	二八六,九三三	四,五四三	七九六,九三〇	一八,四七九
卅一年	一,一三〇	四七七,四三〇	一,九一四	一七〇,八九四	三,〇四四	六四八,三二四	一九,〇九九
卅年	九七〇	二七三,一八五	七二七	四五,二〇九	一,七〇	一,九〇	一九,〇九七

○各國快走船數

國名	二十節以上		十九節以上		十八節以上		十七節以上		十六節以上		十五節以上		十四節以上		十三節以上		十二節以上		合計
	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	
英吉利	三	二〇	三	三七	三	五五	三	六五	三	八六	三	一三四	三	二八七	三	四〇四	三	一,一一一	
北米合衆國	四	二〇	四	三七	四	一〇	四	一〇	四	三二	四	一三四	四	三五	四	四九	四	一七九	
佛蘭西	七	三	七	三	七	一八	七	一八	七	二九	七	二二	七	四八	七	六三	七	一五三	
獨逸	五	三	五	三	五	一	五	一	五	一	五	一	五	三	五	三〇	五	一三四	
和蘭	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一三四	
伊太利	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一三四	
日本	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一三四	
露西亞	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一三四	
奧匈	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一三四	
西班牙	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一三四	
白耳義	六	三	六	三	六	三	六	三	六	三	六	三	六	三	六	三	六	一,一六六	

○病院及醫師產婆等

年次	病院		醫師		產婆		藥劑師		藥種商		製藥者	
	數	員	數	員	數	員	數	員	數	員	數	員
明治三十三年	八六六	四三,八三八	二五,〇四九	三,一〇〇	二二,一〇三	二,四三七	二,四三七	二,四三七	二,四三七	二,四三七	二,四三七	二,四三七
三十二年	七九三	四三,六二五	八,三六七	三,八九六	二,〇八七	二,五三〇	二,五三〇	二,五三〇	二,五三〇	二,五三〇	二,五三〇	二,五三〇
三十一年	六八五	四三,六五四	三,五九四	三,一一二	一九,三六二	二,四五三	二,四五三	二,四五三	二,四五三	二,四五三	二,四五三	二,四五三
三十年	六二四	四三,三七七	三,三五七	三,一一二	一九,三六二	二,四五三	二,四五三	二,四五三	二,四五三	二,四五三	二,四五三	二,四五三

輸出輸入總高

( \* 入輸出超過 )

年次	物品價額		貨幣及金銀地金價額	
	輸出入	輸入超過	輸出入	輸入超過
明治三十三年度	三三〇,一三四,一九二	一〇六,七九四,六九八	五九,五〇三,六三一	* 四六,五一八,九二四
同三十二年度	三二九,四九六,八九二	一三,八三四,九六七	一三,六六六,〇二八	一〇〇,三四,八三七
同三十一年度	一七八,五七〇,九四三	一一五,八〇〇,四〇四	八九,〇九七,三〇七	* 四〇,七五〇,一七九
同三十年度	一七七,八七五,四九七	九六,二九五,〇〇六	一九,八五一,〇一六	六七,五四六,七七六

各國輸出入

國名	調査ノ年	輸出入		合計
		輸入	輸出	
英吉利	明治三十四年	五,〇九七,〇五三	二,七三七,六六九	七,八三四,七二二
獨逸	同	二,八六四,一六八	二,二八四,五一五	五,一四八,六八三
北米合衆國	同	一,六四六,三四三	二,九二〇,九二五	四,五六七,二六九
佛蘭西	同	一,八三八,六五五	一,六三四,八一八	三,四六三,四七三
和蘭	同	一,五九四,〇八〇	一,三七四,九五〇	二,九六九,〇三〇
白耳義	同	一,四〇一,八二五	一,三〇七,一〇九	二,七〇八,九三五
露西亞	同	八八七,三六八	一,〇六七,二五五	一,九五四,六二四
印度	同	六八五,五六三	七九二,九四〇	一,四七八,五〇四
伊太利	同	六六三,〇九一	五〇一,九一六	一,一六五,〇〇七
瑞西	同	四七〇,六五五	三四五,一一〇	八一五,七六六

歲入歲出

( \* 入歲入超過 )

年次	前年度ヨリ繰入金	歲入		歲出	
		入	出	入	出
明治三十三年度	八八,八九七	二九五,七〇五	二九二,七二六	* 二,九七八,五六九	
同三十二年度	二九六,五五八	二五三,三八五	二五三,六六二	二七七,〇四三	
同三十一年度	二七二,二七九	二二七,三四二	二一九,七五七	二四一,四二七	

國名	調査ノ年	輸入	輸出	合計
奧地利、匈牙利	同	三四七,七六二	三九八,一一〇,〇〇〇	七四五,八七二
西班牙	同	三三六,三三四	二八二,三〇八	六一八,六四三
日支那	同	三三六,九二八	三三〇,一三四	五五七,〇六三
支那	同	三〇六,〇五二	三三〇,五五五	五三六,五九七
伯西兒	同	一九五,〇〇〇	三三一,五〇〇	五二六,五〇〇
丁抹	同	二八四,四七三	二二二,五二七	四九七,〇〇一
瑞典	同	二七二,五八五	一九三,四一九	四六六,〇〇五
土耳其	同	二〇六,二一九	二二九,七五一	三三五,九七一
智利	同	二一八,二五五	一五四,二六〇	二七二,五一一
亞威利	同	一六七,七五二	九三,三九一	二六一,一四三
亞爾然	同	一〇四,四一六	七〇,六六三	一七五,〇七九
葡萄牙	同	一三〇,六八一	一三六,七六三	二六七,四四四
墨西哥	同	五九,八七六	一〇九,二〇〇	一六九,〇七六
羅馬	同	八四,六二四	三九,八一四	一二三,四三八
希臘	同	五〇,六九四	三九,八四八	九〇,五四二

同三十年度 決算 一八、一六三、九一五 二〇八、二七、〇〇八 二二、三、六七八、八四四 一五、四五一、六三六

○各國歲入出

國名	調査ノ年	歳入	歳出	國名	調査ノ年	歳入	歳出
露西亞	明治卅三年	二、九二八、二八五、〇二二	二、九二八、二八五、〇二二	土耳其	明治卅一年	一六三、八九九、六三四	一六三、一七八、八七
佛蘭西	同	四、〇〇二、八九三、九九二	四、〇〇二、八九三、九九二	支那	同	一三九、〇〇〇、五五〇	一三九、〇〇〇、五五〇
英吉利	同	三、九〇〇、三六〇、八〇〇	三、九〇〇、三六〇、八〇〇	和蘭	同	一三五、六〇〇、二〇〇	一三五、一六八、〇九五
北米合衆國	同	一、三七七、二六六、〇八四	一、二一五、五四六、五〇八	葡萄牙	同	一一九、一六一、三七二	一一二、二〇〇、四〇五
獨逸	同	一、二〇九、六〇六、四〇〇	一、二一五、四〇一、二八〇	智利	同	八八、二三四、五〇〇	八七、二二三、五〇〇
印度	同	七三三、八六八、八二五	七六六、八七四、九二五	羅馬尼	同	八五、二一五、〇〇〇	八五、二一五、〇〇〇
伊太利	同	七〇六、六五〇、五五九	六九八、四七四、三二四	瑞典	同	八四、三二七、二〇〇	八四、三二七、二〇〇
奧地利	同	六九一、二四六、二〇六	六九〇、八九八、三五七	墨其西	同	五九、六三七、七一八	五九、五五九、七一六
匈牙利	同	四四五、六六六、七〇七	四四五、五六七、一二四	丁抹	同	五二、五四二、〇〇〇	五二、五四二、〇〇〇
西班牙	同	三二〇、〇三〇、七二二	三七八、七六二、四〇一	瑞然	同	四二、六三八、〇五三	四二、五九七、一〇六
日本	同	二七七、四九七、〇〇三	二七五、八八七、四二四	亞爾然	同	三九、八七三、六〇〇	四二、一六六、八〇〇
白耳義	同	一九〇、七二五、六二〇	一九〇、四五四、三二七		同	三三、七〇一、七五八	二一、九一四、三八一

○國債未償還

年次	內國債	外國債	流通紙幣	合計
明治三十三年度	五〇八、四六四、一九五	—	一、七二四、八八三	五二〇、一八九、〇七八

○各國國債

同	三十二年度	五〇三、九六七、二四九	—	五〇三、九六七、二四九
同	三十一年度	四二五、二五三、一三四	—	四二五、二五三、一三四
同	三十年度	四二二、二四五、九二八	—	四二二、二四五、九二八
同	二十九年度	四一〇、一〇一、三八三	二、三、七五二	四一〇、四四五、〇八二

○公債一覽

國名	調査ノ年	金額	國名	調査ノ年	金額
北米合衆國	明治三十四年	四、二六六、五三、八六八	葡萄牙	明治三十四年	三五九、三四五、一九一
西班牙	同	三、七六四、〇八六、三八九	智利	同	二八二、一三三、三七七
匈牙利	同	二、二六六、三七二、四三〇	墨其西	同	二二九、五六七、五一二
奧地利	同	一、四八四、六七四、六九一	丁抹	同	二二八、八二二、八七二
土耳其	同	一、一七八、六六三、二二六	威利	同	一九七、八〇五、四九六
獨逸	同	一、一〇三、二八〇、〇〇〇	英吉	同	一九六、六七五、〇九七
露西亞	同	一、〇一六、八〇〇、〇〇〇	瑞典	同	一八〇、〇九八、四四〇
印度	同	八二六、七九一、四四五	和蘭	同	一一〇、五〇八、五二三
羅馬尼	同	五五八、四八六、〇五六	白耳	同	九三、五八六、六二六
支那	同	五三七、二〇二、〇〇〇	亞爾然	同	五二、一七四、六三二
日本	同	五〇八、四六四、一九五	瑞然	同	四九、九六八、二四八
佛蘭西	同	四八四、九三六、〇四一		同	三六、〇三六、五一二

種類	券種	起因及發令年月	償還期限	利子	利渡月
舊公債	五百円、三百円、百円、五十円、廿五円	弘化元年ヨリ慶應三年迄ノ舊諸藩ノ連債ヲ償ヒタルニ起ル (發令明治六年三月)	明治五年ヨリ同五十四年迄五十年間	無利子年 賦金二円	每年十二月
金祿公債	五千円、千円、五百円、三百円、百円、五十円、廿五円	舊諸藩ノ家譜賞典祿ノ制ヲ廢シ之ヲ一時ニ下付セシニ起ル (發令明治九年八月)	明治十五年ヨリ同四十四年迄三十年間	年五歩	同 五月
海軍公債	千円、五百円、百円	海軍ノ費途ニ充ル爲メニ起ル(發令明治十九年六月)	發行ノ年ヨリ五十年間 償還其額年ヨリ向フ三十ヶ年間	年五歩	同 五月
整理公債	五千円、千円、五百円、百円、五十円	内國債(六分利付)ヲ償還整理スル爲メニ起ル(發令明治十九年十月)	募集ノ年ヨリ五十年間 償還其額年ヨリ向フ三十ヶ年間	年五歩	同 六月
鐵道公債	百圓	第一期鐵道敷設費ノ爲メ六千萬円ヲ限リ明治廿五年ヨリ同十二年間ニ募集ス、第一回募集ハ明治廿六年四月、第二回明治廿七年二月	同上	年五歩	同 九月
事業公債	百圓	既設官鐵道敷設改良、其後鐵道建設、電氣事業、電報擴張、郵便事業賣金及國防事業ノ費用ニ充ツルタメニ億三千五百萬円ヲ限リ明治廿九年ヨリ同三十五年迄七ヶ年間ニ募集ス第一回明治三十年三月第二回同十年十月	同上	年五歩	同 九月
軍事公債	五千円、千円、五百円、百円、五十円	清韓二國ニ對スル交渉事件ニ付軍費補充ノ爲メ一億五千萬円ヲ限リ漸次募集ス(發令明治廿七年八月及同十月)	明治廿七年ヨリ五十年間 償還其額年ヨリ向フ三十ヶ年間	年五歩	同 六月

○貨幣鑄造高及發行高

自明治三十一年十一月創業  
至同三十三年度末日

種別	金貨	銀貨	白銅貨	銅貨	合計
鑄造高	一九八、三六二、七九三	二、一七五、一七三、〇七六	八、四九〇、四六三	一一、五八三、〇八三	四、五三、六〇八、四一五
發行高	一九七、四三三、四三三	二、三四〇、〇五八、〇二六	八、四八八、八四九	一一、五八三、〇五一	四、五二、五五三、三六一
改行高	三三七、九八三	六、六三六、二七〇	二、〇一〇	一、五九〇、三八九	八、五六六、六五二
差引流通高	一九七、〇八四、四五三	二、三二七、四二一、七五六	八、四八六、八三九	一一、〇九九二、六六三	四、四三、九八五、七〇〇

○新貨幣明細表

種類	金貨			銀貨			白銅貨	青銅貨	貨	種別	經(曲尺)	量	目	性	合計
	二十圓	十圓	五圓	五十錢	二十錢	十錢									
純金	九百分			一寸〇二厘			日本	三匁五分九厘四毛二	純銀	八百分					
參和銅	一百分			七分			日本	一匁四分三厘七毛七	參和銅	二百分					
純銀				五分六厘			日本	四匁一分一厘一毛一	參和銅	二百分					
參和銅				七厘			日本	二匁一分一厘一毛一	參和銅	二百分					
參和銅				五分八厘			日本	七厘一厘八毛八	參和銅	二百分					
參和銅				六分八厘			日本	二匁一分一厘一毛一	參和銅	二百分					
參和銅				六分八厘			日本	四匁一分一厘一毛一	參和銅	二百分					
參和銅				九分二厘			日本	七厘一厘八毛八	參和銅	二百分					
參和銅				九分二厘			日本	七厘一厘八毛八	參和銅	二百分					
參和銅				七分二厘			日本	四匁一分一厘一毛一	參和銅	二百分					
參和銅				七分二厘			日本	四匁一分一厘一毛一	參和銅	二百分					

○備荒儲蓄金救助金額

年次	食料	小屋掛料	農具料	種穀料	地租補助	地租賃與	合計
明治三十二年	一、二六六	二、一三〇	一〇、七九一	二〇、一九六	三三	三三	六四、九八〇
同三十一年	三〇、一八七	七、七四五	四、二五八	一〇〇、七二〇	六、五八八	九、五七三	六三八、六九〇
同三十年	三五六〇	九、九七五	三、五四九	一七八、四七五	一三、九〇三	五八、七一九	七三四、六三三
同二十九年	一、〇五四〇	四、五六六	一八、二七三	三七二、五〇〇	三八、一三一	四〇、四七四	二、〇九六、四六五

本表三十二年度ノ事實ハ同年三月法律第七十七號ニヨリ従前ノ備荒儲蓄法廢止セラレタルヲ以テ四月ヨリ六月ニ至ル三ヶ月ノ事實ナリ

○文官

年次	勅任	奏任	任	判任	雇備	合計
明治三十三年	二八八	五〇三	四三、九四〇	四三、三二二		九二、五七一
同三十二年	二六九	四、六四九	四三、一六	三〇、九四九		七八、八八三
同三十一年	二五九	四、二六九	三八〇八二	二六、二六六		六八、八七六
同三十年	二二〇	四、三二六	三八、五三六	二二、六九二		六五、七五四

本表ハ國庫金ヲ以テ俸給ヲ支給スルモノナリ但シ宮内省ノ官吏神宮司廳職員執達吏諸官廳ノ臨時雇傭中取締門衛非職休職ハ算入セス

○郡區吏

毎年末日

年次	郡區長	郡區書記	雇備	合計	年次	郡區長	郡區書記	雇備	合計
明治三十三年	五三九	六、五八五	一、四八〇	八、六〇四	明治三十一年	五三九	六、一四〇	一、五五二	八、二三〇
同三十二年	五三九	六、〇一五	一、五八八	八、一〇二	同三十年	五三三	五、九一八	一、五五三	八、〇〇三

郡區長及沖繩縣北海道分ノ郡書記ハ前表ヨリ摘出セシモノナリ

○恩給及扶助料受領總人員

年次	文官	陸軍軍人	海軍軍人	合計
明治三十三年	八、三七五	二六、一九六	四、七一〇	三九、二八一
同三十二年	七、七五四	二五、九一一	四、五〇二	三六、一六七
同三十一年	六、三七五	二二、二八八	三、五七八	三二、二四一
同三十年	五、四三七	二〇、七六三	三、二三〇	二九、四三〇

○東京公廳所在

内閣 宮城内	大藏省 大手町一丁目	海軍省 霞ヶ關二丁目	文部省 麹町區竹竿町
樞密院 同	陸軍省 永田町一丁目	司法省 同	農商務省 木挽町十丁目
貴族院 内幸町	參謀本部 同	大審院 同	遞信省 木挽町八丁目
衆議院 同	教育總監部 麹町區町	控訴院 同	會計検査院 大手町一丁目
宮内省 宮城内	近衛師團 宮城内	東京地方裁判所 同	警視廳 八重洲町二丁目
外務省 霞ヶ關一丁目	第一師團 青山	行政裁判所 麹町區紀尾井町	東京府廳 鍛冶橋内
内務省 大手町一丁目	憲兵司令部 大手町一丁目		

○臺灣

○各廳位置及面積

明治三十一年末日

地方位置	面積	地方位置	面積
臺北 臺北城內府前街	二七六·六三 方里	臺南 臺南市街下橫街	三五九·七九 方里
臺中	三五〇·〇〇	宜蘭	三三〇·〇〇
臺東 南鄉新街	二四八·〇〇 方里	澎湖	一四·三三

○現住戶口

年次	現住		合計
	內地人	本島人	
明治三十二年	八,三三二	五三,一七六	五四〇,四九七
同三十一年	七,三九八	五三,九四七	五三六,九四五
同三十年	三,四七〇	五五,三七〇	五五九,七二七

○現住人出生及死亡

年次	出生		死亡	
	內地人	本島人	內地人	本島人
明治三十二年	六八	七,七六六	一,三八三	二九,八四八
同三十一年	一七	三,五二六	三三五	一九,九八〇
同三十年	—	—	五六一	三九,七九〇

○樟腦及樟腦油產出高

明治三十二年度

地方	樟腦		樟腦油	
	官行	特許	官行	特許
臺北	一〇〇,七〇〇斤	六三三,〇四八斤	六四,七三三斤	二七五,二二五斤
新竹	三五二	一七三,五八二	二二五	一九九,八五八
苗栗	—	四六八,七八五	—	四八一,七四九
臺中	—	三〇六,〇三〇	—	二六八,四一〇
林地	—	八四,三〇五	—	五〇,九一七
羅地	五四,四三三	—	二八,七四〇	—
總計	一五五,四七七	一,六六三,七五〇	九三,七二八	一,三六九,八八七

本表ハ明治三十二年八月臺灣樟腦及樟腦油專賣規則施行後ノ者ナリ

○製茶製糖及製藍

年次	製茶		製糖		製藍	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
明治三十二年	一六,三八八·九六斤	四,四四〇,六三五円	八一,六九六,二三五斤	三,八八七,五三八円	一七三,八五六斤	一〇九,六九九円
同三十一年	一八,一六九·八八六	四,九三四,七六六	七〇,二五九,五七八	二,九二二,三三〇	一七六,一三七斤	一三三,三五五

○輸出入物品總價額 (\*ハ輸出超過)

◎各國貨幣及度量衡比較表

年次	物品		貨幣及金銀地金價額	
	輸出入	輸入超過	輸出入	輸入超過
明治三十三年	10,571,285	1,357,064	2,833,405	1,492,322
同三十二年	11,124,918	1,427,092	2,487,781	3,568,867
同三十一年	12,827,190	1,687,910	4,111,411	6,143,729
同三十年	12,759,294	1,265,928	2,377,559	5,941,094
同二十九年	11,403,236	863,101	2,077,577	5,414,507

貨幣	尺	度	重	量	斗	量
英	フアツシグ	十町百十間丈尺分厘	ゲレイン	百十百十分厘毛	ギル	石斗升合勺才札
吉	ベンニー	一〇	グラム	一七	バイント	七五八
利	シルリング	四一	オンス	四七二	クオル	三〇三二
合衆	ポンド	九七三三	ポンド	七五六〇	ガルロン	六〇六五
露西	コペック	一五	クオルトル	一一一〇三〇	ベツキ	二四二六〇
佛蘭	フラン	四〇	セント	三三八八七〇〇	ウイッチェス	四八五二〇
普魯	グロセン	五〇	クオルトル	一一三九五八〇五	ナセル	一九四〇八三
支那	カンダリ(分)	四十五	セント	二七一九六一〇〇	クオスター	一五五二六六五

年次	貨幣	尺	度	重	量	斗	量	
露西	コペック	四十餘厘	ヴェルシヨグ	町十間丈尺分厘	フット	一〇九七〇五	カンカン	石斗升合勺才札
佛蘭	フラン	四十餘厘	ミリメートル	丈尺寸分厘毛	ポンド	二六六六	センチリットル	五
普魯	グロセン	四十餘厘	リニージ	里十町十間丈尺寸分厘	ポンド	二二九三九六	メツ	石斗升合勺才札
地塊	クレツツェル	四十餘厘	フット	一〇四五	ロツク	四六九六	モ一セル	石斗升合勺才札
支那	カンダリ(分)	四十五	ブント(寸)	尺寸分厘	カツチー(斤)	一六三四三餘	リヤン(兩)	十百十百分厘毛

○內國郵稅之部

普通郵便	第一種	書狀ニアラザルモ郵便法ニ依リ第一種郵便物トシテ取扱ハルベキモノ	(重量四匁又ハ其端數每ニ)	金三錢
	第二種	郵便葉書 一 通常葉書 二 往復葉書 三 封緘葉書		金一錢五厘
	第三種	毎月一回以上刊行スル遞信省ノ認可ナル定期刊行物	一 一號一箇重量二十匁又ハ其端數每ニ 二 二號又ハ二箇以上一束重量二十匁又ハ其端數每ニ	金五厘
	第四種	書籍、印刷物、業務用書類、寫眞、書、畫、圖、商品見本、及雛形、博物上ノ標本、農産物種子	(重量三十匁又ハ其端數每ニ) (重量二十匁又ハ其端數每ニ)	金二錢
	第五種	農産物種子		金一錢
郵便禁制品	一	公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ亂スヘキ文書圖畫其他ノ物件		
	二	爆發性、發火性、又ハ危險性ノ物件其他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ又ハ郵便物ニ損害ヲ與フベキ物件		
	三	通貨、金銀、寶石、珠玉其他高價ノ物件ハ價格表記ト爲スニアラザレバ郵便物トシテ差出スナ得ズ		
郵便物ノ容積制限	小包郵便	容積 長一尺三寸 幅八寸五分 厚三寸		
	郵便物	重量 第三種乃至第五種郵便物ニ在リテハ商品見本及雛形ニ在リテハ二尺 幅及厚各五寸以内ノモノハ長サナ三尺迄伸バ一貫五百匁		

内地小包郵便料	十里マテ	二百匁迄	四匁
	百里マテ	四百匁迄	六匁
内地臺灣間小包郵便料	百里マテ	二百匁迄	三匁
	百里以外	四百匁迄	六匁
日本内地、清、韓三國相互間小包郵便料	二百匁迄	四匁	
	四百匁迄	六匁	
臺灣及清韓國間小包郵便料	二百匁迄	三匁	
	四百匁迄	六匁	
清韓小包郵便料	二百匁迄	三匁	
	四百匁迄	六匁	



清韓各國內地小包郵便料ハ日本内地小包郵便料ニ同シ

別配達料	一箇ニ付	市外	金 十 錢
留置通知料	一箇ニ付	市内	金 三 十 錢
配達證明料	一箇ニ付	他ノ郵便區内ニ配達スルトキハ差出人指定ノ配達局ト名宛地所轄ノ郵便局トノ里程ニ應ジ一里迄毎ニ金十五錢ヲ加徴シ船料ハ市内市外ニ拘ラズ其實費ヲ受取人ヨリ徴收ス受取人納付セサルトキハ差出人ヨリ追徴ス〇別配達郵便物ハ其表面見易キ場所ニ別配達又ハ何局別配達ト記入スヘシ	金 三 錢
書留料	一箇ニ付	留置郵便物ハ其表面見易キ所ニ留置又ハ何局留置又ハ留置通知ノ文字ヲ記入スベシ	金 三 錢
價格表記料	一箇ニ付	配達證明郵便物ハ其表面見易キ所ニ配達證明ノ文字ヲ記入スベシ	金 七 錢
代金引換料	一口ニ付	書留郵便物ハ其表面見易キ所ニ書留ノ文字ヲ記入スベシ	金 五 錢
現金取立料	一口ニ付	外ニ取立金送達料トシテ其引換額十圓迄ハ金五錢、十圓以上百圓迄ハ其超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金四錢、百圓以上三百圓迄ハ其超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金三錢	金 五 錢
外ニ取立送達料	一口ニ付	代金引換委託郵便物ハ其表面見易キ處ニ代金引換金何程ト記入スヘシ	金 五 錢

### ○内國郵便爲替之部

爲替證書金額制限	通常爲替	電信爲替	爲替金額	爲替料	爲替
通常爲替及小爲替ノ金額ハ厘位未滿電信爲替ノ金額ハ圓位未滿ノ端數ヲ付スルヲ得ス〇又郵便爲替ノ差出人及受取人ハ各一名ニ限ル	通常爲替	電信爲替	爲替金額	爲替料	爲替
爲替金額	通常爲替料	電信爲替料	爲替金額	爲替料	爲替
金額十圓以内	金 六 錢	電信爲替料	金額十圓以内	同 十 錢	同 十 錢
金額二十圓以内	同 十 錢	電信爲替料	金額二十圓以内	同 十 五 錢	同 十 五 錢
金額三十圓以内	同 十 五 錢	電信爲替料	金額三十圓以内	同 十 八 錢	同 十 八 錢
金額四十圓以内	同 十 八 錢	電信爲替料	金額四十圓以内	同 十 二 錢	同 十 二 錢
金額五十圓以内	同 十 二 錢	電信爲替料	金額五十圓以内	同 十 二 錢	同 十 二 錢
小爲替料ハ金五圓迄證書一枚ニ付金三錢トス	證書一枚ニ付	電信爲替料	小爲替料ハ金五圓迄證書一枚ニ付金三錢トス	證書一枚ニ付	證書一枚ニ付
通常爲替ノ證書送達料	證書一枚ニ付	電信爲替料	通常爲替ノ證書送達料	證書一枚ニ付	證書一枚ニ付
通常爲替證書誤記訂正料	證書一枚ニ付	電信爲替料	通常爲替證書誤記訂正料	證書一枚ニ付	證書一枚ニ付
郵便物差立前	無	電信爲替料	郵便物差立前	無	電信爲替料
郵便物差立後	無	電信爲替料	郵便物差立後	無	電信爲替料
通常爲替ノ拂渡停止及其解除通知料	證書一枚ニ付	電信爲替料	通常爲替ノ拂渡停止及其解除通知料	證書一枚ニ付	證書一枚ニ付
郵便物差立前	無	電信爲替料	郵便物差立前	無	電信爲替料
郵便物差立後	無	電信爲替料	郵便物差立後	無	電信爲替料
郵便物差立後	無	電信爲替料	郵便物差立後	無	電信爲替料

爲替ノ  
特殊取  
扱手數  
料

郵便爲替ノ拂戻手數料	一口二付	通常爲替	金六
郵便爲替ノ拂渡又ハ拂戻郵便局所ノ變更手數料	一口二付	小爲替	金三
電信爲替特別取扱料	至急電報ノ取扱ニ依ル時ハ 通常電信爲替料ノ外ニ	金四十	錢
電信爲替ニ於テ拂渡局所電信ヲ取扱ハサル時ハ爲替ノ通報ハ郵便接續ノ方法ニ依ル差 出人ハ此場合ニ於テハ別配達ノ取扱ヲ求ムルヲ得其料金ハ郵便別配達料ニ同シ	爲替ノ再度證書ノ發行請求料	一口二付	金六
	爲替	小爲替	金三
郵便爲替金拂渡濟通知料	一口二付	郵便ニ依ルモノ 電信ニ依ルモノ	金三
郵便爲替金ノ居宅拂手數料	一口二付	郵便又ハ電信爲替ハ 小爲替ハ	金四
			錢

郵便爲替證書ノ有効期間

通常爲替	九日
電信爲替	十日
小爲替	六日

千島國、琉球國、小笠原島、伊豆諸島及臺灣ニ設置ノ郵便局所ト取組ミタル郵便爲替證書ノ有  
效期間ハ百二十日ナリ但同一國內又ハ同一島内ニ取組ミタルモノハ此限リニ在ラス又千島國ニ  
設置ノ郵便局所ト取組ミタル郵便爲替ハ毎年十二月一日ヨリ翌年四月三十日迄ハ其有効期間ノ  
中ニ算入セラレザルモノトス

爲替金ノ拂渡ヲ停延スル場合  
通常爲替證書ノ違式ノトキ、通常爲替振出請求書違式ノトキ、通常爲  
替振出請求書未達ノトキ、通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金  
額符合セザルトキ、拂渡資金缺乏ノトキ

### ○外國郵便之部

國名及地名	郵		稅		料		手數料	
	郵便	端	印刷物	商品	訴訟用及商 業用書類	書留	到達證	
本邦郵便局所在地(釜山、元山、 仁川、京城、木浦、龍山、以上韓 國)上海、天津、芝罘、廈門、蘇州 杭州、沙市(以上清國)	信書十五 「グラム」 每二	郵便 書一枚	十「グラ ム」每二	百「グラ ム」迄	其以上五十 「グラム」 每二	其以上五十 「グラム」 每二	書留	到達證
內國郵便稅及手數料ト同一トス	一〇	四	八	二	四	二	一〇	二
備考 重量一「グラム」ハ二分六厘強、十五「グラム」ハ四厘強、五十「グラム」ハ十三厘三分強								

### ○外國郵便爲替之部

萬國聯合爲替 佛貨一千法以內  
但勃爾瓦利、羅馬尼、ニューヨークニア獨逸領及サモア島ニ對シテハ佛貨五百法以內トス  
伊國及其媒介爲替 佛貨一千法以內  
英國及其媒介爲替 英貨十磅以內  
佛國爲替 佛貨二百五十法以內  
米國爲替 米貨百弗以內  
加那太爲替 加那太貨幣(米貨)五十弗以內  
香港及其媒介爲替 洋銀百弗以內



市區町村內發 着通常電報料	和 文 片假名十五字以內 五字以內ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ増ス	金 十 錢
國內發着 通常電報料	和 文 片假名十五字以內 五字以內ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス 一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス	金 十五 錢
至急官報電報料 至急私報電報料	通常電報料ノ二倍 通常電報料ノ三倍	金 二十 錢
別使配達電報料	着信局所ヨリ三里ヲ超ユル時ハ 二里以內毎ニ金二十五錢ヲ増ス	金 二十 錢
但島嶼ニ宛テタルモノ、別使配達料ハ里程ニ拘ハラズ金二十錢トシ其配達實費之レニ超過シタル時ハ實費額ニ依ル	一通ニ付	金 二十 錢
電報船配達料	一通ニ付	金 七 錢
書留郵便ニテ配達スル電報	一通ニ付	金 三 錢
電線託送料	通常電報料ノ四分ノ一ヲ増ス	金 三 錢
照校電報料	但シ郵便ニ依ル時ハ 一通毎ニ金三錢トス	金 三 錢
電報受信報知料	一通毎ニ 和文ハ十五字 歐文ハ五語 ニ相當スル通常料金	金 二十 錢
追尾電報料	追尾一回毎ニ新ニ電報ヲ發シタルモノトシテ料金ヲ計算ス 再送一回毎ニ新ニ電報ヲ發シタルモノトシテ料金ヲ計算ス	金 十 錢
再送電報料	再送一回毎ニ新ニ電報ヲ發シタルモノトシテ料金ヲ計算ス	金 十 錢
同文電報料	原信ヲ除キ其他一通毎ニ 但シ通數ハ十通 ヲ超ユルヲ得ス	金 十 錢
外國郵送電報	一通ニ付郵送料	金 二十 錢

### ○印紙税法

電報正寫又閱覽料  
正寫料 和文二百字以內毎ニ 金 五 錢  
歐文五十語以內毎ニ 金 三 錢  
閱覽料 電報一通毎ニ 金 三 錢

追尾電報ヲ爲スヲ得サルモノ  
別使料電報報知ヲ要スル電報、別使料郵便報知ヲ要スル電報、返信料前納電報、受信電報、同文電報、外國郵送電報

○財産權ノ創設、移轉、變更、若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財産權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムベシ

○證書ニ關シテハ一通毎ニ其記載金高五圓以上ノモノニ限り記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムベシ但シ印紙稅額五十圓ナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上グルモノトス

○金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其他ノ記載事項ニ依リ其金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

○爲替手形、約束手形ハ一通毎ニ其記載金高五圓以上ノモノニ限り左ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムベシ

一金高二千圓未滿 印紙稅二錢  
一金高二千圓以上 印紙稅十錢

○左ニ掲グル證書、帳簿ニ關シテハ證書一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以內ノ附込ニ對シ下ニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムベシ

- 一委任狀 印紙稅一錢
- 一船荷證券 印紙稅二錢
- 一銀行預金證書 印紙稅二錢
- 一運送貨物引換證 印紙稅二錢

一 倉荷預證券 印紙稅二錢 一 倉荷質入證券 印紙稅二錢  
 一 保險證券 印紙稅二錢 一 株券 印紙稅二錢  
 一 債券 印紙稅二錢 一 株券申込證 印紙稅二錢  
 一 地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書 印紙稅二錢  
 一 使用貸借、貸貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書 印紙稅二錢  
 一 一定款及組合契約書 印紙稅二錢 一 權利ノ變更ニ關スル證書 印紙稅二錢  
 一 追認承認ニ關スル證書 印紙稅二錢 一 物品切手 印紙稅二錢  
 一 賣買仕切書 印紙稅二錢 一 送狀 印紙稅二錢  
 一 受取書 印紙稅二錢 一 金高記載ナキ證書 印紙稅二錢  
 一 擔保品差入證書、擔保品預證書 印紙稅二錢  
 一通帳 印紙稅二錢 一 判取帳 印紙稅十二錢

○左ニ掲クル證書簿帳ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス  
 一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿 一 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿  
 一 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書 一 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書 一 俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書 一 小切手 一 金高五圓未満ノ爲替手形、約束手形 一 營業ニ關スル受取書 一 金高五圓未満若ハ金高記載ナキ送狀、受取書、又ハ賣買仕切書 一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約 一 證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書 一 株券債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載 一 手形ノ引受保證 一 手形及證券ノ拒絕證書 一 手形及證券ノ複本、謄本

○印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ爲替手形、約束手形、船荷證券、運送貨物引換證、倉荷預證券、倉荷入證券、保險證券、株券、債券ハ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シ

テ印紙稅ノ押捺ヲ受ケ印紙稅貼用ニ代フルコトヲ得  
 ○一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス  
 ○證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ  
 ○印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印草又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スベシ  
 ○印紙ヲ貼用スベキ帳簿、賣買仕切書送狀ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルベシ  
 ○證書帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサルモノハ脫稅金二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス  
 ○第十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 ○第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス  
 ○此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ズ

### ○登録稅法摘要

不	一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得	不動產價格	千分ノ七
	二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得	不動產價格	千分ノ十五
	三 遺言、贈與其他無償名義ニ因ル所有權ノ取得	不動產價格	千分ノ四十
	四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得	不動產價格	千分ノ二
	五 從來保有セル所有權ノ保存	分割ニ因リテ受ケル不動產ノ價格	千分ノ五
	六 共有物ノ分割	不動產價格	千分ノ廿五
	七 永代ノ地上權取得	不動產價格	千分ノ廿五

動 産 關 ス ル 登 記

八	地上權永小作權ノ取得 存續期間十年未滿 存續期間二十年未滿 存續期間三十年未滿 存續期間三十年以上 存續期間ノ定メナキモノ 但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間 ヲ存續期間ヨリ控除シ其殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ 登錄稅ヲ計算ス	不動産價格 不動産價格 不動産價格 不動産價格 不動産價格	千分ノ二 千分ノ三 千分ノ四 千分ノ五 千分ノ五
九	賃借權取得 存續期間十年未滿 存續期間十年以上 存續期間ノ定メナキモノ 但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間 ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做 シ登錄稅ヲ計算ス	不動産價格 不動産價格 不動産價格	千分ノ一 千分ノ二 千分ノ一
十	地役權ノ取得	要役地價格	千分ノ一
十一	華族世襲財產ノ創設	不動産價格	千分ノ十二
十二	先取特權ノ保存又ハ取得 但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノ ノ價格ガ債權金額ヨリ寡キトキハ先取特權ノ目的タ ルモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	債權金額又ハ不動産 工事費用豫算金額	千分ノ六

記 事 受 入 ル 特 記

十三	質權、抵當權ノ取得 但シ債權金額ナキトキ又ハ質權、抵當權ノ目的タル モノ、價格ガ債權金額ヨリ寡キトキハ質權、抵當權 ノ目的タルモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	債權金額	千分ノ六
十四	競賣、強制管理ノ申立 但シ競賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノ、價格ガ債權 金額ヨリ寡キトキハ其ノモノ、價格ヲ以テ債權金額 ト看做ス	債權金額	千分ノ六
十五	假差押、假處分 但シ假差押假處分ニ付スヘキモノ、價格ガ債權金額 ヨリ寡キトキハ其ノモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看 做ス	債權金額	千分ノ四
十六	抵當アル債權ノ差押 但シ差押ニ付スヘキモノ、價格ガ債權金額ヨリ寡キ トキハ其モノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	債權金額	千分ノ六
十七	相續財產ノ分離 所有權ニ付テハ	不動産價格	千分ノ六
十八	請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復	不動産價格	千分ノ一
十九	假登記	不動産每一箇	金二十錢
二十	豫告登記	不動産每一箇	金二十錢
二十一	附記登記	不動産每一箇	金二十錢

船 舶 關 關		キ
二十二	但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス 登記ノ更正、變更又ハ抹消	不動産每一箇 金十錢
一	法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得	船舶價格 千分ノ三
二	第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得	船舶價格 千分ノ六
三	遺言、贈與其他無償名義ニ因ル所有權ノ取得	船舶價格 千分ノ二十
四	第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得	船舶價格 千分ノ十五
五	從來保有セル所有權ノ保存	船舶價格 千分ノ一
六	賃借權ノ取得	船舶價格 千分ノ一
	存續期間十年未滿	船舶價格 千分ノ二
	存續期間十年以上	船舶價格 千分ノ一
	存續期間ノ定メナキモノ	
	但シ債權移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間	
	ヲ存續期間ヨリ控除シ其殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ	
	登錄稅ヲ計算ス	
七	質權抵當權ノ取得	債權金額 千分ノ十
	但シ債權金額ナキトキ又ハ質權、抵當權ノ目的タルモノ、價格ガ債權金額ヨリ寡キトキハ質權、抵當權ノ目的タルモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	

記 受 ヲ 受 受		キ
八	競賣ノ申立	債權金額 千分ノ六
	但シ競賣ニ付スヘキモノ、價格ガ債權金額ヨリ寡キトキハ其モノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	
九	假差押假處分	債權金額 千分ノ四
	但シ假差押假處分ニ付スヘキモノ、價格ガ債權金額ヨリ寡キトキハ其モノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	
十	抵當アル債權ノ差押	債權金額 千分ノ六
	但シ差押ニ付スヘキモノ、價格ガ債權金額ヨリ寡キトキハ其モノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	
十一	請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復	船舶每一箇 金二十錢
十二	假登記	船舶每一箇 金二十錢
十三	豫告登記	船舶每一箇 金二十錢
十四	附記登記	船舶每一箇 金十錢
	但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス	
十五	登記ノ更正、變更又ハ抹消	船舶每一箇 金十錢
	但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス	
一	新規登錄	地 價 千分ノ二十
二	地價ノ設定	地 價 千分ノ十
三	地價ノ修正	地 價 千分ノ十

商標ニ關シテ登録ヲ受クル者	特許ニ關シテ登録ヲ受クル者	著作權ノ登録ヲ請フモノ	臺帳ニ登記スルキ
一 讓渡又ハ共有	一 讓渡又ハ共有 二 質入	一 文藝、學術、美術ノ著作物 但シ演劇脚本及寫眞ヲ除ク 新聞紙及定期刊行物 演劇脚本 寫眞 著作權ノ讓渡又ハ質入 無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登録	四 開墾 五 開墾下年期付與 六 地價据置年期付與 七 新開免租年期延長 八 缺下年期地價据置年期ノ延長 九 抵價年期ノ付與 十 地租條例第二十三條ノ地價ノ修正 十一 本條中地價未設定ノ土地ハ近傍敷地地價ノ比準ニ依ル
物品一類毎ニ 金二圓	物品一類毎ニ 金一圓	每一種一回 金十圓 每一號 金五十錢 每一種一回 金五十圓 每一版 金五圓 每一件 金五圓	地價 千分ノ十 地價 千分ノ十 地價 千分ノ十 地價 千分ノ十 地價 千分ノ十 地價 千分ノ十 地價 千分ノ一

### 營業稅法摘要

受クルモノ	商標ニ關シテ登録ヲ受クル者	業名	課稅標準	稅率
二 質入	讓渡又ハ共有	物品販賣業	賣上物ノ貨價額 從業者ノ資格額	卸賣ハ萬分ノ五、小賣ハ萬分ノ十五 千分ノ四十 一人毎ニ金一圓
		銀行保險業	資本貨價額 從業者ノ資格額	千分ノ二 千分ノ四十 一人毎ニ金一圓
		倉庫業	資本貨價額 從業者ノ資格額	千分ノ二 千分ノ四十 一人毎ニ金一圓
		製印業	資本貨價額 從業者ノ資格額	千分ノ一 千分ノ四十 一人毎ニ金三十錢



運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川
運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川	運送河川

◎課税免除ノ營業

- 一 政府ヨリ發行スル印紙切手類ノ賣捌
- 二 自己ノ探掘又ハ採取シタル礦物ノ販賣
- 三 度量衡ノ製作修葺賣買
- 四 物品販賣業 一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノモノ
- 五 金銭物品貸附業 資本額五百圓未滿ノモノ
- 六 製造業 資本金額五百圓未滿ノモノ又ハ職工勞役者ヲ通ジテ二人以上使用セザルモノ
- 七 運送業 雇人二人以上ヲ使用セザルモノ
- 八 印刷業及寫眞業 職工雇人ヲ通ジテ二人以上ヲ使用セザルモノ
- 九 土木勞力請負業 請負金額一箇年千圓未滿ノモノ
- 十 貸席業 建物賃貸價格五十圓未滿ノモノ
- 十一 旅人宿業 木賃宿及使用雇人三人以上ニ至ラザルモノ

◎課税標準ノ届出

納稅義務アル營業者ハ毎年一月三十日迄ニ業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ届出ツルヲ要ス○新規開業シタル者ハ其際届出ヲ爲スヲ要ス

◎納稅期限及徵稅

一 營業稅ハ年額ヲ二分シ其年五月、十一月ヲ以テ納期トス但廢業スルトキハ未納分ハ即納トス  
二 新ニ開業スルモノハ其翌年ヨリ營業稅ヲ徵收ス○銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、運送業、運河業、棧橋業、渠船業、船舶碇繫業、鐵道業ヲ新ニ開業スルモノハ開業翌年ヨリ尙三年間徵稅ヲ免ス○同一ノ場所ニ

六箇月内ニ前業ト同一ノ營業ヲ開クモノハ其月ヨリ徵稅ヲ爲ス○營業繼續ノモノニ在テハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ徵稅ヲ爲ス○廢業ノ場合ニ在リテハ其月迄ノ分ヲ徵稅ス

◎課稅標準ノ算定異議及不服

一 納稅義務アル營業者課稅標準届ヲ爲サズ又届出ツルモ不當ナル時ハ政府ハ之ヲ算定スルヲ得○此算定ニ異議アル營業者ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ申立ヲ爲シテ審査ヲ求ムルヲ得其決定ニ對シテ不服ナル時ハ營業者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ起スヲ得但此場合ニ於テモ營業者ハ納稅期日ニハ納稅スルヲ要ス

◎稅額減少ノ申立

營業者ハ課稅ノ標準タル資本金額、賣上金額、收

入金額、請負金額、報償金額、建物賃賃價額又ハ從業者ノ人員ガ届出ヨリ二分ノ一以上ニ減シタル時ハ其由ヲ政府ニ申立ツルヲ得○此申立アリタル時ハ政府ハ翌年一月迄徵稅ノ猶豫ヲ與フルヲ得○而シテ翌年一月ニ至リ其申立テタル事實ノ存在ヲ認メタル時ハ減稅ヲ許スヲ得○此場合ニ於テハ課稅標準ノ課稅最低減以下ニ減シタル場合ニ於テモ尙ホ其割合ヲ以テ徵稅ヲ爲サルモノトス

◎刑罰

納稅義務者、課稅標準ノ届出ヲ爲サズ若クハ虛偽ノ記載ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ帳簿ノ記載ヲ忘リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處セラル其違稅シタルモノハ違稅金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處セラル○營業稅法ノ違犯者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ズ

◎所得稅法摘要

○納稅義務者

所得稅法第一條ニ依ル 帝國內所得稅施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一箇年以上居所ヲ有スル納稅義務者

同 第二條ニ依ル 第一種納稅義務者ノ外、所得稅法施行地ニ資産營業又ハ職業ヲ有シ若ハ公債社債ノ利子支拂ヲ受クル時ハ其所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

○稅率

第一種 法人ノ所得	千分ノ二十五
第二種 所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子	千分ノ二十
第三種 右二種ニ屬セザル所得ニ付テハ左ノ率ニ從フ	
十萬圓以上	千分ノ三十五
五萬圓以上	千分ノ二十
三萬圓以上	千分ノ十七
二萬圓以上	千分ノ十五
一萬五千圓以上	千分ノ十二
一萬圓以上	千分ノ十

○課稅免除ノ所得

- 一 軍人從軍中ニ係ル俸給
- 二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給

三 旅費學資金及法定扶助料

- 四 營利ヲ目的トセサル法人ノ所得
- 五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
- 六 外國又ハ所得税法ノ施行ナキ地ニ於テ有スル資産營業又ハ職業ニ依ル所得但シ所得税法施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク
- 七 所得税ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金及判賦賞與金

○所得ノ届出

納稅義務アル法人ハ各事業年度毎ニ損益計算書ヲ政府ニ提出スル義務アリ但シ所得税法第二條ニ該當スル法人ハ各事業年度毎ニ同法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シ政府ニ提出スル義務アリ

第三種ノ所得ニ付納稅義務アルモノハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シテ政府ニ申告スベキモノトス

○所得金額ノ決定、異議及不服

- 一 第一種ノ所得金額ハ損益計算書ヲ調査シテ政府之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得稅調查委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス○第三種ノ所得アル者委員會閉會ノ後、新ニ納稅義務アルヲ申出テタル時ハ政府之ヲ決定ス
  - 二 納稅義務者所得金額ノ決定ニ對シテ異議アル時ハ決定通知後二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シテ政府ニ申立テ審査ヲ求ムルヲ得但シ納稅義務者ハ此場合ニ於テモ通知セラレタル金額ニ依リ納稅セザルベカラズ○不服ノ申立アリタル時ハ政府ハ審査委員會ヲ開キ之ヲ決定ス
  - 三 右審査委員ノ決定ニ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スヲ得
- 所得金額ノ更訂  
山林ノ所得ヲ除クノ外、第三種ノ所得ニ付納稅義務者所得金額四分ノ一以上ヲ減損シタル時ハ政

府ニ申出テ所得金額ノ更訂ヲ求ムルヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過クル時又所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲メ所得金額ヲ減損シタルモノハ之ヲ請求スルヲ得ズ

○徵稅期

- 第一種ノ所得 二付テハ各事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス
- 第二種ノ所得 二付テハ其金額支拂ノ際支拂者其所得稅ヲ徵收シ其都度之ヲ政府ニ納ムベキモノトス
- 第三種ノ所得 二付テハ所得稅ノ年額ヲ二分シ其年九月及翌年三月之ヲ徵收ス但シ納稅管理人ヲ定メスシテ帝國外ニ住所又ハ居所ヲ移ス時ハ其際直ニ徵稅スルヲ得

納稅義務者ヨリ所得金額更訂ノ請求アリタル時ハ政府ハ其確定迄徵稅ヲ猶豫スルヲ得

○納稅地

第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トナシ住所ナキ時ハ居所ノ地ニ依ル但シ納稅人ハ申告シテ他ノ地ニ於テ納稅ヲ爲スヲ得○所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ナキモノハ納稅地ヲ定メテ政府ニ申告スルヲ要ス申告ナキ時ハ政府之ヲ指定ス

○納稅管理人

納稅義務者納稅地ニ現住セサル時ハ其所得稅ニ關スル事ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スルヲ要ス

○逋稅ニ對スル制裁

所得金額ヲ隱蔽シテ逋稅シタル者ハ其逋稅金額三倍ノ罰金ニ處セラレ但シ自首スル者ハ其稅金ヲ追徵スルニ止リ罪ヲ免カル

### ○年齡早見表

(説明)

上部ハ年號及年數ニシテ右ノ數字ハ明治三十六年ヨリ廻リテ數ヘタル者也例ハ明治初年生ナレハ三十六ニシテ辰歳ナリ生レ歳ト當年ノ歳ヲ除キ次ノ滿年算月表ト對照増加シテ何年何ヶ月ト數フヘシ

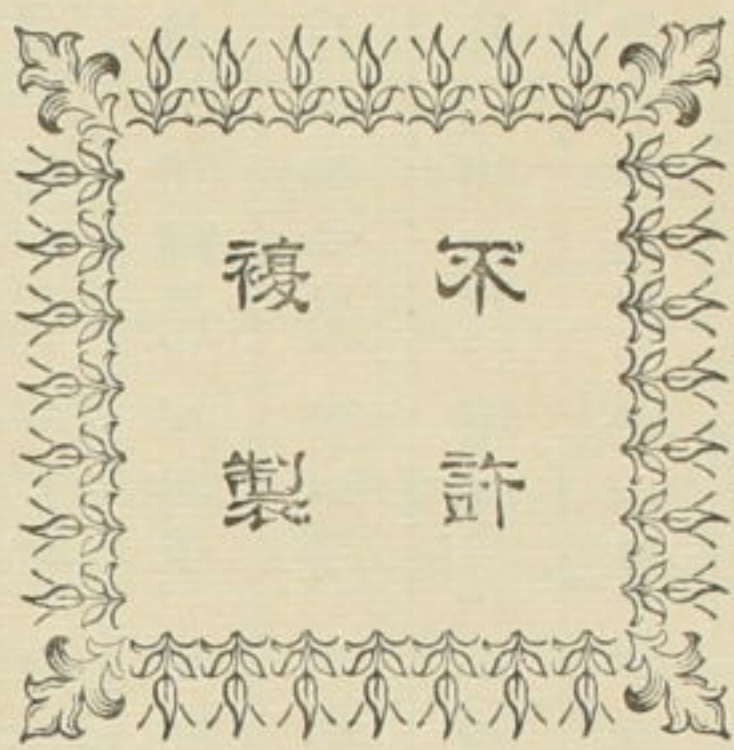
甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸
永安 百三十四 午十	百二十九 未五	百二十八 申六	百二十七 酉七	百二十六 戌八	百二十五 亥九	百二十四 子十	百二十三 丑十一	百二十二 寅十二	百二十一 卯十三
四 百二十五 辰五	百十八 午六	百十七 未七	百十六 申八	百十五 酉九	百十四 戌十	百十三 亥十一	百十二 子十二	百十一 丑十三	百十 寅十四
六 百十七 卯七	百九 辰八	百八 巳九	百七 午十	百六 未十一	百五 申十二	百四 酉十三	百三 戌十四	百二 亥十五	百一 子十六
文化 百二 子百	九十九 丑百	九十八 寅百	九十七 卯百	九十六 辰百	九十五 巳百	九十四 午百	九十三 未百	九十二 申百	九十一 酉百
十一 九十二 戌十	八十九 亥十	八十八 子十	八十七 丑十	八十六 寅十	八十五 卯十	八十四 辰十	八十三 巳十	八十二 午十	八十一 未十
七 八十八 申八	七十九 酉九	七十八 戌十	七十七 亥十	七十六 子十	七十五 丑十	七十四 寅十	七十三 卯十	七十二 辰十	七十一 巳十
五 七十六 午六	六十九 未七	六十八 申八	六十七 酉九	六十六 戌十	六十五 亥十	六十四 子十	六十三 丑十	六十二 寅十	六十一 卯十
弘化 六十二 辰六	五十九 巳七	五十八 午八	五十七 未九	五十六 申十	五十五 酉十	五十四 戌十	五十三 亥十	五十二 子十	五十一 丑十
安政 五十二 寅六	四十九 卯七	四十八 辰八	四十七 巳九	四十六 午十	四十五 未十	四十四 申十	四十三 酉十	四十二 戌十	四十一 亥十
元治 四十 子慶應	三十九 丑二	三十八 寅三	三十七 卯三	三十六 辰三	三十五 巳三	三十四 午四	三十三 未五	三十二 申六	三十一 酉六
七 三十八 戌十	二十九 亥九	二十八 子十	二十七 丑十	二十六 寅十	二十五 卯十	二十四 辰十	二十三 巳十	二十二 午十	二十一 未十
十七 二十 申十八	十九 酉十九	十八 戌二十	十七 亥二十	十六 子二十	十五 丑二十	十四 寅二十	十三 卯二十	十二 辰二十	十一 巳二十
二十七 午二十	二十八 未九	二十九 申八	三十 酉三十	三十一 戌六	三十二 亥五	三十三 子四	三十四 丑三	三十五 寅三	三十六 卯一

### ○算月表

算月	一月生	二月生	三月生	四月生	五月生	六月生	七月生	八月生	九月生	十月生	十一月生	十二月生
一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月
二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月
三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月
五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月
六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月
七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月
八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月
十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月
十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月

明治三十五年十月廿五日印刷  
明治三十五年十月廿八日發行

當用日記小形  
定價三十拾錢



不許  
複製

編輯者

博文館編輯局

發行者

大橋新太郎

印刷者

青木弘

印刷所

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地  
株式會社 秀英舍第一工場

發兌元

東京日本橋區本町三丁目

博文館

# 太陽

每月一回五日發行  
四六判二倍大紙數二百  
四十頁寫真銅版十八面  
肖像風景插入

一冊

正價三十錢  
郵稅三錢

三冊前金(三月分)八拾七錢 ● 六冊前金(半年分)壹圓六拾五錢 ● 十二冊前金(一年分)三圓貳拾錢 ● 郵稅一冊三錢宛  
臨時增刊年數回價格不同

本邦唯一  
週刊雜誌

# 太平洋

週刊每月曜日發行  
四六判四倍大紙數  
每號二十四頁寫真銅版  
風景風俗肖像每號八頁  
插入

一冊

正價五錢  
郵稅六厘

十三冊(三ヶ月分)前金七拾五錢 ● 廿六冊(半年分)前金壹圓四拾錢 ● 五十二冊(一年分)前金貳圓七拾錢 ● 郵稅壹冊金五厘

發兌元 博文館

# 文藝俱樂部

每月一回一日發行  
定期增刊年四回  
紙數三百廿頁寫真銅版  
十面木版精彩畫及三色  
美術新版插入

一册 正價 二拾五錢  
郵稅 二錢五厘

四册前金(三月分)九十五錢 ● 八册前金(半年分)壹圓八十錢 ● 十六册前金(一年分)三圓五十錢 ● 郵稅一册金貳錢五厘

# 少年世界

每月一回一日發行  
定期增刊年四回  
紙數百三十六頁寫真銅  
版十面人物風景插入

一册 正價 一拾錢  
郵稅 五厘

四册前金(三月分)三拾八錢 ● 八册前金(半年分)七拾五錢 ● 十六册前金(一年分)壹圓四十錢 ● 郵稅壹册金壹錢五厘

# 中學世界

每月一回十日發行  
定期增刊年四回  
紙數二百四十頁寫真銅  
版十面人物風景習畫手  
本插入

一册 正價 貳拾錢  
郵稅 貳錢

四册前金(三月分)七十五錢 ● 八册前金(半年分)壹圓四拾五錢 ● 十六册前金(一年分)貳圓八拾錢 ● 郵稅壹册金貳錢

# 女學世界

每月一回五日發行  
定期增刊年四回  
紙數二百八頁寫真銅版  
十面人物風景書畫手本  
八頁

一册 正價 貳拾錢  
郵稅 貳錢

四册前金(三月分)七拾五錢 ● 八册前金(半年分)壹圓四十五錢 ● 十六册前金(一年分)二圓八十錢 ● 郵稅壹册貳錢

發 兌 元 博 文 館

# 帝國百科全書

全部壹百冊洋裝菊判壹冊紙數三百頁餘

帝國百科全書は當代知名の博士、學士諸氏が百科の學に付き精細明確に論述せられたるものにして初編發刊以來非常に江湖の歡迎を受け今や進んで第八十六編を刊行し日ならずして全部出版完成を告げんとす其内容の眞價に至りては世既に定論の存するあり今はた喋々を要せず請ふ篤學勉業の士續々愛購を給へ

定價	特製	並製
一冊 五拾錢	一冊 六冊 二圓八拾錢	一冊 六冊 貳圓
十二冊 五圓四拾錢	廿五冊 拾圓八拾錢	廿五冊 七圓五拾錢
郵稅拾錢	郵稅拾錢	郵稅八錢

發兌元 博文館

# 俳諧文庫

第一編 ● 芭蕉全集	第七編 ● 嵐雪全集
第二編 ● 芭蕉以前俳諧集 上卷	第八編 ● 支考全集
第三編 ● 芭蕉以前俳諧集 下卷	第九編 ● 蕉門十哲集
第四編 ● 其角全集	第十編 ● 元錄名家句集
第五編 ● 許六全集	第十一編 ● 一茶大江丸全集
第六編 ● 也有全集	第十二編 ● 蕉村曉臺全集

全部廿四冊  
大判洋製並綴紙數  
壹冊二百二十頁以上

正價

一冊三拾錢 ○ 六冊壹圓六拾五錢  
○ 拾二冊三圓拾錢 ○ 全部廿四冊  
六圓 ○ 郵稅一冊八錢

第十三編 ● 俳諧論集	第十九編 ● 俳諧文集
第十四編 ● 素堂鬼貫全集	第二十編 ● 俳諧逸話全集
第十五編 ● 續俳諧論集	第二十一編 ● 附合作法全集
第十六編 ● 俳諧句合全集	第二十二編 ● 俳諧類題句集 上卷
第十七編 ● 蓼太全集	第二十三編 ● 俳諧類題句集 下卷
第十八編 ● 俳諧珍本集	第二十四編 ● 俳諧紀行全集

發兌元 博文館

最も信用ある  
最も正確なる  
當用日記懷中日記發兌廣告

明治三  
十六年  
當用日記

菊判形四六判形は紙數  
各五百四十頁菊半截形  
紙數五百五十餘頁

- 菊判大形特製舶來洋紙背皮  
美製金文字入 正價六拾五錢 郵稅拾四錢
- 菊判大形上製舶來洋紙總  
クロス金文字入 正價五拾錢 郵稅拾四錢
- 四六判形特製舶來洋紙背皮  
美製金文字入 正價五拾錢 郵稅拾貳錢
- 四六判形上製舶來洋紙總  
クロス金文字入 正價三拾五錢 郵稅拾錢
- 菊半截形上製舶來洋紙總  
クロス金文字入 正價三拾錢 郵稅八錢

明治三  
十六年  
懷中日記

全壹册毎月の初めには  
年中行事遊覽案内食品  
月令等の記事便覽例に  
依て材料豊富

- 特製舶來洋紙頗美  
金文字入紙數三百頁 正價拾八錢 郵稅四錢
- 並製舶來洋紙表紙總  
金文字入紙數三百頁 正價拾貳錢 郵稅四錢

弊館出版の當用懷中各日記の正確堅牢にして實用に適するまた多言を要せず今回は用紙印刷軋裁製裝に至る迄尙一層の改善を加へ懷中日記は從來の厚表紙の外に屈折自在の薄表紙製を案し加ふるに長方形に新製したるを以てポケット用に便なり又當用日記は新に菊判大形の分を創製し且つ當用日記には農學博士横井時敬氏の筆に成れる農家行事あり又中央氣象臺技師和田雄治君の調査に成る全國氣候一斑を掲げ各月の溫度天氣晴雨等の豫側に便す之を舊年の日記に比すれば材料の豊富記事の精確なる江湖坊間の日記と同日の論にあらず請ふ續々御愛購あらんことを

發兌元 東京日本橋區本町 博文館



— 庫 文 庭 家 —

監 學 校 學 女 族 華

著 史 女 子 歌 田 下

冊 二 十 部 全

第 十 二 編	第 十 一 編	第 十 編	第 九 編	第 八 編	第 七 編	第 六 編	第 五 編	第 四 編	第 三 編	第 二 編	第 一 編
●泰西所見家庭教育	●女子遊戯の榮	●女子作文の榮	●女子普通文典	●女子手藝要訣	●家事要訣	●母親の心	●婦女家庭訓	●料理手引	●詠歌の榮	●女子普通禮式	●女子書翰文

錢 八 稅 郵      錢 五 拾 三 冊 一 價 正

館 文 博      元 兌 發

